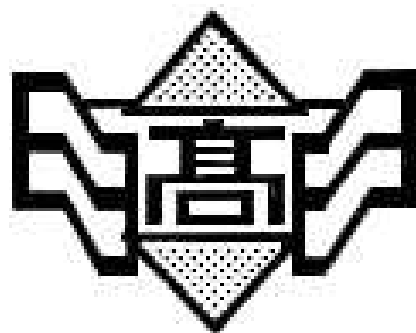


学 習 の し お り

3 年生用



2 0 2 5

宮城県宮城広瀬高等学校

目 次

| | |
|-----------------------------|----|
| 1. 可能性を広げる確かな学力のために | 1 |
| 2. 令和5年度入学生教育課程 | 3 |
| 3. 各科目の年間授業計画と学習の仕方（各教科） | |
| 国語科 | 4 |
| 数学科 | 18 |
| 保健体育科 | 38 |
| 英語科 | 50 |
| 情報商業科 | 62 |
| 地歴公民科 | 10 |
| 理科 | 26 |
| 芸術科 | 42 |
| 家庭科 | 56 |
| 4. 学習計画表（第1回～第4回定期考査） | 68 |
| 5. 考査点・評価点をまとめよう | 84 |
| 6. 私のスケジュール | 85 |

可能性を広げる確かな学力のために

宮城広瀬高等学校 教務部

「学力」は総合力です。基礎的な知識や理解力だけでなく、一生懸命取り組もうとする意欲、学ぶ努力をしようとする姿勢、創造力や表現力などは、これから皆さんが社会に出て生きていくときに必要なものです。これらは授業を中心とする高校生活の活動をとおして学んでいくことができます。高校で一生懸命勉強した人は、その後の人生においても自分の可能性を広げることができるのです。

この「学習のしおり」は、皆さんがこれから1年間、授業で学ぶそれぞれの教科・科目について、学習目的、学習内容、評価の方法と基準をまとめたものです。また、定期考査毎の学習計画表など、自分で自主的に取り組めるようになっており、皆さんの学習に役立つように工夫してあります。

1 履修について

履修とは授業に出席してきちんと授業を受けることをいいます。本校では、授業の欠席時数が標準時数（単位数×35時間）の3分の1を超えると履修が認められません。また、本校では全科目の履修を義務づけています。つまり、授業をある一定以上休んでしまうと履修が認められず、履修が認められない科目が1つでもある場合は、もう一度最初から同じ学年をやり直さなければなりません。

2 単位について

本校で設定している教科・科目は、それぞれに単位が定められています。たとえば、「政治・経済」は週3時間授業があるので、「3単位」の授業となります。

単位とは、各科目が一週間に実施される時間数のことをいいます。各科目等の1週間の授業時間が合計で31時間あるので、1年間で31単位分の授業を受けることになります。

3 単位修得と卒業について

単位修得とは、1年間きちんと授業を受けて履修の認定を受けた科目の成績が一定の基準を満たした場合、2月に行われる卒業認定会議で認定されるものです。

本校では卒業までに74単位以上を修得しないと卒業できません。もし単位修得数が基準に満たない場合は原級留置（留年）となり、もう一度3学年をやり直さなければなりませんので、十分注意して下さい。

4 定期考査と成績（評点）について

皆さんの日頃の学習の成果を確かめるために設けられているのが定期考査です。実技教科（体育・芸術等）を除くほとんどの教科・科目について、年4回、定期考査（試験）を実施します。定期考査の点数を含め、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点に基づいて総合的に評価を行い、皆さんの成績（評点）が出されます。

考査は絶対に欠席しないでください。欠席にやむをえない理由がある場合は追考査の受験を認めますが、その場合、最大でも得点の8割しか考査点として認められません。（忌引きや感染症等の出席停止、大会参加等の公認と認められる欠席の場合は、追考査の得点を10割認めます）やむをえない理由以外で考査を欠席した場合には、考査点が0点となります。また、考査等において不正行為を行った場合には、当該科目の考査点が0点となるほか、相当の処分を受けることになります。

5 欠点と再指導について

30点未満の評点が欠点（赤点）です。定期考査終了後、再指導を受けることができます。再指導は各回の定期考査終了後に実施します。再指導を受ける際には、生徒本人と保護者が連署・押印した「再指導願」を教科担任に提出してください。再指導の成果が良好であれば、評点は最高で30点とします。再指導を受けなかった場合や再指導の成果が良好でない場合は、評点は欠点のままになります。

6 評定について

年4回出される成績（評点）を平均した点数が学年成績（一年間の成績）となり、5段階の評定が決まります。評定は学年成績が80点以上の場合は「5」、65～79点は「4」、45～64点は「3」、30～44点は「2」、欠点である29点以下は「1」です。評定が「1」の場合はその科目の単位の修得は認められません。この評定は、皆さんが進学や就職するときに重要です。欠点とならないようにしてください。

7 技能審査成果の単位認定

本校では、下表に示す技能審査に合格した場合、進級・卒業のための単位として認定しています。学校で受検できるものもあるので、積極的に受けることを期待しています。

| 技能審査の種類 | | | 対応する教科・科目 | | 認定 単位数 |
|-----------------------|-------------------|----------------|-----------|--|-------------|
| 主催団体 | 名称 | | 教科 | 学習指導要領対応科目 | |
| (公財)日本英語検定協会 | 実用英語技能検定 | 2級 | 外国語 | 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ | いずれか 2単位 |
| 国際教育交換協議会日本代表部 | TOEFL | IBT 48～67点 | 外国語 | 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ | いずれか 2単位 |
| (一財)国際ビジネスコミュニケーション協会 | TOEIC L&R/S&W | 1150～ 1550点 | | | |
| (公財)日本漢字能力検定協会 | 日本漢字能力検定 | 準2級 | 国語 | 国語総合 | 1単位 |
| | | 2級 | | | 2単位 |
| (公財)日本数学検定協会 | 実用数学技能検定 | 準2級 | 数学 | 数学Ⅰ | 1単位 |
| | | 2級 | | 数学Ⅱ | 2単位 |
| (公財)全国商業高等学校協会 | 情報処理検定 | 1級 | 商業 | 情報処理 | 2単位 |
| (公財)全国商業高等学校協会 | ビジネス文書実務検定 | 1級 | | | |
| (公財)全国高等学校家庭科教育振興会 | 全国高等学校家庭科食物調理技術検定 | 2級 | 家庭 | 家庭基礎 フードデザイン | いずれか 1単位 |
| | | 1級 | | | いずれか 2単位 |
| (学)香川栄養学園 | 家庭料理技能検定 | 2級 | 家庭 | フードデザイン | 2単位 |

8 学校外学修の単位認定

「社会体験・ボランティア活動」

主体的・継続的に取り組む姿勢を評価するため、「社会体験・ボランティア活動」という学校設定科目を設けています。年度始めに活動届を提出し、学校内外のボランティア活動に参加した時間が50分×35＝1750分となるなど、本校の定める条件を満たした場合、各学年で2単位まで修得することができます。ただし、これにより認定された単位は進級及び卒業のための単位には含まれません。

宮城県宮城広瀬高等学校【令和５年度入学生教育課程】

| 単位 | 【第 1 学年】 | | | 【第 2 学年】 | | | | 【第 3 学年】 | | | | | | | | 単位 | |
|----|---------------------|------------|------------|---------------------|-------------|-------------|------------|---------------------|------------|---------------|---------------------|----------------|---------------|-----------------------|--------------|----|----|
| | | | | | | | | 理系大学／高等看護 | | | 文系大学／専修各種学校／就職 | | | | | | |
| 1 | 現代の国語 (2) | | | ※論理国語 (2) | | | | ※論理国語 (2) | | | ※論理国語 (2) | | | | 1 | | |
| 2 | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| 3 | 言語文化 (3) | | | ※文学国語 (2) | | | | ※文学国語 (2) | | | ※文学国語 (2) | | | | 3 | | |
| 4 | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | |
| 5 | 地理総合 (2) | | | ※古典探究 (2) | | | | ※古典探究 (2) | | | ※古典探究 (2) | | | | 5 | | |
| 6 | | | | | | | | | | | | | | | 6 | | |
| 7 | 公共 (2) | | | 歴史総合 (2) | | | | 政治・経済 (3) | | | 政治・経済 (3) | | | | 7 | | |
| 8 | | | | | | | | | | | | | | | 8 | | |
| 9 | 数学Ⅰ (3) | | | 数学Ⅱ (4) | | | | 体育 (2) | | | 体育 (2) | | | | 9 | | |
| 10 | | | | | | | | | | | | | | | 10 | | |
| 11 | 数学Ⅰ (3) | | | 数学Ⅱ (4) | | | | 英語コミュニケーションⅢ (4) | | | 英語コミュニケーションⅢ (4) | | | | 11 | | |
| 12 | | | | | | | | | | | | | | | 12 | | |
| 13 | 数学A (2) | | | P | 数学B (2) | 音楽Ⅱ (2) | 美術Ⅱ (2) | 英語コミュニケーションⅢ (4) | | | 英語コミュニケーションⅢ (4) | | | | 13 | | |
| 14 | | | | | | | | | | | | | | | 14 | | |
| 15 | 生物基礎 (2) | | | 化学基礎 (2) | | | | A | 数学C (2) | 論理・表現Ⅲ (2) | 論理・表現Ⅲ (2) | | | | 15 | | |
| 16 | | | | | | | | | | | | | | | 16 | | |
| 17 | 体育 (3) | | | Q | 物理基礎 (2) | 地学基礎 (2) | | B | 数学Ⅲ (4) | 発展理系数学 (4) | 地理探究 (4) | | 日本史探究 (4) | | 世界史探究 (4) | | 17 |
| 18 | | | | | | | | | | | | | | | | | 18 |
| 19 | 保健 (1) | | | 体育 (2) | | | | C | 化学 (4) | 発展文系数学 (2) | 音楽Ⅲ (2) | 美術Ⅲ (2) | 情報処理 (2) | 19 | | | |
| 20 | | | | | | | | | | | | | | 20 | | | |
| 21 | X | 音楽Ⅰ (2) | 美術Ⅰ (2) | 保健 (1) | | | | D | 化学 (4) | 応用英語 (2) | スポーツⅠ (2) | 生活と福祉 (2) | ビジネス基礎 (2) | 21 | | | |
| 22 | | | | | | | | | | | | | | 22 | | | |
| 23 | 英語コミュニケーションⅠ (3) | | | 英語コミュニケーションⅡ (4) | | | | E | 物理 (4) | 生物 (4) | 実践化学基礎 (2) | 実践地学基礎 (2) | 保育基礎 (2) | ビジネス・コミュニケーション (2) | 23 | | |
| 24 | | | | | | | | | | | | | | | 24 | | |
| 25 | 論理・表現Ⅰ (2) | | | 論理・表現Ⅱ (2) | | | | F | 物理 (4) | 生物 (4) | 実践生物基礎 (2) | フードデザイン (2) | 器楽 (2) | 情報メディアデザイン (2) | 25 | | |
| 26 | | | | | | | | | | | | | | | 26 | | |
| 27 | 情報Ⅰ (2) | | | 家庭基礎 (2) | | | | F | 物理 (4) | 生物 (4) | 実践生物基礎 (2) | フードデザイン (2) | 器楽 (2) | 情報メディアデザイン (2) | 27 | | |
| 28 | | | | | | | | | | | | | | | 28 | | |
| 29 | 総合的な探究の時間 (1) | | | 総合的な探究の時間 (1) | | | | F | 物理 (4) | 生物 (4) | 実践生物基礎 (2) | フードデザイン (2) | 器楽 (2) | 情報メディアデザイン (2) | 29 | | |
| 30 | | | | | | | | | | | | | | | 30 | | |
| 31 | 総合的な探究の時間 (1) | | | 総合的な探究の時間 (1) | | | | 総合的な探究の時間 (1) | | | 総合的な探究の時間 (1) | | | | | 31 | |
| 31 | ホームルーム活動 (0) | | | ホームルーム活動 (0) | | | | ホームルーム活動 (0) | | | ホームルーム活動 (0) | | | | | 31 | |

「学校外学修」による単位認定

ボランティア活動は各学年最大２単位、３年間で６単位までの修得が可能。インターンシップ活動は第２学年のみ１単位まで修得可能。

| | | | | | | | | | | | |
|----|------------------------------|--|------------------------------|--|--|--|------------------------------|--|--|--|----|
| 32 | 社会体験・ボランティア活動 (０)，(１)，(２) | | 社会体験・ボランティア活動 (０)，(１)，(２) | | | | 社会体験・ボランティア活動 (０)，(１)，(２) | | | | 32 |
| 33 | | | | | | | | | | | 33 |
| 34 | ＊ | | 社会体験・インターンシップ活動（０），（１） | | | | ＊ | | | | 34 |

「第３学年」における単位数及び科目選択について

| | 理系の単位数 | 文系の単位数 | | | | |
|------|--------|---------|-----|-----|-------|---|
| 国語 | 6 | 6 | 理系等 | A | 16～17 | 数学C(2)又は論理・表現Ⅲ(2)を選択 |
| | | | | B | 18～21 | 数学Ⅲ(4)又は＋発展理系数学(4)を選択 |
| | | | | E F | 26～29 | 物理(4)又は生物(4)を選択 |
| 地理歴史 | 0 | 4 | 文系等 | B | 18～21 | 地理探究(4)、日本史探究(4)、世界史探究(4)から１科目選択 |
| 公民 | 3 | 3 | | C | 22～23 | 発展文系数学(2)、音楽Ⅲ(2)、美術Ⅲ(2)、情報処理(2)から１科目選択 音楽Ⅲ(2)は第２学年で音楽Ⅱ(2)を、美術Ⅲ(2)は第２学年で美術Ⅱを履修した者が選択できる |
| 数学 | 4，6 | 0，2 | | D | 24～25 | 応用英語(2)、スポーツⅠ(2)、生活と福祉(2)、ビジネス基礎(2)から１科目選択 |
| 理科 | 8 | 0，2，4 | | E | 26～27 | 実践化学基礎(2)、実践地学基礎(2)、保育基礎(2)、ビジネス・コミュニケーション(2)から１科目選択 |
| 保健体育 | 2 | 2，4 | | F | 28～29 | 実践生物基礎(2)、フードデザイン(2)、器楽(2)、情報メディアデザイン(2)から１科目選択 |
| 芸術 | 0 | 0，2，4 | | | | |
| 外国語 | 4，6 | 6，8 | | | | |
| 家庭 | 0 | 0，2，4，6 | | | | |
| 商業 | 0 | 0，2，4，6 | | | | |



就職希望者は選択することが望ましい



福祉・保育関係の進路希望者は選択することが望ましい

分割履修科目について（※）

論理国語、文学国語、古典探究は第２学年及び第３学年における分割履修科目である。

学校設定科目について

社会体験・ボランティア活動は第１学年、第２学年及び第３学年における学校設定教科・科目である

社会体験・インターンシップ活動は第２学年における学校設定教科・科目である

発展理系数学、発展文系数学、実践化学基礎、実践生物基礎、実践地学基礎、読解英語は第３学年における学校設定科目である。

3 学年 論理国語

○学習のねらい

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。
- (3) 言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

○学習方法○

予習 ～授業の前に～

新しい単元の前に、授業を受ける準備をしましょう。授業で取り組む活動について、事前の情報収集が大切です。担当の先生の指示に従い、事前の準備を進めましょう。

授業 ～主体的に取り組む態度～

進んで筆者の主張を読み取り、学習課題に沿って考えを深めましょう。ペアワークやグループワーク、言語活動をととして、他者の考えから考察を深めたり、自身の考えを表現したりしましょう。

復習 ～ふりかえり～

その日の授業を通して、具体的に何ができるようになったのかを書き留めておきましょう。できるようにならなかったという反省も大切です。次回の課題にしていきましょう。

○評価の方法○

| 観点ごとのポイント | | | | | | | |
|----------------|---|------|-------------|----|------------|-------------|------|
| I 知識・技能 | 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付ける。 | | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。 | | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | 言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。 | | | | | | |
| 評価の場面 | 考查 | 考查以外 | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ |
| | 考查 | 小テスト | 学習状況 の観察 | 作文 | レポート 発表 | ノート プリント | 自己評価 |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | ○ | | | |
| II 思考・判断・表現 | ○ | | | ◎ | ◎ | | ○ |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ |

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|------|-------------|----|--------------------|---|------|
| 国語 | 論理国語 | 3学年 全クラス | 2 | 新編 論理国語 (大修館書店) | 新編論理国語 学習ノート(大修館書店) 新訂七版 新訂総合国語便覧(第一学習社) TOP2500 三訂版(いしいずな書店) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:達成できた B:まあまあ C:達成できなかった |
|----|-----------------------------|--|------------------|---|---|---|
| 4 | 第一 回 考 査 範 囲 | ○自己を見つめて 竹内薫「探究する力」 自分を客観的に見つめよう | 5 読む | □筆者の問題意識をとらえ、主張を読み取る。 □読み取ったことをふまえて、自分の将来について考えを深める。 | □自分自身を客観的に見つめて、自分の考えを広めたり深めたりする。 □現代社会において、将来どのような生き方をしていきたいか考える。 □自分自身を客観視し、認識を深める。 □必要な情報を集め、整理し、わかりやすくまとめる。 | A・B・C |
| 5 | | ○社会に向かって 志望先への提出書類 志望理由書を書こう 自己推薦書を書こう | 2 書く | □自分自身に関する情報を組み合わせて、効果的な自己分析シートを作成する。 | □進路活動に必要なとされる書類を知り、それぞれの書類に応じた書き方の基本を身につける。 □それぞれの書類の目的を意識した、魅力的で説得力のある文章を書く力を身につける。 | A・B・C |
| 6 | | ○思考を深める 清岡卓行「ミロのヴィーナス」 | 4 書く | □進路で必要とされる書類についての概要を知り、それぞれの目的をつかむ。 □必要な情報を集め、それぞれを適切に結びつけて、相手の印象に残る志望理由書を書く。 □自分を客観的に見つめ、材料を膨らませて、説得力のある自己推薦書を書く。 □筆者の主張と、それを支える根拠の関係を吟味する。 □論理の展開や比喩的な表現の意図をとらえる。 | □筆者の主張と、それを支える根拠の関係を批判的に検討する。 □根拠の妥当性を吟味することで、より深く物事を考える。 | A・B・C |
| 6 | 考 査 | | 1 | | | |
| 7 | 第二 回 考 査 範 囲 | ○視点を変えて 長谷川真理子 「人類の進化から考える 『心』の誕生」 石黒浩「ロボットに心はあるか」 | 8 読む | □複数の文章を比較・分析しながら読み、考えを深める。 □問題提起と答えの関係を的確にとらえ、自分の考えを持つ。 □具体例と主張の関係をとらえ、自分の考えを持つ。 | □複数の文章を比較・分析しながら読むことで、あるテーマについての考えを深める。 □一つのテーマについて、複数の視点に立って考察する姿勢を養う。 | A・B・C |
| 8 | | 複数の文章を比較し、分析しよう | 4 書く | □特定のテーマについて複数の文章を比較・分析し、考えを深める。 □複数の文章を読んで考えたことを、論点を明確にして書く。 | □特定のテーマについて複数の文章を比較・分析し、考えを深める。 □複数の文章を読んで考えたことを、論点を明確にして書く。 | A・B・C |
| 9 | | ○問いを深めて書く 問いを立てて書こう 文章を読んで書こう 統計資料を読んで書こう | 5 書く | □テーマをもとに問いを立てて小論文を書く。 □課題文の主旨を的確にとらえ、それに対する自分の主張を書く。 □統計資料のデータを適切に引用して自分の主張を書く。 | □特定の抽象的なテーマから自ら問いを立て、小論文を書く力を身につける。 □課題文や統計資料を読み取って、論点を的確に見いだし、論理的に意見を書く力を身につける。 | A・B・C |
| 9 | 考 査 | | 1 | | | |
| 10 | 第三 回 考 査 範 囲 | ○現代を考える 橋爪大三郎「政治の本質」 丸山真男「『である』ことと『する』こと」 | 12 | □筆者の主張をふまえて、現代社会についての考えを深める。 □発想のしかたや論理の展開に注意して、筆者の主張を読み取る。 □対比の役割を意識して本文を読み、筆者の主張を的確につかむ。 | □現代社会の諸問題に関心をもち、そこから自分なりの問いを立てる。 □興味をもったテーマについて探究し、問いを深める。 | A・B・C |
| 11 | | 話し合って考えを深めよう | 5 書く | □文章を読み、多様な視点からとらえ直すことで、考えを深める。 □関心をもったテーマに関連する文章や資料を読み、自分の考えや解釈を深めて、意見文にまとめる。 | □文章を読み、多様な視点からとらえ直すことで、考えを深める。 □関心をもったテーマに関連する文章や資料を読み、自分の考えや解釈を深めて、意見文にまとめる。 | A・B・C |
| 12 | 考 査 | | 1 | | | |
| 12 | 第四 回 考 査 範 囲 | ○未来に目を向けて 広井良典「人口減少社会の到来」 | 11 | □日本や世界が抱える課題に関心をもち、考えを広げたり深めたりする。 □さまざまな資料を参照しながら文章を読み、筆者の考えをとらえる。 □論理の展開に注意して筆者の主張を的確につかみ、自分の考えをもつ。 | □日本や世界が抱える課題に関する文章を読み、社会への関心を高める。 □筆者の主張をもとに自らの考えを深め、探究的な学習活動に取り組む。 | A・B・C |
| 1 | | 阿部健一「豊かさとながり」 身近な課題に取り組み、社会に提言しよう | 5 | □身近なテーマから課題を設定し、目的に応じて適切な情報を集める。 □集めた情報を整理し、説得力のある提言をまとめる。 | □身近なテーマから課題を設定し、目的に応じて適切な情報を集める。 □集めた情報を整理し、説得力のある提言をまとめる。 | A・B・C |
| 2 | | | | | | |
| 3 | 考 査 | | 1 | | | |
| 3 | | | | | | |

3 学年 文学国語

○ 学 習 の ね ら い

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。
- (2) 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

○ 学 習 方 法

1 予習 ～授業の前に～

新しい単元の前に、授業を受ける準備をしましょう。教科書の文章を一度通読し、語句の意味や漢字の読み方を調べておきましょう。共感できたところや感動した場面に線を引きながら読みましょう。

2 授業 ～主体的に取り組む態度～

登場人物の心情や場面の設定等に気をつけながら、進んで読みを深めていきましょう。必要な事項はプリントにしっかり記入しましょう。言語活動、ペアワークやグループワークを通して伝え合いながら考えを広げていきましょう。

3 復習 ～振り返り～

授業を通して何が理解できたか、その都度振り返り、書き留めましょう。読む前と後で、自分の中にどのような変化が生じたか、しっかり確認しましょう。

○ 評 価 の 方 法 ・

| 観点ごとのポイント | | | | | | | |
|----------------|--|------|---------|----|------|---------|------|
| I 知識・技能 | 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める | | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 | | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 | | | | | | |
| 評価の場面 | 考查 | 考查以外 | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ |
| | 考查 | 小テスト | 学習状況の観察 | 作文 | レポート | ノートプリント | 自己評価 |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | ○ | | | |
| II 思考・判断・表現 | ○ | | | ◎ | ○ | | ○ |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ |

※記号の凡例 (◎：特に重視する, ○：重視する)

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|------|-------------|----|----------------|--|------|
| 国語 | 文学国語 | 3学年 全クラス | 2 | 文学国語 (東京書籍) | 文学国語学習課題ノート(東京書籍) 新版 七訂 新訂国語便覧(第一学習社) TOP2500 三訂版(いづな書店) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-----------------------------|--------------------------|------------------|--|--|---|
| 4 | 第一 回 考 査 範 囲 | 随筆1 ・国語から旅立って | 5 読む | 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方・感じ方・考え方を深めること。 | 設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方・感じ方・考え方を深めることができる。 | A・B・C |
| 5 | | 小説1 ・檸檬 | 8 読む | 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について理解すること。 | 文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について理解できる。 | A・B・C |
| 6 | | 言語活動 小説の人称を置き換える | 4 書く | 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるように工夫すること。 | 文体の特徴や修辞の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な文章になるように工夫することができる。 | A・B・C |
| 6 | 考 査 | | 1 | | | |
| 7 | 第二 回 考 査 範 囲 | 詩歌 ・帰途 ・金剛の露一俳句抄 | 6 読む | 作品に現れているものの見方、感じ方、考え方を捉えと共に、作品が成立した背景や他の作品などとの関係性を踏まえ、作品の解釈を深めること。 | 作品に現れているものの見方、感じ方、考え方を捉えと共に、作品が成立した背景や他の作品などとの関係性を踏まえ、作品の解釈を深めることができる。 | A・B・C |
| 8 | | 随筆1 ・空っぽの瓶 | 7 読む | 文章の種類を踏まえて、内容や構成・展開・描写の仕方などを的確に捉えること。 | 文章の種類を踏まえて、内容や構成・展開・描写の仕方などを的確に捉えることができる。 | A・B・C |
| 9 | | 言語活動 ・アンソロジーを作る | 4 書く | テーマを設定し、詩文を収集・比較することで、言語表現の多様性を味わいつつ、当該テーマに対する理解を深める。 | テーマを設定し、詩文を収集・比較することで、言語表現の多様性を味わいつつ、当該テーマに対する理解を深めることができる。 | A・B・C |
| 9 | 考 査 | | 1 | | | |
| 10 | 第三 回 考 査 範 囲 | 評論 ・演技する「私」 | 7 読む | 作品の内容や解釈を踏まえ、人間・社会・自然などに対するものの見方・感じ方・考え方を深めること。 | 作品の内容や解釈を踏まえ、人間・社会・自然などに対するものの見方・感じ方・考え方を深めることができる。 | A・B・C |
| 11 | | 小説1 ・コンビニの母 | 6 読む | 文章の種類を踏まえて、内容や構成・展開・描写の仕方などを的確に捉えること。 | 文章の種類を踏まえて、内容や構成・展開・描写の仕方などを的確に捉えることができる。 | A・B・C |
| 11 | | 言語活動 ・映画と原作を比較する | 4 読む | 他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について理解すること。 | 他の作品と比較するなどして、文体の特徴や効果について理解できる。 | A・B・C |
| 12 | 考 査 | | 1 | | | |
| 1 | 第四 回 考 査 範 囲 | 小説3 ・蠅 | 9 読む | 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈すること。 | 語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈することができる。 | A・B・C |
| 2 | | 言語活動 ・さまざまな資料を調べて発表する | 6 書く | 読み手や聞き手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫すること。 | 読み手や聞き手の関心が得られるよう、文章の構成や展開を工夫することができる。 | A・B・C |
| 2 | 考 査 | | 1 | | | |
| 3 | | | | | | |

3 学年 古典探究

○学習のねらい○

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を育成する。

- (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。
- (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方・感じ方・考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできる。
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。

○学習方法○

予習 ～授業の前に～

新しい単元の前に、授業を受ける準備をしましょう。古典探究の授業では、ノートづくりが大切です。担当の先生の指示に従い、予習ノートを作ります。

授業 ～主体的に取り組む態度～

古典探究では、言葉に対する正しい理解が大切です。語句や文法への理解を深めていくとともに、作品や文章に表れているものの見方・感じ方を捉え、内容の探究的解釈を深めていきましょう。

復習 ～ふりかえり～

その日の授業の中で学習した語句や文法を復習しましょう。特に新しく触れた語句はしっかりと身に付け、次回からの内容の解釈に活用できるようにしていきましょう。

○評価の方法○

| 観点ごとのポイント | | | | | | | |
|----------------|---|------|-------------|------------|----|-------------|------|
| I 知識・技能 | 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深める。 | | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方・感じ方・考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりする。 | | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わる態度を養う。 | | | | | | |
| 評価の場面 | 考查 | 考查以外 | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ |
| | 考查 | 小テスト | 学習状況 の観察 | レポート 発表 | 作文 | ノート プリント | 自己評価 |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | ○ | | | |
| II 思考・判断・表現 | ○ | | | ◎ | ○ | | ○ |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ |

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|------|-------------|----|-------------------|---|------|
| 国語 | 古典探究 | 3学年 全クラス | 2 | 新編 古典探究 (東京書籍) | 新編古典探究 学習課題ノート(東京書籍) 新訂七版 新訂総合国語便覧(第一学習社) 古典の手引き(いしいずな書店) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:達成できた B:まあまあ C:達成できなかった |
|----|-------------|---|------------------|--|--|---|
| 4 | 第一回 考查範囲 | ○ 史記を読む - 項羽と劉邦、継続学習 - 「四面楚歌」 「項王自刎」 | 10 | 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開・表現の特色について評価すること。 | 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開・表現の特色について評価することができる。 | A・B・C |
| 5 | | ○ 枕草子 「ありがたきもの」 「中納言参り給ひて」 「雪のいと高う降りたるを」 | 7 | 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。 | 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 | A・B・C |
| 6 | | ○ 伊勢物語 「初冠」 「東下り」 | 10 | 古典の作品や文章などに表れているものの見方・感じ方・考え方を踏まえ、人間・社会・自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。 | 古典の作品や文章などに表れているものの見方・感じ方・考え方を踏まえ、人間・社会・自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 | A・B・C |
| | 考 査 | | 1 | | | |
| 7 | 第二回 考查範囲 | ○ 小話一三編 「宋襄の仁」 「燕雀安ぞ鴻鵠の志を知らんや」 | 4 | 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすること。 | 古典の作品や文章を多面的・多角的な視点から評価することを通して、我が国の言語文化について自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 | A・B・C |
| 8 | | | | | | A・B・C |
| 9 | | | | | | A・B・C |
| | 考 査 | | 1 | | | |
| 10 | 第三回 考查範囲 | ○ 歴史物語を読む 「大鏡」道真の左遷 | 6 | 古典の作品や文章などに表れているものの見方・感じ方・考え方を踏まえ、人間・社会・自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。 | 古典の作品や文章などに表れているものの見方・感じ方・考え方を踏まえ、人間・社会・自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 | A・B・C |
| | | ○ 古詩を味わう 「飲酒」「子夜呉歌」 | 5 | 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方・感じ方・考え方を深めること。 | 関心をもった事柄に関連する様々な古典の作品や文章などを基に、自分のものの見方・感じ方・考え方を深めることができる。 | A・B・C |
| 11 | | ○ 史記を味わう 「刎頸の交わり」 | 6 | 必要に応じて書き手の考えや目的・意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開・表現の特色について評価すること。 | 必要に応じて書き手の考えや目的・意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開・表現の特色について評価することができる。 | |
| | 考 査 | | 1 | | | |
| 12 | 第四回 考查範囲 | ○ 源氏物語 「光源氏の誕生」 | 10 | 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察すること。 | 作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察することができる。 | A・B・C |
| 1 | | ○ 中国の思想 儒家の思想 | 5 | 古典の作品や文章などに表れているものの見方・感じ方・考え方を踏まえ、人間・社会・生き方などに対する自分の考えを広げたり深めたりすること。 | 古典の作品や文章などに表れているものの見方・感じ方・考え方を踏まえ、人間・社会・生き方などに対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。 | A・B・C |
| 2 | | ○ 俳諧に親しむ 近世俳句抄 芭蕉 | 3 | 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすること。 | 古典の作品や文章について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりすることができる。 | A・B・C |
| | 考 査 | | 1 | | | |
| 3 | | | | | | |

3年 政治・経済

○ 学 習 の ね ら い

社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成する。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

あらかじめ教科書や資料集に目を通し、概要をつかんでおく。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ①授業に集中し、常に自分の知っている知識との関連性について考えること。
- ②考えたこと、調べたこと、気付いたことなども積極的に発言したり、記録すること。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ①授業内容を振り返り、自分なりにまとめ、整理しておくこと。
- ②問題集に取り組み、自身の知識の定着をはかること。

○ 評 価 の 方 法

| 観点ごとのポイント | | | | | | | | |
|----------------|---|------|---------|------|----|-----|------|---------|
| I 知識・技能 | 社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 | | | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を養う。 | | | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚などを深める。 | | | | | | | |
| 評価の場面 | 考查 | 考查以外 | | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| | 考查 | 小テスト | 学習状況の観察 | レポート | 課題 | ノート | 自己評価 | グループワーク |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | ○ | | | | |
| II 思考・判断・表現 | ○ | | | ◎ | ○ | | ○ | ◎ |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | | | ○ | ◎ | ○ |

※記号の凡例 (◎：特に重視する、○：重視する)

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|-------|------|----|------------|-------------------|------|
| 公民 | 政治・経済 | 3年必修 | 3 | 政治・経済(数研) | スタディノート 政治・経済(数研) | 105 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 | 到達目標 | 自己評価 |
|----|-------------------------|--|------------------|--|--|---------------------------------|
| | | | | ※どのような内容を学ぶのか | ※どのようなことを身に付けたいか | A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
| 4 | 第一回 考 査 範 囲 | 第1章 現代の政治 第1節 民主政治の基本原則と展開 1 民主政治とその基本原則 2 民主政治の展開 3 政治体制の比較 第2節 日本国憲法と基本的人権 1 日本国憲法の基本的生活 2 基本的人権の保障 3 日本国憲法の平和主義 第3節 日本の政治機構 1 国会のしくみと役割 2 内閣と行政機構 3 裁判所のしくみと人権保障 | 26 | 民主政治の基本原則について 法の支配や立憲主義の考え方 世界の主な政治体制について | 民主政治の基本原則について多角的に考察できる 憲法、や子組の権利について考察できる 政治体制のあり方について比較し、考察できる | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 5 | | | | 日本国憲法と大日本帝国憲法を比較し、理解する 基本的人権の保障について 日本の平和主義について | それぞれの憲法のあり方について考察できる 自由権など基本的人権について理解を深められる 我が国の安全保障と防衛について理解を深められる | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 6 | | | | 議会制民主主義と、国会について 内閣と行政機構のあり方について 裁判所のしくみと人権保障について | 国会の立法件について多角的に考察できる 議院内閣制における内閣のあり方について考察できる 個人の尊厳と法の下の平等を求めることを考察できる | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 6 | 考 査 | | 1 | | | |
| 7 | 第二回 考 査 範 囲 | 4 地方自治のしくみと住民生活 第4節 政治参加と民主政治の課題 1 戦後政治と政党 2 選挙制度のしくみ 3 世論と情報化社会 第2章 現代の経済 第1節 経済活動の意義と経済体制 1 資本主義経済の発展と変容 2 経済活動の主体 第2節 現代経済のしくみ 1 市場経済のしくみ | 25 | 地方自治のあり方について | 地方自治の本旨について理解できる | A・B・C |
| 8 | | | | 戦後政治と政党について 選挙制度のしくみについて 世論と情報化社会について | 55年体制の成立の崩壊について考察できる 選挙制度の課題について考察できる マスメディアなどが世論形成に果たす役割を考察する | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 9 | | | | 資本主義の発展と変容について 経済主体と経済循環について | 資本主義の発展と変容について多角的に考察できる 経済活動の主体について多面的に考察できる | A・B・C A・B・C |
| 10 | 第三回 考 査 範 囲 | 2 国民所得と経済成長 3 金融のしくみと働き 4 財政のしくみと租税 第3節 日本経済と福祉の向上 1 戦後日本経済のあゆみ 2 中小企業と農業・食料 3 公害防止と環境保全 | 25 | 市場の働きと仕組みについて | 市場経済の機能と限界について考察できる | A・B・C |
| 11 | | | | 国民経済の大きさと経済成長について 金融の働きと仕組みについて 財政の働きと仕組み及び租税の意義について | 経済活動と福祉向上との関連について考察できる 金融を通じた経済活動の活性化について考察できる 持続可能な財政及び租税のあり方について考察できる | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 12 | | | | 戦後日本経済の歩みについて 中小企業と農業・食料について 公害防止と環境保全について | 戦後日本経済のあゆみについて理解できる 産業構造の変化と起業、食料の安定供給などについて考察できる 公害防止と環境保全について理解できる | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 12 | 考 査 | | 1 | | | |
| 1 | 第四回 考 査 範 囲 | 4 消費者問題と消費者保護 5 労使関係と労働市場 6 少子高齢社会と社会保障 第3章 現代の国際社会 第1節 国際政治の動向 第2節 国際経済の動向 第3節 国際社会の課題と日本の役割 | 25 | 消費者問題と消費者保護について 労使関係と労働市場について 少子高齢社会と社会保障について | 消費者問題と消費者保護のついて理解できる 労使関係と労働市場について理解できる 少子高齢社会と社会保障について理解できる | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 2 | | | | 国際社会と国際法について | 国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について考察し表現できる | A・B・C |
| 3 | | | | 貿易と国際収支、国際協調について 軍縮の問題、地域紛争、人種民族問題について | 経済活動がグローバル化した中で、国益と地球規模での強調が求められることを理解できる 社会的な見方・考え方を同号的に働かせ、他社と共同して持続可能な社会の形成が求められる国際社会の諸課題について考察できる | A・B・C |
| 3 | 考 査 | | 1 | | | |

3年 地理探究

○ 学 習 の ね ら い

3学年で学ぶ地理探究では、1学年の地理総合で身につけた資質や能力を基に、系統地理的考察と地誌的考察を通し、現代世界に求められる日本の国土像を探究することを目的とする。

上記の目的から、社会的な事象を地理的見地から考察し、課題追究や問題解決についての活動を通して、広い視野に立ち、国際社会で主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育成することをねらいとする。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

授業内に提示される現代社会の地理的諸問題について考察できるよう主体的に授業に臨む。GISを活用しながら授業を展開していくので、端末の準備をして授業に臨むこと。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

電子黒板より提示された事項の整理は各自が行う。授業前に自己整理用の補助的資料は各時間に配布する。また、GISを活用する場面（特に地理院地図）が増えるので端末を準備する。人間と自然環境の相互作用、空間的相互依存作用の学習についてはデータと地理的空間把握（位置、分布、場所）が常に付随して問われるものと準備すること。その上で協働的学習における発表などでは、引用データや出典元、参考文献などが提示できるよう高等教育の場でも通用する常識を求める。

3 授業後 ～ 復習 ～

ノート・プリントは常に自分の手法で整理する。プリントの整理もデータ整理の能力として評価の対象とする。教科書や資料集は目次なしで使いこなせるものとし、データや出典元の明示も地理的技法の1つとして評価する。

○ 評 価 の 方 法

考查は学習内容が定着しているかを確認するものである。定期考查の割合は70%以上を原則として、下記の観点に基づいて総合的に評価を行う。

| 観点ごとのポイント | | | | | | | | |
|----------------|--|------|--------|-------|-------|----|------|---------|
| 知識・技能 | ○諸資料から地理に関する地理に関する知識を整理し、情報システムを用いて効果的に収集できる。また同時にそのデータを読み取り、まとめる技能。 | | | | | | | |
| 思考・判断・表現 | ○地理的に概念等を活用して多面的多角的に考察して、課題については解決に向け構想できる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 | | | | | | | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ○諸事象の規則性、傾向性や地域の構造や変容について主体的に追求する態度。よりよい社会の実現を視野に探究する態度。 | | | | | | | |
| 評価の場面 | 考查 | 考查以外 | | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| | 考查 | 小テスト | 学習状況観察 | 授業内作業 | GIS活用 | 課題 | 自己評価 | グループワーク |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | ○ | ○ | | | |
| II 思考・判断・表現 | ○ | | | ◎ | ○ | | ○ | ◎ |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ○ | ○ |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|------|------|------|----|------------------------------|--|------|
| 地理歴史 | 地理探究 | 3年選択 | 3 | 新詳地理探究(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院) | 新詳 地理探究 演習ノート(帝国書院) 最新地理図表 GEO(第一学習社) | 105 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 | 到達目標 | 自己評価 |
|----|-----------------------------|--|------------------|---|---|-------------------------|
| | | | | ※どのような内容を学ぶのか？ | ※どのようなことを身に付けたいか。 | A:理解できた |
| | | | | | | B:まあまあ |
| | | | | | | C:理解できなかった |
| 4 | 第一 回 考 査 範 囲 | 序節 地球環境と人間 1節 地形 2節 気候 3節 日本の自然環境 4節 地球環境問題 | 26 | 1 地形の成因と地球表面の起伏 2 地球規模の大地形 3 河川流域と海岸にみられる小地形 4 そのほかの特徴的な小地形 1 気候の成り立ち 2 気候と生態系 3 世界の気候区分 4 さまざまな気候帯 5 気候変動と異常気象 1 日本の地形 2 日本の気候 3 開発に伴う災害と防災・減災の取組 | ・地球規模の地形には、どのような特徴や成因があるか理解している。【知識・技能】 ・地形の特徴や成因を多面的・多角的に考察・表現できる【思考・判断・表現】 ・地形を主体的に追究しようとしている。【主体】 地形と同様 ①日本の自然災害について理解している。 ②自然災害の特徴を多角的に考察表現できる。 ③震災を経験した人間として追究しようとした。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 5 | | | | | | |
| 6 | | | | | | |
| 6 | 考 査 | | 1 | | | |
| 7 | 第二 回 考 査 範 囲 | 系統学習 1節 農林水産業 2節 食料問題 3節 エネルギー・鉱産資源 | 26 | 1 農業の発達と分布 2 農業の地域区分 3 現代世界の農業の現状と課題 4 日本の農業の現状と課題 5 世界と日本の林業 6 世界と日本の水産業 1 世界の食料問題 2 日本の食料問題 1 エネルギー資源の種類と利用 2 化石燃料の分布と利用 3 電力の利用 4 鉱産資源の種類と利用 | ・農林水産業・食糧問題の傾向や規則性を理解している。【知識・理解】 ・社会条件の変容で農林水産業・食糧問題には、どのような規則性がみられるか多面的・多角的に考察表現できる。【思考・判断・表現】 ・農林水産業・食糧問題の課題を追究する【主体】 農林水産業・食糧問題と同様 | A・B・C A・B・C |
| 8 | | | | | | |
| 9 | | | | | | |
| 9 | 考 査 | | 1 | | | |
| 10 | 第三 回 考 査 範 囲 | 系統学習 4節 資源・エネルギー問題 5節 工業 6節 第3次産業 | 25 | 1 資源・エネルギーをめぐる課題 2 日本の資源・エネルギー問題 1 工業の発達と種類 2 工業の立地 3 世界の工業地域 4 現代世界の工業の現状と課題 5 工業の知識産業化とスタートアップ企業 6 日本の工業 1 経済発展と第3次産業 2 商業の現状と変化 3 商業以外のさまざまな第3次産業 | ・工業の発展と、現在の工業分野や中心地域について理解している。【知識・技能】 ・工業の発展と分野、地域について多面的多角的に考察と表現できる【思考・判断・表現】 ・工業から、持続可能な社会の実現を追究しようとしている。【主体】 資源・第3次産業も同様 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 11 | | | | | | |
| 12 | | | | | | |
| 12 | 考 査 | | 1 | | | |
| 1 | 第四 回 考 査 範 囲 | 系統学習 1節 交通・通信 2節 観光 3節 貿易と経済圏 1節 人口 2節 人口問題 3節 村落と都市 4節 都市・居住問題 1節 衣食住 2節 民族・宗教と民族問題 3節 国家の領域と領土問題 | 24 | 1 世界を結ぶ交通 2 日本の交通の特徴 3 情報通信の発達 4 余暇の拡大と観光 5 世界の貿易と格差 6 自由化と経済連携 1 世界の人口問題 2 日本の人口問題 3 集落の成り立ち 2 村落の形態と機能 3 都市の成立と形態・機能 4 都市圏の拡大と都市の構造 1 世界の民族・言語 2 世界の宗教 3 さまざまな民族問題 4 多文化の共生に向けた取り組み | ・それぞれの各学習内容にそって、それらの事象の空間的な規則性、傾向性や、問題の現状や要因、解決に向けた取り組みなどについて理解している【知識・理解】 ・それぞれの学習内容に関わる諸事象について、特徴に着目し、主題を設定し、空間的な規則性、傾向性、関連する地球的課題の要因や動向などを多面的・多角的に考察し、表現できる【思考・判断・表現】 ・各学習内容について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究している。【主体】 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 2 | | | | | | |
| 2 | | | | | | |
| 2 | 考 査 | | 1 | | | |
| 2 | | 地誌学習 序節 地域の考察方法 | | 各自選択 | ・対象地域について、主題図や資料を踏まえて知識を整理する技能がある。 ・主題を設定し、対象地域を多面的・多角的に考察し、表現できる。 ・課題を主体的に追究しようとしている。 | |
| 2 | | | | | | |

3年 日本史探究

○ 学 習 の ね ら い

日本の歴史の展開に関わるさまざまな事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代の推移、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる諸課題を把握し、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

授業開始前に、ノート・教科書・資料集など必要な教材を準備し、前回の授業の内容を確認する。さらに、教科書等に目を通し本時の学習課題を確認しておく。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ①授業に集中し、常に自分の知っている知識との関連性について考えること。
- ②考えたこと、調べたこと、気付いたことなども積極的に発言したり、記録すること。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ①授業内容を振り返り、自分なりにまとめ、整理しておくこと。
- ②問題集に取り組み、自身の知識の定着をはかること。

○ 評 価 の 方 法

考查は学習内容が定着しているかを確認するものです。定期考查の結果を踏まえながら、下記の観点に基づいて総合的に評価を行います。

| 観点ごとのポイント | | | | | | | | |
|----------------|---|------|---------|------|----|--------|------|---------|
| I 知識・技能 | 日本の歴史に関わる諸事象について、それが生まれた背景やその特色に関する知識や、諸資料から適切かつ効果的に読み取り、様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 | | | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 資料を活用し、各時代の歴史の展開について主題を設定し、事象の意味や意義、関係性などを考察して、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して多面的・多角的に考察したり、それを基に議論したりすることができる。 | | | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | 社会的事象に対し歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者に必要な公民としての資質・能力を有している。 | | | | | | | |
| 評価の場面 | 考查 | 考查以外 | | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| | 考查 | 小テスト | 学習状況の観察 | レポート | 課題 | ノートワーク | 自己評価 | グループワーク |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | ○ | | | | |
| II 思考・判断・表現 | ○ | | | ◎ | ◎ | | ○ | ○ |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ | ◎ |

※記号の凡例 (◎：特に重視する、○：重視する)

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|------|-------|------|----|--------------|-----------------------------------|------|
| 地理歴史 | 日本史探究 | 3年選択 | 4 | 高校日本史(山川出版社) | 図説 日本史通覧(帝国書院) 高校日本史ノート(山川出版社) | 140 |

年間授業計画

| 月 | 考査 | 単元(授業展開) | 授業 時数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-------------|--|----------|---|---|--|
| 4 | 第一回 考査範囲 | 第Ⅰ部原始・古代 第1章日本文化のあけぼの | 34 | ・日本文化の始まり ・農耕の開始 ・古墳文化の展開 ・飛鳥の朝廷 | ・狩猟採取を中心とした時代の人々の生活を考察する ・農耕の開始は人々の生活にどのような影響を及ぼしたのかを考察する ・古墳の築造と統一政権の誕生との関係を考察する ・東アジア情勢の変化とヤマト政権の関係を考察する | A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C |
| 5 | | 第3章律令国家の形成 | | ・律令国家への道 ・平城京の時代 ・律令国家の文化 ・律令国家の変容 | ・律令国家の成立過程を考察する ・律令制が奈良の都でどのように展開されたかを考察する ・律令制を導入した日本に花開いた文化を考察する ・律令制が定着する過程でどのような変容を上げていったかを考察する | A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C |
| 6 | | 第4章貴族政治の展開 | | ・摂関政治 ・国風文化 ・荘園の発達と武士団の成長 | ・地方政治の変化と摂関政治との関係を考察する ・摂関政治の時代に展開した国風文化の成り立ちと特徴を考察する ・荘園の発達と武士団の成長の関係を考察する | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 6 | 第二回 考査範囲 | 第Ⅱ部中世 第5章院政と武士の進出 | 34 | ・院政の始まり ・院政と平氏政権 ・鎌倉幕府の成立と展開 ・モンゴル襲来と幕府の衰退 ・鎌倉文化 | ・摂関政治が衰え院政が成立した過程を考察する ・院政が展開するなかで平氏が台頭した要因を考察する ・本格的な武家政権である鎌倉幕府の成立過程とその特徴を考察する ・鎌倉幕府の成立によって武士のあり方がどのように変化したかを考察する ・鎌倉幕府体制のもとで誕生した文化の傾向や特徴を考察する | A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C |
| 7 | | 第7章武家社会の成長 | | ・室町幕府の成立 ・下剋上の社会 ・室町文化 ・戦国の動乱 | ・自立性を高めた守護と室町幕府の関係を考察する ・一揆や下剋上が発生した社会の背景を考察する ・室町時代の文化と政治や経済の関係を考察する ・戦国大名による領国支配の特徴とその背景を考察する | A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C |
| 8 | | 第Ⅲ部近世 第8章近世の幕開け | | ・天下人の登場 ・豊臣政権と桃山文化 | ・統一政権の成立と世界やアジアとの関係を考察する ・豊臣政権の政策と近世社会の始まりとの関わりを考察する | A・B・C A・B・C |
| 9 | 第三回 考査範囲 | 第9章幕藩体制の成立と展開 | 34 | ・江戸幕府の成立 ・江戸初期の外交と文化 ・幕政の安定 ・経済の発展 ・元禄文化 | ・社会の安定をもたらした幕藩体制のしくみを考察する ・江戸幕府の対外政策と幕藩体制との関わりを考察する ・安定した秩序が生まれたことで、社会がどのように変化したかを考察する ・幕藩体制の安定と経済発展の関係を考察する ・幕藩体制の成熟がどのような文化をもたらしたかを考察する | A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C |
| 10 | | 第10章幕藩体制の動揺 | | ・幕政の改革と宝暦・天明期の文化 ・江戸幕府の衰退 ・化政文化 | ・幕藩体制に生じた社会の矛盾と幕府がとった対応策を考察する ・幕藩体制衰退の要因を幕府を苦しめた内憂外患から考察する ・三都の繁栄を背景に最盛期を迎えた町人文化の内容を考察する | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 11 | | 第Ⅳ部近代・現代 第11章近世から近代へ 第12章近代国家の成立 第13章近代国家の展開と国際関係 第14章近代の産業と生活 | | ・開国とその影響 ・幕府の滅亡と新政府の発足 ・明治維新 ・立憲国家の成立 ・大陸政策の展開 ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制 ・近代産業の発展 | ・開国が幕藩体制に与えた影響を考察する ・幕末の混乱の中でなぜ幕府は滅亡し、あらたな政府が成立したのかを考察する ・明治政府が行った改革とその意味を考察する ・明治時代の日本がなぜ立憲国家をめざしたのかを考察する ・条約改正や相次ぐ対外戦争がどのように日本を変えたのかを考察する ・列強の一角となった日本が大正時代にどのような道を選択したかを考察する ・日本に根づいた政党政治の慣行とその政策の特徴を考察する ・日本が果たした産業の近代化の内容とその問題点を考察する | A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C |
| 12 | 第四回 考査範囲 | 第15章恐慌と第二次世界大戦 | 34 | ・近代の文化 ・市民生活の変容と大衆文化 ・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦 ・占領下の改革と主権の回復 ・55年体制と高度経済成長 ・現代の情勢 | ・欧米からの導入された文化や技術によって社会や文化がどのように変化したかを考察する ・大正から昭和初期にかけてすすんだ都市化と大衆化について考察する ・1920年代から続く不況が日本の内政・外交に与えた影響を考察する ・軍部の台頭によって政党政治と協調外交がなぜ崩壊したのかを考察する ・なぜ日本はアジア太平洋戦争へと突きすすんだのか、政治や外交・国民生活から考察する ・占領政策は日本の政治・経済・社会をどのように変えたのかを考察する ・冷戦体制下の政治と高度経済成長は、国民生活をどのように変えたのだろうか ・石油危機を経て多極化する国際社会と国内の変化を振り返る | A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C |
| 1 | | 第16章現代の世界と日本 | | | | |
| 2 | | 考査 | 1 | | | |

3年 世界史探究

○学習のねらい

世界史探究は、世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解させ、文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察することによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養成することを目標としている。

○学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

あらかじめ教科書や資料集に目を通し、学習課題を確認し概要をつかんでおく。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ①授業に集中し、常に自分の知っている知識との関連性について考えること。
- ②考えたこと、調べたこと、気付いたことなども積極的に発言したり、記録すること。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ①授業内容を振り返り、自分なりにまとめ、整理しておくこと。
- ②問題集に取り組み、自身の知識の定着をはかること。

○評価の方法

考查は学習内容が定着しているかを確認するものです。定期考查の割合は70％以上を原則として、下記の観点に基づいて総合的に評価を行います。

| 観点ごとのポイント | | | | | | | | |
|----------------|---|------|---------|------|----|--------|------|---------|
| 知識・技能 | ○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解している。 ○諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけている。 | | | | | | | |
| 思考・判断・表現 | ○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりすることができる。 | | | | | | | |
| 主体的に学習に取り組む態度 | ○世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、見通しを持って学習に取り組み、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。 | | | | | | | |
| 評価の場面 | 考查 | 考查以外 | | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| | 考查 | 小テスト | 学習状況の観察 | レポート | 課題 | ノートワーク | 自己評価 | グループワーク |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | ○ | | | | |
| II 思考・判断・表現 | ○ | | | ◎ | ○ | | ○ | ◎ |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ | ○ |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|------|-------|----------|----|--------------|--|------|
| 地理歴史 | 世界史探究 | 3年 選択 | 4 | 高校世界史(山川出版社) | 最新世界史図説タペストリー(帝国書院) 高校世界史ノート(山川出版社) | 140 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-------------|---|------------------|--|---|---|
| 4 | 第一回 考查範囲 | 世界史への扉 第Ⅰ部 序章 先史の世界 1章オリエントと地中海世界 2章アジア・アメリカの古代文明 | 34 | ・身近な生活と世界の歴史 ・人類の進化 ・古代オリエント、ギリシア、ローマ世界 | ・事例より、日常生活から世界史を読み取ることが できることを理解する。 ・人類の進化の過程と文明の誕生を理解する。 ・西アジア、地中海世界の古代文明の基礎的知識 とこれらの世界の形成過程を理解する。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 5 | | 3章内陸アジア世界・ 東アジア世界の形成 | | ・インド、東南アジア、中国、 南北アメリカ文明 ・東アジア、内陸アジア世界 | ・南アジア、東南アジア世界の古代文明の基礎的 知識とこれらの世界の形成過程を理解する。 ・東アジアと内陸アジア世界の古代世界の基礎的 知識とこれらの世界の形成過程を理解する。 | A・B・C A・B・C |
| 6 | | 第Ⅱ部 4章イスラーム世界の 形成と発展 | | ・イスラーム世界の形成と展開 | ・イスラーム世界の形成と拡大の過程を理解する。 | A・B・C |
| | 考査 | | 1 | | | |
| 7 | 第二回 考查範囲 | 5章ヨーロッパ世界の形成と発展 | 34 | ・ビザンツ帝国と東ヨーロッパの動向、 西ヨーロッパ封建社会の成立と変動 ・内陸アジア諸民族と中国王朝との興亡 | ・キリスト教とヨーロッパ世界の形成と展開の過程 を理解する。 ・内陸アジア諸民族が諸地域世界の交流と再編に 果たした役割を理解する。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 8 | | 第Ⅲ部 7章アジア諸地域の繁栄 | | ・西アジア、南アジアのイスラーム諸帝国 明、清帝国と東アジア世界 | ・16～18世紀のアジア諸地域の特質と、その中 での日本の位置づけを理解する。 | A・B・C |
| 9 | | 8章近世ヨーロッパ世界の形成 | | ・ルネサンス、宗教改革、主権国家体制 の成立 | ・16、17世紀のヨーロッパ世界の特質を理解する。 | A・B・C |
| | 考査 | | 1 | | | |
| 10 | 第三回 考查範囲 | 9章近世ヨーロッパ世界の展開 | 34 | ・重商主義、啓蒙専制主義、ヨーロッパ 諸国の海外進出 ・産業革命、アメリカ独立革命、 フランス革命 | ・ヨーロッパ諸国の世界各地への進出と大西洋 世界の形成について理解する。 ・産業革命と資本主義の萌芽、市民革命と 近代市民社会の成立について理解する。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 11 | | 11章欧米における 近代国民国家の発展 | | ・ウィーン体制と民族主義、 南北アメリカの発展 | ・ヨーロッパにおける国民国家形成の動向とアメリカ 諸国の独立と世界資本主義の形成を理解する。 | A・B・C |
| | | 12章アジア諸地域の動揺 | | ・ヨーロッパ諸国のアジア進出と オスマン、ムガル、清帝国 | ・ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の 動揺と改革について理解する。 | A・B・C |
| | 考査 | | 1 | | | |
| 12 | 第四回 考查範囲 | 第Ⅳ部 13章帝国主義と アジアの民族運動 14章二つの世界大戦 | 34 | ・帝国主義と列強の世界分割、 アジア諸国の改革と民族運動 ・二つの世界大戦、ロシア革命、 ファシズム、世界恐慌と資本主義の変容 | ・帝国主義諸国の抗争とアジア、アフリカの対応 等、20世紀初期までの世界の動向を理解する。 ・二つの大戦とその間に生じた出来事から、20世紀 前半の世界の動向について理解する。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 1 | | 15章冷戦と第三世界の独立 | | ・冷戦の成立と展開、アジア、アフリカ 諸国の独立と多極化 | ・冷戦の展開、多極化等の1960年代までの時代の 特質を理解する。 | A・B・C |
| | | 16章現在の世界 | | ・経済のグローバル化、冷戦の終結、 地域統合の進展と地域紛争 | ・冷戦終結後今日までの時代の特徴を理解する。 | A・B・C |
| | 考査 | | 1 | | | |
| 2 | | | | | | |

3年 数学C

○ 学 習 の ん ら い

これまでに学んだ数学をさらに深く学習するとともに、ベクトル、複素数平面、式と曲線についての理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

予習とは、「分かるところと分からないところをチェックする」ことが基本です。わずかな時間しか予習時間がとれない場合でも、次の授業で学習すると思われる箇所全体に目を通しておくことは最低限必要です。

予習の段階で教科書の練習問題をすべて解く必要はありません。それよりも、前回学んだことをしっかり思い出し、次の授業で必要な知識を確認しておきましょう。

2 授 業 中 ～ 授業中の注意点 ～

何が分かって何が分からないのかの区別をしっかりとすること。理解していなくても先生の説明通り問題を解いて正解することもあります。真の実力とはいえません。理解できた、という実感が大切です。

ノートのとり方も工夫が必要です。板書事項だけではなく、先生の発言で大事なことはしっかりメモし、後から見ても十分活用できるノート作りを心掛けましょう。

3 授 業 後 ～ 復習 ～

授業で分からなかったところをそのままにしておくと次の授業も当然分かりません。時間を見つけて先生に質問しましょう。やる気のある生徒は大歓迎です。

数多く問題を解くことも大事ですが質も重視してください。進学を目指す者は一問にじっくり時間をかけて解く機会も必要です。考える習慣は、のちに大きな力となります。

○ 評 価 の 方 法

考査は学習した内容がしっかりと定着しているか確認するものです。教科書の内容を十分理解した上で、問題集や課題プリント等にも意欲的に取り組み、実力を確かなものにして臨んでください。

定期考査の割合は70％程度を原則として、下記の観点に基づいて100点満点で総合的に評価を行います。

| 観点ごとのポイント | |
|----------------|--|
| I 知識・技能 | 各章の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数 学化して数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けてい る。 |
| II 思考・判断・表現 | 大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察す る力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察 する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身 に付けている。 |
| III 主体的に取り組む態度 | 数学を活用し、数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返っ て考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。 |

| 評価の場面 | 考査 | 考査以外 | | | | |
|----------------|----|------|-------------|----|-----|------|
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
| | 考査 | 小テスト | 学習状況 の観察 | 課題 | ノート | 自己評価 |
| I 知識・技能 | ◎ | ○ | | | | |
| II 思考・判断・表現 | ◎ | ○ | | ○ | | |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ○ | ◎ | ○ |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|-----|----------------|----|------------------|----------------------|------|
| 数学 | 数学C | 3年 理系 選択 | 2 | 最新 数学C (数研出版) | 3ROUND 数学C (数研出版) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった | |
|----|-------------------------|--------------------------|---|--------------------------------|---|---|--|
| 4 | 第一回 考 査 範 囲 | 第1章 ベクトル 第1節 平面上のベクトル | 2 | 1 ベクトル | 有向線分を用いて、ベクトルを表すことができる。 | A・B・C | |
| | | 2 | 2 ベクトルの和 | ベクトルの和を図示することができる。 | A・B・C | | |
| 2 | | 3 ベクトルの差 | 逆ベクトルの表し方を理解し、ベクトルの差を図示することができる。 | A・B・C | | | |
| 2 | | 4 ベクトルの実数倍 | 実数倍されたベクトルを図示したり、ベクトルの性質を利用し、計算することができる。 | A・B・C | | | |
| 2 | | 5 ベクトルの成分 | ベクトルを成分で表すことができる。 | A・B・C | | | |
| 2 | | 6 ベクトルの成分と演算 | ベクトルの成分による演算の仕方を理解し、それを利用して問題を解くことができる。 | A・B・C | | | |
| 5 | | 7 ベクトルの内積 | ベクトルの内積を求めたり、内積を利用してベクトルのなす角を求めるたりすることができる。 | A・B・C | | | |
| 2 | | 8 内積の性質 | 内積の性質を理解することができる。 | A・B・C | | | |
| 6 | 第二回 考 査 範 囲 | 第2節 ベクトルと平面図形 | 2 | 9 位置ベクトル | 平面上の点の位置をベクトルで表すことができ、位置ベクトルの性質を理解することができる。 | A・B・C | |
| | | 3 | 10 ベクトルと図形 | ベクトルの性質を図形の問題に活用することができる。 | A・B・C | | |
| 2 | | 11 ベクトル方程式 | 直線をベクトルを用いた式で表すことができる。 | A・B・C | | | |
| 7 | | 第3節 空間のベクトル | 1 | 12 空間の座標 | 空間における点を座標で表すことができる。 | A・B・C | |
| 2 | | 13 空間のベクトル | 平面のベクトルを空間のベクトルに拡張させて、表すことができる。 | A・B・C | | | |
| 2 | | 14 ベクトルの成分と演算 | 空間のベクトルを成分表示し、演算することができる。 | A・B・C | | | |
| 2 | | 15 ベクトルの内積 | 空間のベクトルの内積を求めたり、その性質を活用したりすることができる。 | A・B・C | | | |
| 8 | | 2 | 16 位置ベクトル | 空間のベクトルを位置ベクトルで表すことができる。 | A・B・C | | |
| 4 | | 17 空間図形への応用 | 内積を利用して、立体図形における証明問題を解いたり、2点間の距離や内分点外分点の座標を求めるたりすることができる。 | A・B・C | | | |
| 9 | | 第三回 考 査 範 囲 | 第2章 複素数平面 | 1 | | | |
| | | | 2 | 1 複素数平面 | 複素数を複素数平面上の点として表すことができる。 | A・B・C | |
| 2 | | | 2 複素数の和と差 | 複素数の和と差を複素数平面上で表すことができる。 | A・B・C | | |
| 2 | 3 複素数の極形式 | | 複素数を極形式で表すことができ、その積と商を求めることができる。 | A・B・C | | | |
| 3 | 4 ド・モアブルの定理 | | ド・モアブルの定理を理解し、それを計算に利用することができる。 | A・B・C | | | |
| 2 | 5 複素数と平面図形 | | 複素数平面上の直線や円の方程式を求めることができる。 | A・B・C | | | |
| 10 | 第3章 式と曲線 第1節 2次曲線 | | 2 | 1 放物線 | 放物線の焦点や準線について理解し、概形をかくことができる。 | A・B・C | |
| | 2 | | 2 楕円 | 楕円の焦点や短軸長軸について理解し、概形をかくことができる。 | A・B・C | | |
| | 2 | 3 双曲線 | 双曲線の焦点や漸近線について理解し、概形をかくことができる。 | A・B・C | | | |
| 11 | 第四回 考 査 範 囲 | | 1 | | | | |
| | | 2 | 4 2次曲線の平行移動 | 平行移動した2次曲線の方程式を求めることができる。 | A・B・C | | |
| 2 | | 5 2次曲線と直線 | 2次曲線と直線の共有点を求めたり、その関係を求めるたりすることができる。 | A・B・C | | | |
| 2 | | 6 曲線の媒介変数表示 | 媒介変数を利用して、2次曲線を表すことができる。 | A・B・C | | | |
| 3 | | 7 極座標と極方程式 | 点の座標を極座標で表したり、曲線の方程式を極座標で表したりすることができる。 | A・B・C | | | |
| 1 | | 8 コンピュータと いろいろな曲線 | 数式処理ソフトを用いて、いろいろな曲線のグラフをかくことができる。 | A・B・C | | | |
| 12 | | 第2節 媒介変数表示と極座標 | 2 | | | | |
| | | 2 | | | | | |
| 1 | 第五回 考 査 範 囲 | | 1 | | | | |
| 2 | | | | | | | |

3年 数学Ⅲ

○ 学 習 の ん ら い

これまでに学んだ数学をさらに深く学習するとともに、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを的確に活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

予習とは、「分かるところと分からないところをチェックする」ことが基本です。わずかな時間しか予習時間がとれない場合でも、次の授業で学習すると思われる箇所全体に目を通しておくことは最低限必要です。

予習の段階で教科書の練習問題をすべて解く必要はありません。それよりも、前回学んだことをしっかり思い出し、次の授業で必要な知識を確認しておきましょう。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

何が分かって何が分からないのかの区別をしっかりとさせること。理解していなくても先生の説明通り問題を解いて正解することもあります。それは真の実力とはいえません。理解できた、という実感が大切です。

ノートのとり方も工夫が必要です。板書事項だけではなく、先生の発言で大事なことはしっかりメモし、後から見ても十分活用できるノート作りを心掛けましょう。

3 授業後 ～ 復習 ～

授業で分からなかったところをそのままにしておくと次の授業も当然分かりません。時間を見つけて先生に質問しましょう。やる気のある生徒は大歓迎です。

数多く問題を解くことも大事ですが質も重視して下さい。進学を目指す者は一問にじっくり時間をかけて解く機会も必要です。考える習慣は、のちに大きな力となります。

○ 評 価 の 方 法

考查は学習した内容がしっかりと定着しているかを確認するものです。教科書の内容を十分理解した上で、問題集や課題プリント等にも意欲的に取り組み、実力を確かなものにして臨んで下さい。

定期考查の割合は70％程度を原則として、下記の観点に基づいて100点満点で総合的に評価を行います。

| 観点ごとのポイント | |
|----------------|--|
| I 知識・技能 | 各章の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数 学化して数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けてい る。 |
| II 思考・判断・表現 | 数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をよ り深く捉えて事象を表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数 の局所的な性質や大域的な性質に着目し、問題解決の過程や結果を振り返 って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。 |
| III 主体的に取り組む態度 | 数学を活用し、数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返 って考察を深めたり、評価・改善しようとしていたりしている。 |

| 評価の場面 | 考查 | 考查以外 | | | | |
|----------------|----|------|-------------|----|-----|------|
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
| | 考查 | 小テスト | 学習状況 の観察 | 課題 | ノート | 自己評価 |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | | | |
| II 思考・判断・表現 | ◎ | ○ | | ◎ | | |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ○ | ○ | ◎ |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|-----|----------------|----|------------------|----------------------|------|
| 数学 | 数学Ⅲ | 3年 理系 選択 | 4 | 最新 数学Ⅲ (数研出版) | 3ROUND 数学Ⅲ (数研出版) | 140 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-------------------------|--------------------------|------------------|--------------------------|--|---|
| 4 | 第一回 考 査 範 囲 | 第1章 関数 | 5 | 1 分数関数 | 分数関数の性質を理解し、グラフをかいたり、共有点の座標を求めたりすることができる。 | A・B・C |
| | | | 5 | 2 無理関数 | 無理関数の性質を理解し、グラフをかいたり、共有点の座標を求めたりすることができる。 | A・B・C |
| | | | 5 | 3 逆関数と合成関数 | 逆関数を求めたり、関数を合成したりすることができる。 | A・B・C |
| 5 | | 第2章 極限 第1節 数列の極限 | 6 | 1 数列の極限 | 無限数列の性質を理解し、数列の極限を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 7 | 2 極限の計算 | 数列の極限の性質を利用し、いろいろな数列の極限を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 5 | 3 無限等比数列 | 無限等比数列の極限を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 5 | 4 無限級数 | 数列の和を利用し、無限級数を求めることができる。 | A・B・C |
| 6 | 考 査 | | 1 | | | |
| | | 第2節 関数の極限 | 3 | 5 関数の極限 | 関数の極限の性質を理解し、いろいろな関数の極限を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 4 | 6 いろいろな関数の極限 | 指数関数・対数関数・三角関数の極限を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 3 | 7 関数の連続性 | 関数のグラフが、定義域内のある点でつながっているかどうかを判断することができる。 | A・B・C |
| 7 | 第二回 考 査 範 囲 | 第3章 微分法とその応用 第1節 導関数 | 4 | 1 微分係数と導関数 | 微分係数と導関数の性質を利用し、いろいろな関数の導関数を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 4 | 2 積・商の導関数 | 関数の積と商の導関数を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 4 | 3 合成関数と逆関数の微分法 | 合成関数と逆関数の導関数を求めることできる。 | A・B・C |
| 8 | | | 3 | 4 三角関数の導関数 | $\sin x \cdot \cos x \cdot \tan x$ の導関数を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 2 | 5 指数関数の導関数 | 指数関数の導関数を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 2 | 6 対数関数の導関数 | 対数関数の導関数を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 3 | 7 第n次導関数 | 第n次導関数を求めることができる。 | A・B・C |
| 9 | | | 5 | 8 x、yの方程式で定められる関数の導関数 | 円や楕円の方程式の dy/dx を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 4 | 9 媒介変数で表された関数の導関数 | 変数tを用いて表されたxの関数yの導関数を求めることができる。 | A・B・C |
| | 考 査 | | 1 | | | |
| | | 第2節 微分法の応用 | 3 | 10 接線の方程式 | さまざまな導関数を利用し、いろいろな曲線の接線の方程式を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 2 | 11 平均値の定理 | 平均値の定理を理解し、活用することができる。 | A・B・C |
| | | | 3 | 12 関数の増減 | いろいろな関数の増減表を作成し、関数の増減を調べることができる。 | A・B・C |
| | | | 4 | 13 関数の極大・極小 | いろいろな関数の極値を求めることができる。 | A・B・C |
| 10 | | | 3 | 14 関数の最大・最小 | いろいろな関数の増減表や極値を求めることで、最大値・最小値を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 4 | 15 関数のグラフ | 曲線の凹凸を調べる方法を理解し、いろいろな関数のグラフの概形をかくことができる。 | A・B・C |
| | | | 2 | 16 方程式、不等式への応用 | 微分法を利用して、不等式の証明や方程式の実数解の個数を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 2 | 17 速度と加速度 | 微分法を利用して、運動する点の速度や加速度を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 2 | 18 近似値 | 微分法を利用して、1次の近似値を求めることができる。 | A・B・C |
| | | 第4章 積分法とその応用 第1節 不定積分 | 3 | 1 不定積分とその基本性質 | 不定積分の性質を理解し、いろいろな関数の不定積分を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 3 | 2 置換積分法と部分積分法 | 合成関数の微分法や積の導関数の公式から、置換積分法と部分積分法を導き、それを利用することができる。 | A・B・C |
| | | | 3 | 3 いろいろな関数の不定積分 | 不定積分の公式を利用し、いろいろな関数の不定積分を求めることができる。 | A・B・C |
| | 考 査 | | 1 | | | |
| | | 第2節 定積分 | 4 | 4 定積分とその基本性質 | 定積分の性質を理解し、利用することができる。 | A・B・C |
| | | | 4 | 5 定積分の置換積分法と部分積分法 | 置換積分法や部分積分法を利用して、定積分を求めることができる。 | A・B・C |
| 12 | 第四回 考 査 範 囲 | | 3 | 6 定積分と極限・不等式 | 定積分を利用して、様々な定積分を求めたり、不等式を証明することができる。 | A・B・C |
| | | 第3節 微分法の応用 | 4 | 7 面積 | 定積分を利用して、いろいろな曲線で囲まれた面積を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 3 | 8 体積 | 断面積を表す関数を求めることで、定積分を利用し、体積を求めることができる。 | A・B・C |
| 1 | | | 3 | 9 速度と道のり | 定積分を利用し、運動する点の位置や総距離を求めることができる。 | A・B・C |
| | | | 2 | 10 曲線の長さ | 平面上を運動する点の道のりから、曲線の長さを求めることができる。 | A・B・C |
| 2 | 考 査 | | 1 | | | |

3年 発展理系数学

○ 学習のねらい

1 年次、2 年次に履修した数学Ⅰ、数学 A、数学Ⅱ、数学 B の4 科目の内容を横断した総合的な数学の学習や発展的な学習を行うことによって、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察して処理する能力を育むとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。

※進度によって学習内容を変更する場合があります。

○ 学習方法

1 授業の前 ～ 予習 ～

予習とは、「分かるところと分からないところをチェックする」ことが基本です。わずかな時間しか予習時間がとれない場合でも、次の授業で学習すると思われる箇所全体に目を通しておくことは最低限必要です。

予習の段階で教科書の練習問題をすべて解く必要はありません。それよりも、前回学んだことをしっかり思い出し、次の授業で必要な知識を確認しておきましょう。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

何が分かって何が分からないのかの区別をしっかりとすること。理解していなくても先生の説明通り問題を解いて正解することもあります。真の実力とはいえません。理解できた、という実感が大切です。

ノートのとり方も工夫が必要です。板書事項だけではなく、先生の発言で大事なことはしっかりメモし、後から見ても十分活用できるノート作りを心掛けましょう。

3 授業後 ～ 復習 ～

授業で分からなかったところをそのままにしておくと次の授業も当然分かりません。時間を見つけて先生に質問しましょう。やる気のある生徒は大歓迎です。

数多く問題を解くことも大事ですが質も重視して下さい。進学を目指す者は一問にじっくり時間をかけて解く機会も必要です。考える習慣は、のちに大きな力となります。

○ 評価の方法

考查は学習した内容がしっかりと定着しているか確認するものです。教科書の内容を十分理解した上で、問題集や課題プリント等にも意欲的に取り組み、実力を確かなものにして臨んで下さい。

定期考查の割合は 70% 程度を原則として、下記の観点に基づいて 100 点満点で総合的に評価を行います。

| 観点ごとのポイント | |
|----------------|---|
| I 知識・技能 | 各単元の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数学化して数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けている。 |
| II 思考・判断・表現 | 事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関連を認識し総合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 |
| III 主体的に取り組む態度 | 数学を活用し、数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善しようとしている。 |

| 評価の場面 | 考查 | 考查以外 | | | | |
|----------------|----|------|---------|----|-----|------|
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
| | 考查 | 小テスト | 学習状況の観察 | 課題 | ノート | 自己評価 |
| I 知識・技能 | ◎ | ○ | | | | |
| II 思考・判断・表現 | ◎ | ○ | | ○ | | |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ○ | ◎ | ○ |

※記号の凡例 (◎：特に重視する、○：重視する)

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書（発行所） | 使用副教材（発行所） | 総時間数 |
|----|--------|--------|----|--|--|------|
| 数学 | 発展理系数学 | 3年理系選択 | 4 | 新 高校の数学Ⅰ、新 高校の数学Ⅱ 新 高校の数学A、新 高校の数学B （数研出版） | リンク数学演習Ⅰ・A＋Ⅱ・B・C （バクトル）受験編 approach+basic （数研出版） | 140 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元（授業展開） | 授業 時数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか | 自己評価 A：理解できた B：まあまあ C：理解できなかった |
|----|-------------------------|---------------------|----------|------------------------------|---|---|
| 4 | 第一回 考 査 範 囲 | 式と証明の応用 | 4 | ・ いろいろな因数分解 | 式を工夫しながら、いろいろな式を因数分解することができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 4 | ・ 2重根号を含む式の計算 | 2重根号を含む式を計算することができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 4 | ・ 対称式と基本対称式 | 基本対称式を利用して、対称式の値を求めることができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 4 | ・ 絶対値を含む方程式・不等式 | 絶対値を含む方程式・不等式を解くことができる。 | A ・ B ・ C |
| 5 | | | 2 | ・ コピー用紙のサイズ変換 | コピー用紙のサイズ変換に興味を持ち、倍率を求めることができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 4 | ・ 背理法を用いた証明 | 無理数や対数の無理性を背理法を用いて証明することができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 4 | ・ 不等式の証明 | 関数を利用して不等式の証明をすることができる。 | A ・ B ・ C |
| | | 日常の事象と2次関数との関わり | | | | |
| | | | 4 | ・ 絶対値記号を含む関数のグラフ | 場合分けを通して、絶対値記号を含む関数のグラフがかける。 | A ・ B ・ C |
| 6 | | | 4 | ・ 文字係数の2次関数の最大値、最小値 | 軸や頂点に文字を含む場合の最大値や最小値を求めるため、適切な場合分けに気付くことができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 2 | ・ 2次関数と日常の事象や物理事象の関わり | 日常に潜む2次関数や力学的エネルギー保存則について調べ、多面的に考察することができる。 | A ・ B ・ C |
| | 考 査 | | 1 | | | |
| | 第二回 考 査 範 囲 | 日常の事象と図形と方程式の関わり | | | | A ・ B ・ C |
| | | | 4 | ・ 放物線を境界線とする領域 | 式から正しい領域を求めることができる。 | A ・ B ・ C |
| 7 | | | 5 | ・ 日常の事象の最適化問題について | 線形計画法を用いて、最適化問題を解くことができる。 | A ・ B ・ C |
| | | 日常の事象と図形と計量の関わり | | | | |
| | | | 4 | ・ 三角形の形状の考察について | 正弦定理や余弦定理を用いて、三角形の形状を求めることができる。 | A ・ B ・ C |
| 8 | | | 4 | ・ ヘロンの公式や空間図形への応用 | 既習事項を応用し、ヘロンの公式や空間図形などに活用することができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 4 | ・ 日常の事象と三角比 | 日常の事象を三角比の考え方を用いて計量することができる。 | A ・ B ・ C |
| | | 日常の事象と三角関数の関わり | | | | |
| | | | 8 | ・ 三角関数と2次関数の応用 | 三角関数と2次関数の融合問題を解くことができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 4 | ・ 三角関数と点の回転について | 三角関数を用いて、回転を含む問題を解くことができる。 | A ・ B ・ C |
| 9 | | | 3 | ・ 実生活と三角関数について | 実生活に使われている交流電流の波動について調べることができる。 | A ・ B ・ C |
| | 考 査 | | 1 | | | |
| | 第三回 考 査 範 囲 | 日常の事象と指数関数と対数関数の関わり | | | | |
| | | | 4 | ・ 指数関数・対数関数と2次関数の応用 | 指数関数や対数関数と2次関数の融合問題を解くことができる。 | A ・ B ・ C |
| 10 | | | 4 | ・ 実生活と指数関数・対数関数について | 実生活に使われているマグニチュードや星の明るさなどについて調べることができる。 | A ・ B ・ C |
| | | 日常の事象と数列の関わり | | | | |
| | | | 4 | ・ 群数列や隣接3項間の漸化式 | 群数列や漸化式の一般項や総和などを計算できる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 4 | ・ 数学的帰納法による証明 | 自然数や整数に関わる問題を数学的帰納法を用いて証明できる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 2 | ・ 日常の事象と数列について | 日常の事象と関連したフィボナッチ数列について調べることができる。 | A ・ B ・ C |
| | | 日常の事象と微分法と積分法の関わり | | | | |
| | | | 4 | ・ 分数関数の極限値について | 分数関数の極限値を求めることができる。 | A ・ B ・ C |
| 11 | | | 4 | ・ 放物線と直線で囲まれた図形の面積 | 放物線と直線などで囲まれた図形の面積を求めることができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 6 | ・ 実生活と微分や積分の関わりや応用 | べき乗の微分や積分の計算ができ、実生活での活用について調べることができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 2 | ・ 簡単な区分求積法について | 区分求積法を用いて極限を計算できる。 | A ・ B ・ C |
| | 考 査 | | 1 | | | |
| | 第四回 考 査 範 囲 | 実社会とデータの分析 | | | | |
| | | | 9 | ・ 変量変換や実データの分析について | 変量を変換した場合の、期待値や標準偏差を求めることができる。また、実データを分析して考察することができる。 | A ・ B ・ C |
| 12 | | | 6 | ・ 数珠順列や重複組合せについて | 数珠順列や重複組合せ、原因の確率について計算することができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 6 | ・ 漸化式と確率の関わり | 漸化式を用いた確率の問題を求めることができる。また、モンティホール問題について調べ、考察することができる。 | A ・ B ・ C |
| | | 日常生活と場合の数と確率の関わり | | | | |
| | | | 6 | ・ 回帰分析や最小2乗法について | 既習事項を応用し、回帰分析や最小2乗法を計算することができる。 | A ・ B ・ C |
| | | 実社会と統計 | | | | |
| | | | 3 | ・ 実データの考察 | 実データを統計的に考察することができる。 | A ・ B ・ C |
| 1 | | | | | | |
| | 考 査 | | 1 | | | |

3年 発展文系数学

○ 学 習 の ね ら い

2年次で履修した数学Ⅱの内容である方程式・式と証明、図形と方程式、三角関数、指数関数・対数関数、微分と積分や数学Ⅰのデータの分析を発展的に学習し、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察して処理する能力を育むとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識できるようにする。
※進度によって学習内容を変更する場合があります。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

予習とは、「分かるところと分からないところをチェックする」ことが基本です。わずかな時間しか予習時間がとれない場合でも、次の授業で学習すると思われる箇所全体に目を通しておくことは最低限必要です。

予習の段階で教科書の練習問題をすべて解く必要はありません。それよりも、前回学んだことをしっかり思い出し、次の授業で必要な知識を確認しておきましょう。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

何が分かって何が分からないのかの区別をしっかりとすること。理解していなくても先生の説明通り問題を解いて正解することもあります。真の実力とはいえません。理解できた、という実感が大切です。

ノートのとり方も工夫が必要です。板書事項だけではなく、先生の発言で大事なことはしっかりメモし、後から見ても十分活用できるノート作りを心掛けましょう。

3 授業後 ～ 復習 ～

授業で分からなかったところをそのままにしておく次の授業も当然分かりません。時間を見つけて先生に質問しましょう。やる気のある生徒は大歓迎です。

数多く問題を解くことも大事ですが質も重視して下さい。進学を目指す者は一問にじっくり時間をかけて解く機会も必要です。考える習慣は、のちに大きな力となります。

○ 評 価 の 方 法

考查は学習した内容がしっかりと定着しているか確認するものです。教科書の内容を十分理解した上で、問題集や課題プリント等にも意欲的に取り組み、実力を確かなものにして臨んで下さい。

定期考查の割合は 70%程度を原則として、下記の観点に基づいて 100 点満点で総合的に評価を行います。

| 観点ごとのポイント | |
|----------------|---|
| I 知識・技能 | 各単元の基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象を数式化して数学的に解釈したり、表現・処理したりする技能を身に付けている。 |
| II 思考・判断・表現 | 事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関連を認識し総合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 |
| III 主体的に取り組む態度 | 数学を活用し、数学的論拠に基づいて判断し、問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善しようとしている。 |

| 評価の場面 | 考查 | 考查以外 | | | | |
|----------------|----|------|---------|----|-----|------|
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
| | 考查 | 小テスト | 学習状況の観察 | 課題 | ノート | 自己評価 |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | | | |
| II 思考・判断・表現 | ◎ | ○ | | ◎ | | |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ○ | ○ | ◎ |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書（発行所） | 使用副教材（発行所） | 総時間数 |
|----|--------|--------|----|---|--|------|
| 数学 | 発展文系数学 | 3年文系選択 | 2 | 新 高校の数学Ⅰ、新 高校の数学Ⅱ 新 高校の数学A （数研出版） | リンク数学演習Ⅰ・A 受験編 approach+basic （数研出版） | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考査 | 単元（授業展開） | 授業時数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか | 自己評価 A：理解できた B：まあまあ C：理解できなかった |
|----|-------------|---------------------|------|--------------------------|---|---|
| 4 | 第一回 考査範囲 | 式と証明の応用 | 3 | ・いろいろな因数分解 | 式を工夫しながら、いろいろな式を因数分解することができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 3 | ・ 2重根号を含む式の計算 | 2重根号を含む式を計算することができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 3 | ・ 絶対値を含む方程式・不等式 | 絶対値を含む方程式・不等式を解くことができる。 | A ・ B ・ C |
| 5 | | | 1 | ・ コピー用紙のサイズ変換 | コピー用紙のサイズ変換に興味を持ち、倍率を求めることができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 1 | ・ 背理法を用いた証明 | 無理数や対数の無理性を背理法を用いて証明することができる。 | A ・ B ・ C |
| | | 日常の事象と2次関数との関わり | | | | |
| | | | 4 | ・ 文字係数の2次関数の最大値、最小値 | 軸や頂点に文字を含む場合の最大値や最小値を求めるため、適切な場合分けに気付くことができる。 | A ・ B ・ C |
| 6 | | | 2 | ・ 2次関数と日常の事象や物理事象の関わり | 日常に潜む2次関数や力学的エネルギー保存則について調べ、多面的に考察することができる。 | A ・ B ・ C |
| | 考査 | | 1 | | | |
| | | 日常の事象と図形と方程式の関わり | | | | |
| | | | 5 | ・ 日常の事象の最適化問題について | 線形計画法を用いて、最適化問題を解くことができる。 | A ・ B ・ C |
| | | 日常の事象と図形と計量の関わり | | | | |
| | | | 3 | ・ 三角形の形状の考察について | 正弦定理や余弦定理を用いて、三角形の形状を求めることができる。 | A ・ B ・ C |
| 7 | | | 2 | ・ ヘロンの公式への応用 | 既習事項を応用し、ヘロンの公式を導き活用することができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 2 | ・ 日常の事象と三角比 | 日常の事象を三角比の考え方を用いて計量することができる。 | A ・ B ・ C |
| 8 | | 日常の事象と三角関数の関わり | | | | |
| | | | 4 | ・ 三角関数と2次関数の応用 | 三角関数と2次関数の融合問題を解くことができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 2 | ・ 実生活と三角関数について | 実生活に使われている交流電流の波動について調べることができる。 | A ・ B ・ C |
| 9 | 考査 | | 1 | | | |
| | | 日常の事象と指数関数と対数関数の関わり | | | | |
| | | | 4 | ・ 指数関数・対数関数と2次関数の応用 | 指数関数や対数関数と2次関数の融合問題を解くことができる。 | A ・ B ・ C |
| 10 | | | 4 | ・ 実生活と指数関数・対数関数について | 実生活に使われているマグニチュードや星の明るさなどについて調べることができる。 | A ・ B ・ C |
| | | 日常の事象と微分法と積分法の関わり | | | | |
| | | | 4 | ・ 放物線と直線で囲まれた図形の面積 | 放物線と直線などで囲まれた図形の面積を求めることができる。 | A ・ B ・ C |
| | | | 6 | ・ 実生活と微分や積分の関わりや応用 | べき乗の微分や積分の計算ができ、実生活での活用について調べることができる。 | A ・ B ・ C |
| 11 | | | 2 | ・ 簡単な区分求積法について | 区分求積法を用いて極限を計算できる。 | A ・ B ・ C |
| | 考査 | | 1 | | | |
| 12 | 第四回 考査範囲 | 実社会とデータの分析 | | | | |
| | | | 6 | ・ 変数変換や実データの分析について | 変数を変換した場合の、期待値や標準偏差を求めることができる。また、実データを分析して考察することができる。 | A ・ B ・ C |
| | | 日常生活と場合の数と確率の関わり | | | | |
| | | | 3 | ・ 数珠順列や重複組合せについて | 数珠順列や重複組合せ、原因の確率について計算することができる。 | A ・ B ・ C |
| 1 | | | 2 | ・ 日常の事象と確率の関わり | モンティホール問題や日常生活における確率について調べ考察することができる。 | A ・ B ・ C |
| | 考査 | | 1 | | | |

3年 化学

○ 学 習 の ね ら い

- ・ 化学基礎の学習内容をふまえ、基本的な化学的概念や原理・法則の理解を深める。また、実験や観察を通して、化学的事象に対する探究心を育てる。

○ 学 習 方 法

1 授 業 の 前 ～ 予 習 ～

- ・ 本教科では、化学基礎の学習内容を理解していることが前提となります。特に以下の分野については、5月初旬までに復習を完了しておくこと。
 - 元素記号、組成式、分子式、イオン式などの化学式
 - 原子の構成、化学結合、化学反応式
 - 物質質量(mol)の計算、濃度(%、mol/L)の計算、化学反応における量的関係
- ・ 授業前には教科書を読み、疑問点を明確にしておくこと。また過去に学習した内容との関連性を考えてみる。

2 授 業 中 ～ 授 業 中 の 注 意 点 ～

- ・ 授業は講義形式で行います。疑問点をそのままにしておくと、理解出来ないまま授業が進んでいきますので、わからない箇所こそ積極的に発言すること。
- ・ 実験を多く行います。火気および危険な薬品を多く扱いますので、白衣を必ず着用すること。また、指示をよく聴きそれに従うこと。

3 授 業 後 ～ 復 習 ～

- ・ リード Light ノート化学を活用し、既習事項について問題演習を行う。
- ・ 用語や基本法則など、わからないところをチェックし、教科書の索引などから調べる。調べるために用いた資料の出典をメモしておく。

※ 化学は暗記科目ではありません。従って試験も覚えたから解ける問題ばかりではなく、本質を理解している事が大切になります。試験直前だけに集中して学習するよりも、毎日短時間でよいので、予習、復習を心掛けましょう。（特に復習に重きを置くこと）

※ 本授業は進学課外とも連携します。化学の課外授業を受講することを強く薦めます。

○ 評 価 の 方 法

下記の観点に基づいて 100 点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は 60%を原則とする。

| 観点ごとのポイント | | | | | | | |
|----------------|--|------|-------------|------------|----|-----|------|
| I 知識・技能 | 自然の事物・現象について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 | | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 自然の事物・現象の中に問題を見だし、実験などを通して、科学的に考察し表現することができる。 | | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | 自然の事物・現象に対して、主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | | | | | | |
| 評価の場面 | 考査 | 考査以外 | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ |
| | 考査 | 小テスト | 学習状況 の観察 | 実験 レポート | 課題 | ノート | 自己評価 |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | ○ | ○ | | |
| II 思考・判断・表現 | ○ | ○ | | ◎ | ○ | | ○ |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|----|------|----|-----------------|-----------------------------|------|
| 理科 | 化学 | 3年理系 | 4 | 新編 化学 (数研出版) | 新課程 リードLightノート化学 (数研出版) | 140 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-----------------------------|----------------------------|------------------|--|--|---|
| 4 | 第一 回 考 査 範 囲 | 第1編 物質の状態 1 固体の構造 | 4 | ・原子の結合を中心に学習する。 | ・分子間力と物質の性質を関連づけられる。 | A・B・C |
| | | 2 物質の状態変化 | 4 | ・物質の状態変化について学習する。 | ・状態変化と熱運動の関係を理解する。 | A・B・C |
| | | 3 気体 | 8 | ・ボイルシャルルの法則、状態方程式について学習する。 | ・各法則について理解し、計算ができる。 | A・B・C |
| | | 4 溶液 | 8 | ・沸点上昇凝固点降下、コロイドを中心に学習する。 | ・分子(コロイド)と溶液の性質を関連して理解できる。 | A・B・C |
| 5 | 第二 回 考 査 範 囲 | 第2編 物質の変化 1 化学反応とエネルギー | 6 | ・熱化学方程式とヘスの法則について学習する。 | ・熱化学方程式の書き方を理解し、ヘスの法則により反応熱を求められるようにする。 | A・B・C |
| | | 2 電池と電気分解 | 6 | ・電池や電気分解について学習する。 | ・電池や電気分解の原理について理解する。 | A・B・C |
| 6 | | 考査 | 1 | | | |
| | | 3 化学反応の速さとしくみ | 5 | ・化学反応のしくみと反応速度について学習する。 | ・化学反応をエネルギー状態と関連づけて理解する。(含 触媒の役割) | A・B・C |
| 7 | 第三 回 考 査 範 囲 | 2 化学平衡 | 12 | ・化学平衡やルシャトリエの法則について学習する。 | ・平衡移動について、基本的概念を押さえる。電離平衡を理解し、電離平衡定数や酸、塩基の濃度、電離度を求められるようにする。 | A・B・C |
| 8 | | 第3編 無機物質 1 非金属元素 | 7 | ・非金属元素の単体や化合物についての特徴を学習する。 | ・様々な単体、化合物の特徴を理解する。 | A・B・C |
| | | 2 金属元素(Ⅰ)-典型元素- | 6 | ・典型金属元素の特徴について学習する。 | ・典型金属元素の特徴を理解すると共に、中和反応についても関連づけて理解する。 | A・B・C |
| 9 | | 3 金属元素(Ⅱ)-遷移元素- | 7 | ・遷移金属元素の特徴について学習する。 | ・遷移金属元素の特徴を理解すると共に、酸化・還元反応についても関連づけて理解する。 | A・B・C |
| | 考査 | | 1 | | | |
| 10 | 第四 回 考 査 範 囲 | 第4編 有機化合物 1 有機化合物の分類と分析 | 6 | ・有機化合物の特徴と構造について学習する。元素分析(計算)の演習も行う。 | ・構造異性体について理解する。元素分析の計算方法を身に付ける。 | A・B・C |
| | | 2 脂肪族炭化水素 | 8 | ・飽和、不飽和炭化水素の特徴および、エチレン、アセチレンとその誘導体について学習する。 | ・各化合物の特徴および、反応について理解する。 | A・B・C |
| | | 3 アルコールと関連化合物 | 10 | ・アルコール、アルデヒド、ケトン、カルボン酸の特徴と反応について学習する。 | ・アルコールの酸化とアルデヒド、ケトン、カルボン酸について関連づけて理解する。 | A・B・C |
| | | 4 芳香族化合物 | 12 | ・それぞれの化合物について、脂肪族と関連づけて学習する。 | ・フェノール、サリチル酸、アニリンとその誘導体について特徴と反応を憶えとともに、その他の化合物についても関連づけて理解する。 | A・B・C |
| | 考査 | | 1 | | | |
| 12 | 第五 回 考 査 範 囲 | 第5編 高分子化合物 1 高分子化合物の性質 | 4 | ・天然高分子や合成高分子などの高分子一般について学習する。 | ・高分子化合物の分類や構造、重合方法、特徴などを理解する。 | A・B・C |
| | | 2 天然高分子化合物 | 10 | ・糖類、タンパク質、核酸について学習する。その構造や性質を理解する。 | ・糖類、タンパク質、核酸について、その構造や性質を理解する。 | A・B・C |
| | | 3 合成高分子化合物 | 10 | ・合成繊維や合成樹脂(プラスチック)、ゴムについて学習する。 | ・合成繊維や合成樹脂(プラスチック)、ゴムについて、その構造や性質を理解する。 | A・B・C |
| 1 | | 4 化学とともに歩む | 3 | ・化学を通じて学んだ内容を、触媒・医薬品・リサイクルといった観点からさらに深く学習する。 | ・現代の人間生活への利用や次世代エネルギー・健康・地球環境といった観点から未来の人間生活への化学の可能性について理解する。 | A・B・C |
| | 考査 | | 1 | | | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |

3年物理

○ 学 習 の ね ら い

物理基礎で学習した事物・現象について、さらに発展的な内容を、観察、実験を行いながら学習する。学習していく中で、自然に対する関心や探究心を高め、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的に物事を考えることができるようになることがこの科目のねらいである。

主な学習内容は、様々な運動（物体の運動とつり合い、運動量と力積、円運動と単振動、万有引力、気体分子の運動）、波動（波の性質、音の性質、光の性質）、電気と磁気（電界と電位、電流、電流と磁界、電磁誘導と電磁波）、原子・分子の世界（電子と光、原子・原子核・素粒子）である。放射性物質や放射線の測定についても学習する。これらについて基本的な概念や法則を理解し、科学的に考える力を身に付けてほしい。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

事前に教科書を読み、授業で学習するところを確認しておく。記号の意味、速度や力などの物理量の単位など、基本的なことは覚えておく。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

先生の話は集中して聞く。疑問に思った点、理解できないところは恥ずかしがらずに積極的に質問する。

3 授業後 ～ 復習 ～

教科書や問題集の練習問題を何度も繰り返しやってみる。さらに課題がほしいときは先生までもらいこく。

○ 評 価 の 方 法

- ・定期考査（テスト）は4回とも実施します。しっかり学習して臨んでください。
- ・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は60%を原則とする。

| 観点ごとのポイント | | | | | | | | |
|----------------|--|------|-------------|------------|----|-----|------|---|
| I 知識・技能 | 自然の事物・現象について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 | | | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 自然の事物・現象の中に問題を見だし、実験などを通して、科学的に考察し表現することができる。 | | | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | 自然の事物・現象に対して、主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | | | | | | | |
| 評価の場面 | 考査 | 考査以外 | | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| | 考査 | 小テスト | 学習状況 の観察 | 実験 レポート | 課題 | ノート | 自己評価 | |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | ○ | | | | |
| II 思考・判断・表現 | ○ | | | ◎ | ○ | | ○ | |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ | |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|----|----------|----|------------------|--------------------------------------|------|
| 理科 | 物理 | 3年 選択 | 4 | 高等学校 物理 (啓林館) | サンダイヤル ステップアップノート物 理 新訂版 (啓林館) | 140 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか | 到達目標 ※どのようなことを身に付けるのか | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-----------------------------|---------------------------------------|------------------|---|---|---|
| 4 | 第一 回 考 査 範 囲 | 第1部 様々な運動 第1章 物体の運動 第2章 剛体のつり合い | 13 | ・速度と加速度 ・放物運動 ・力のモーメント、重心 | ・平面内を運動する物体の運動について理解する。 ・斜方投射された物体の運動を理解する。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 5 | | 第3章 運動量と力積 | 9 | ・運動量と力積 ・運動量保存の法則 ・反発係数、衝突とエネルギー | ・大きさのある物体のつり合いを理解する。 ・運動量と力積の関係について理解する。 ・物体の衝突や分裂における運動量の保存を理解する。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 6 | | 第4章 円運動と単振動 | 10 | ・等速円運動、速度、角速度、向心力 ・慣性力と遠心力 | ・衝突におけるはね返りについて理解する。 ・円運動や単振動する物体の様子を表す方法やその物体に働く力などについて理解する。 | A・B・C A・B・C |
| 6 | 第二 回 考 査 範 囲 | 第5章 万有引力 | 5 | ・単振動、ばね振り子、単振り子 ・ケプラーの法則、万有引力 ・重力、宇宙への旅 | ・惑星の運動に関する法則を理解する。 ・万有引力の法則及び万有引力による物体の運動について理解する。 | A・B・C A・B・C |
| 7 | | 第2部 熱 第1章 気体分子の運動 | 11 | ・気体の状態方程式 ・ボイル・シャルルの法則 ・気体分子の運動、内部エネルギー ・熱力学第1法則、状態変化、モル比熱、熱機関、不可逆変化 | ・気体分子の運動と圧力の関係について理解する。 ・気体の内部エネルギーについて、気体の分子運動と関連付けて理解する。 | A・B・C A・B・C |
| 8 | | 第3部 波 第1章 波の性質 | 12 | ・波の伝わり方、波の干渉、回折、反射、屈折、ホイヘンスの原理 | ・気体の状態変化における熱、仕事及び内部エネルギーの関係を理解する。 | A・B・C |
| 9 | 第三 回 考 査 範 囲 | 第2章 音 | 12 | ・音波 ・ドップラー効果 | ・波の伝わり方とその表し方について理解する。 ・波の干渉、回折、反射、屈折について理解する。 ・音の干渉、回折、反射、屈折について理解する。 ・音のドップラー効果について理解する。 | A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C |
| 10 | | 第3章 光 | 10 | ・光の進み方 ・光の性質 ・レンズと球面鏡 | ・光の速さ、反射と屈折について理解する。 ・光のスペクトル、散乱、偏光について理解する。 | A・B・C A・B・C |
| 11 | | 第4部 電気と磁気 第1章 電界と電位 | 12 | ・クーロンの法則、静電誘導 | ・レンズや球面鏡による像、回折と干渉について理解する。 | A・B・C |
| 11 | 第四 回 考 査 範 囲 | 第2章 電流 | 8 | ・電界、電気力線、電位、コンデンサー | ・電荷が相互に及ぼし合う力や電界の表し方を理解する。 | A・B・C |
| 12 | | 第3章 電流と磁界 | 9 | ・電気回路、キルヒホッフの法則 | ・電界と電位の関係、コンデンサーの性質、電気回路について理解する。 | A・B・C |
| 12 | | 第4章 電磁誘導と電磁波 | 12 | ・磁界、電流の作る磁界、電流が磁界から受ける力、ローレンツ力 | ・電流が流れる磁界の様子を理解する。 ・電流が磁界から受ける力について理解する。 | A・B・C A・B・C |
| 1 | 第五 回 考 査 範 囲 | 第5部 原子・分子の世界 第1章 電子と光 | 6 | ・電磁誘導の法則 ・自己誘導と相互誘導、交流 ・電磁波の性質とその利用 | ・電磁誘導と交流について、現象や法則を理解する。 ・電磁波について、性質とその利用を理解する。 | A・B・C |
| 1 | | 第2章 原子・原子核・素粒子 | 6 | ・電子の電荷と質量、光の粒子性、X線 ・物質波 | ・電子の電荷と質量、電子や光の粒子性と波動性について理解する。 | A・B・C |
| 2 | | 終章 物理学が築く未来 | 1 | ・原子モデル ・放射線と原子核、原子核反応 ・素粒子と宇宙 ・エネルギーの変換 | ・原子の構造及びスペクトルと電子のエネルギー準位の関係、原子核の構成、原子核の崩壊及び核反応について理解する。 ・素粒子の存在について知る。 ・新エネルギー源について、討論を通して探究する。 | A・B・C A・B・C |
| 2 | 考 査 | | 1 | | | |

3年 生物

○ 学 習 の ね ら い

「生物基礎」との関連を図りながら、生物や生命現象をさらに広範囲に取り扱い、学習する。学習していく過程で、自然に対する関心や探究心を高め、生物学の基本的な概念や原理・原則についての理解を深め、科学的なものの見方を養うことがこの科目のねらいである。

「生物」とは何か、「生きる」とはどういうことなのか。最近の生物学では、特に遺伝子を中心に様々な研究が進められ、現在も発展を続けている。よくニュースなどで目にする「遺伝子組換え」「クローン」「ヒトゲノム」「iPS細胞」などはその代表的な例である。発展を続ける生物学を理解する上で、必要とされる基礎学力を身につけるとともに、実験・観察を通して自然を科学的に探究する力を養うことを目標とする。さらに命の営みを学習することで、生命倫理や環境問題について総合的に考えることのできる学力を身につけていくことを目指す。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

① 1年次に学習した「生物基礎」はもちろん、2年次に学習した「化学基礎」もしっかりと復習しておく。

1年次に学習した生物基礎の内容は、理解しているということを前提で授業を進める。

② 今まで以上に本や新聞、関連するテレビ番組なども意識して見るようにし、知識を得るだけでなく、様々なことに疑問を感じ、自分なりの意見で考察すること。

2 授 業 中 ～ 授業中の注意点 ～

① ノートは板書事項だけではなく、先生が説明したことで重要なところや忘れそうなところも自分で判断し、しっかりとメモしておく。

② 授業の内容をただ暗記するだけではなく、どのようなことを知るために、どのような実験をし、どのような結果がでるかなど、常に自分で筋道を立てて考えながら学習をする。

3 授 業 後 ～ 復習 ～

宿題は、確実に期限まで提出すること。また小テストを行う時は、しっかりその分野を学習すること。

○ 評 価 の 方 法

・ 下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は60%を原則とする。

| 観点ごとのポイント | | | | | | | | |
|----------------|--|------|---------|--------|----|--------|---|---|
| I 知識・技能 | 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 | | | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。 | | | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | 生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | | | | | | | |
| 評価の場面 | 考査 | 考査以外 | | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| | 考査 | 小テスト | 授業の振り返り | 実験レポート | 課題 | 授業プリント | | |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | ○ | | ○ | | |
| II 思考・判断・表現 | ◎ | | ○ | ◎ | ○ | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ○ | | ◎ | | |

※記号の凡例 (◎：特に重視する、○：重視する)

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|----|----------|----|--------------|--|------|
| 理科 | 生物 | 3年 選択 | 4 | 生物 (数研出版) | 改訂版 リードLight生物基礎(数研出版) 新課程 生物学習ノート(数研出版) ニューステージ ニ訂版 新生物図表(浜島書店) | 140 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A: 理解できた B: まあまあ C: 理解できなかった |
|----|-------------------------|--|------------------|---|--|--|
| 4 | 第一回 考 査 範 囲 | 第1章 生物の進化 1. 生命の起源と生物の進化 2. 遺伝子の変化と多様性 3. 遺伝子の組み合わせの変化 4. 進化のしくみ 5. 生物の系統と進化 6. 人類の系統と進化 | 18 | 生物の多様性と共通性、原始地球と有機物の生成、有機物から生物へ、生物の出現とその発展、真核生物の出現と進化について、そのしくみを遺伝子レベルから学ぶ。 | 生命の起源として、無機物から有機物が生じ、有機物の集まりから「細胞」が生じたと考えられていることを理解する。生物が代謝を通じて地球の環境を変化させてきたこと、地球の環境の影響を受けて生物が進化してきたことを理解する。 | A・B・C |
| 5 | | 第2章 細胞と分子 1. 生体物質と細胞 2. タンパク質の構造と性質 3. 化学反応にかかわるタンパク質 4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質 | 18 | 細胞を構成する物質、原核細胞と真核細胞の構造、真核細胞の構造と機能、生体膜の構造について、タンパク質を中心に学ぶ。 | 人類が、霊長類のうちの類人猿から進化したことを理解する。人類の特徴として、直立二足歩行をすることが重要であることを理解する。 細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。 細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。タンパク質の構造と機能との密接な関係について理解する。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 6 | | 考 査 | 1 | | | |
| 7 | 第二回 考 査 範 囲 | 第3章 代謝 1. 代謝とエネルギー 2. 呼吸と発酵 3. 光合成 | 18 | 生物とエネルギー、生体内の化学反応について学ぶ。さらに、呼吸と光合成におけるATPの生成とエネルギーの出入りについて学ぶ。 | 生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。 | A・B・C |
| 8 | | 第4章 遺伝情報の発現と発生 1. DNAの構造と複製 2. 遺伝情報の発現 3. 遺伝子の発現調節 4. 発生と遺伝子発現 5. 遺伝子を扱う技術 | 18 | DNAの構造、DNAの複製から遺伝情報とその発現、転写とスプライシング、翻訳、真核細胞と原核細胞のタンパク質合成の違いについて学ぶ。また、遺伝子を扱う技術と人間生活の関わりについて学ぶ。 | DNAについて、2本のヌクレオチド鎖の方向性をふまえた詳しい構造を理解する。DNAが正確に複製される詳しいしくみを理解する。 遺伝子を扱うさまざまな技術について、その原理を理解する。遺伝子を扱うさまざまな技術が、私たちの生活に与える影響を理解する。 | A・B・C A・B・C |
| 9 | | 考 査 | 1 | | | |
| 10 | 第三回 考 査 範 囲 | 第5章 動物の反応と行動 1. 刺激の受容 2. ニューロンとその興奮 3. 情報の統合 4. 刺激への反応 5. 動物の行動 | 18 | 動物の刺激の受容から行動まで、受容器・効果器および神経系と中枢神経系の構造とはたらきについて学ぶ。 動物の行動とその連鎖、いろいろな生得的行動、学習と記憶について学ぶ。 | 受容器の種類によって、刺激を受け取るしくみがそれぞれ異なることを理解する。 ヒトの脳の構造とはたらきについて理解する。 動物の行動は、遺伝的にプログラムされた生得的な行動と経験によって変化する学習行動によって形成されることを理解する。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 11 | | 第6章 植物の環境応答 1. 植物の生活と植物ホルモン 2. 発芽の調節 | 17 | 植物の生活と反応について学ぶ。 | 植物は、周囲の環境の変化を感知して、自らのからだを適切な時期に適切な状態へと変化させていることを理解する。環境からの情報の伝達には、植物ホルモンがはたらいていることを理解する。 | A・B・C |
| 12 | 第四回 考 査 範 囲 | 考 査 | 1 | | | |
| | | 3. 成長の調節 4. 器官の分化と花芽形成の調節 5. 環境の変化に対する応答 6. 配偶子形成と受精 | 11 | 植物の成長と光、植物の成長と重力について学ぶ。 被子植物の配偶子形成と受精、胚や種子の形成と果実の成熟について学ぶ。 | 植物の成長は、光や重力などの要因によって調節されていることを理解する。植物の成長の調節には、植物ホルモンが重要なはたらきをしていることを理解する。種子植物における配偶子形成と受精のしくみを理解する。種子の形成や果実の成熟のしくみを理解する。 | A・B・C A・B・C |
| 1 | | 第7章 生物群集と生態系 1. 個体群の構造と性質 2. 個体群内の個体間の関係 3. 異なる種の個体群間の関係 4. 生態系の物質生産と物質循環 5. 生態系と人間生活 | 9 9 | 個体群、群れ、縄張り、社会の構造と分業について学ぶ。 生物多様性とその恵恩、人間活動が生態系に影響を与えるしくみ、私たちの生活と生態系について学ぶ。 | 同種の動物が集まって暮らすことで生じる利益と不利益を理解する。動物の個体群内の個体どうしの間で、どのような関係が見られるか理解する。 生態系や生物多様性の保全の重要性を理解する。人間活動によって生態系に影響を及ぼすしくみを理解する。 | A・B・C A・B・C |
| 2 | 考 査 | | 1 | | | |

3年 実践化学基礎

○ 学 習 の ね ら い

2年次に化学基礎で学習した内容を踏まえ、より深い内容の課題に取り組みます。問題演習を通して基本的な知識を定着させるとともに、実習などの探究活動を通して科学的に探究する能力と態度を育て、より深く考える力を高めることを目標としています。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

- 化学基礎で学習した内容を踏まえて思考する場面が多くなりますので、事前に教科書を読み、授業で学習するところを確認しておいてください。

2 授 業 中 ～ 授業中の注意点 ～

- 先生の話を中心して聴く。そして、板書を写すだけにとどまらず、メモを取ったり重要箇所に下線を引いたりするなど、理解できるように努めましょう。
- 実験を多く行います。火気および危険な薬品を多く扱いますので、白衣を必ず着用すること。また、指示をよく聴きそれに従うこと。

3 授 業 後 ～ 復習 ～

- 教科書や問題集の練習問題を何度も繰り返し解いてみましょう。その都度自己評価を行い、できなかったところをあぶり出すようにチェックしましょう。
- 授業ノートやプリントなどを見て、学習内容のポイントや既習範囲との関連を整理し、必要な点は覚える努力をしましょう。
- さらに課題がほしいときは遠慮せずに申し出てください。

○ 評 価 の 方 法

下記の観点に基づいて 100 点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は 60%を原則とする。

| 観点ごとのポイント | | | | | | | |
|----------------|--|------|-------------|------------|----|-----|------|
| I 知識・技能 | 自然の事物・現象について理解しているとともに、科学的に探究するために必要な実験などに関する基本的な技能を身に付けている。 | | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 自然の事物・現象の中に問題を見だし、実験などを通して、科学的に考察し表現することができる。 | | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | 自然の事物・現象に対して、主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | | | | | | |
| 評価の場面 | 考査 | 考査以外 | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ |
| | 考査 | 小テスト | 学習状況 の観察 | 実験 レポート | 課題 | ノート | 自己評価 |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | ○ | ○ | | |
| II 思考・判断・表現 | ○ | ○ | | ◎ | ○ | | ○ |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|--------|------|----|-------------------|-----------------------------|------|
| 理科 | 実践化学基礎 | 3年文系 | 2 | 新編 化学基礎 (数研出版) | 新編 化学基礎準拠 サポートノート (数研出版) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-------------------------|------------|------------------|--|---|---|
| 4 | 第一回 考 査 範 囲 | 物質の成分と構成元素 | 10 | ・混合物の分離方法、元素の特徴や化合物について理解を深める。 | ・混合物の分離に関する実験などを通して、実験器具の使用方法を学び、実験操作を適切に行うことができる。 | A・B・C |
| 5 | | 無機物質と人間生活 | 7 | ・様々な無機物質の性質について理解を深めるとともに、ハーバー・ボッシュ法をはじめとする化学技術が産業に与えた影響などを学ぶ。 | ・化学技術が産業に与えた影響について、自ら課題を設け、科学的・論理的に考察することができる。 | A・B・C |
| 6 | | 考 査 | 1 | | | |
| 7 | 第二回 考 査 範 囲 | 化学結合 | 10 | ・化学結合の特徴を学習するとともに、結晶や分子の特徴について理解を深める。 | ・ICT機器を活用し、共有結合の仕組みを説明することができる。 | A・B・C |
| 8 | | 有機化合物と人間生活 | 7 | ・様々な有機化合物の性質について理解を深めるとともに、医薬品や合成洗剤などが有機化合物と関連が深いことを学ぶ。 | ・有機化合物が人間生活に与えている影響について、自ら課題を設け、科学的・論理的に考察することができる。 | A・B・C |
| 9 | | 考 査 | 1 | | | |
| 10 | 第三回 考 査 範 囲 | 酸と塩基 | 9 | ・酸と塩基の基本的な性質や、水素イオン濃度について理解を深める。 | ・身の周りの物質において、酸と塩基の性質が関わっているもの(pH変化による変色など)に関心を持ち、学んだ内容と関連付けて考察することができる。 | A・B・C |
| 11 | | 中和反応 | 7 | ・中和反応における量的関係について理解を深める。 | ・中和滴定などの実験や調べ学習によって得られたデータを元に、科学的・論理的に考察することができる。 | A・B・C |
| 12 | 第四回 考 査 範 囲 | 酸化還元反応 | 9 | ・酸化・還元の定義について学習し、酸化剤・還元剤の役割や利用についての理解を深める。 | ・酸化剤や還元剤などの化学物質が、どのような場所で、どのように利用されているのかなどを調査し、学習した内容と関連付けて考察することができる。 | A・B・C |
| 1 | | 電池・電気分解 | 7 | ・イオン化傾向と関連して、電池や電気分解について理解を深めるとともに、エネルギーに関する課題などについて学ぶ。 | ・エネルギー問題などに関する課題を自ら設定し、実験や調べ学習によって得られたデータを元に、科学的・論理的に考察することができる。 | A・B・C |
| | | 考 査 | 1 | | | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |

3 年実践地学基礎

○ 学 習 の ね ら い

2 学年の地学基礎において、地球には、大気や海、そして、火山や地震などさまざまな自然があり、また、その地球が存在している空間が宇宙であることを学びました。3 年生では、コラムなどに掲載されている発展的な内容を学びます。また、授業と平行して、各自テーマを決め地学分野での課題研究に取り組んでもらい、最終的にはクラス内で研究発表会を行います。この 1 年を通して自然に対する関心や探究心を高め、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な自然観を育てることをねらいとします。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

授業前の準備として重要なのは、授業に積極的に参加しようとする心構えです。地学は自然科学の中でも仮説（予想）を立て、それを検証（確かめる）することで発展してきた科目です。地学現象をよく理解するためには、自分なりの考えをもって授業にのぞむことがとても大切になります。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

授業中の私語は厳禁です。ただし、質問はいつでもして下さい。自分なりの考えや予想を訪ねられたときは、しっかり答えて下さい。また、授業中に他の教科の課題やノートの写真などをするはいけません。授業中に使用したプリントはノートに授業の順序が分かるようにノリで貼りましょう。

3 授業後 ～ 復習 ～

授業後は授業で使用した教科書・ノート・資料集・問題集などしっかりと管理し、授業を受けたままにはしないことを勧めます。地学用語については定期考査に出題することになります。しっかり暗記して下さい。そのための復習はしっかりとテスト前に時間を確保して復習して下さい。

○ 評 価 の 方 法

・下記の観点に基づいて 100 点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は 60% を原則とする。

| 観点ごとのポイント | | | | | | | | |
|----------------|---|------|-------------|------------|----|-----|------|---|
| I 知識・技能 | 地球環境について基本的な原理・法則を理解し、知識を身に付けており、実験操作や観察方法の基本を習得するとともに、結果を正確に記録し、情報を整理する技能を身に付けている。 | | | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 地球科学に関する考察を深め、新たな課題に気が付き、仮説を立てて検証し、科学的・論理的に考察を加えるとともに、自身の考えを的確に表現している。 | | | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとするとともに、自然環境の保全に寄与しようとしている。 | | | | | | | |
| 評価の場面 | 考査 | 考査以外 | | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| | 考査 | 小テスト | 学習状況 の観察 | 実験 レポート | 課題 | ノート | 自己評価 | |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | ○ | | | | |
| II 思考・判断・表現 | ○ | | | ◎ | ○ | | ○ | |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ○ | ○ | ◎ | ○ | |

※記号の凡例 (◎：特に重視する、○：重視する)

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|--------|----------|----|--------------------|---|------|
| 理科 | 実践地学基礎 | 3年 選択 | 2 | 高等学校 地学基礎 (啓林館) | Navi & トレーニング地学基礎 新訂版(啓林館) 二訂版 ニューステージ地学図表(浜島書店) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 (どのようなことを身に付けたいか) | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-----------------------------|-------------------------|------------------|--------------------------|--|---|
| 4 | 第一 回 考 査 範 囲 | 1. 地球を調べる | 7 | 地球の形と大きさ 地球の構造 | ・歩測などを用いた距離の測定と緯度経度の数値より、地球の大きさを算出する。(実験・観察レポート) ・地球内部の層構造について、地震波の特徴と関連付けながら深く理解する。 ・震源から110°地点にP波が到達していることを発見した経緯について調べ、分かったことを発表する。(研究発表) | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 5 | | 2. 火成岩と堆積岩 | 6 | 火成岩の化学組成 | ・マグマに含まれる物質の化学組成と形成される火成岩の特徴や、堆積物と堆積岩の特徴について、校内にある火成岩と堆積岩の標本を用いて確認する。 ・広瀬川の河原から岩石を採集し、校内にある火成岩と堆積岩の標本と比較しながら、広瀬川の河原にはどのような岩石があるのかを明らかにする。(実験・観察レポート) | A・B・C A・B・C |
| 6 | | 3. プレートテクトニクスと日本列島 | 4 | プレートテクトニクス | ・プレートが動く仕組みを、火山や地震と関連付けて理解する。 | A・B・C |
| | 考 査 | | 1 | | | |
| | 第二 回 考 査 範 囲 | | 3 | 日本列島とプレート運動 | ・日本列島の形成について、日本全体の地形図や地質図を調べ、プレート運動と関連させて学習する。 | A・B・C |
| 7 | | 4. 地層の形成 | 10 | 地層の形成 地質図とクリノメーター | ・地層の形成について理解し、地層の重なり方からその地域の環境の変化について考える。 ・地質図から、地層の重なり方を作図する方法を学ぶ。クリノメーターの使い方を理解し、地層の走向傾斜を測定する。これらの測定結果からルートマップや地質図を作成する。(実験・観察レポート) | A・B・C A・B・C |
| 8 | | 5. 仙台市西部の地層について | 3 | 仙台市西部の地層分布 | ・5月に実施した、広瀬川の河原から採集した岩石についての結果から、広瀬川上流にはどのような地層が分布しているのか考察し発表する。(研究発表) | A・B・C |
| 9 | | 考 査 | 1 | | | |
| 10 | 第三 回 考 査 範 囲 | | 4 6 | 仙台市周辺の地質と岩石 | ・仙台市とその周辺の地形図や地質図を調べ、分布する地層がどのような岩石で出来ているのか考察する。さらに、広瀬川の河原から採集した岩石がどの地層のものであるかについて考察し発表する。(研究発表) | A・B・C |
| | | 6. 古生物と地球環境 | 2 | 生物の変遷 | ・地層に残された痕跡より、地球環境の変化が研究されてきたことを学び、地球上の生物の変遷を理解する。 | A・B・C |
| 11 | | | 3 | 植物化石の観察 | ・校内にある植物化石の標本をクリーニングし、種の名前を調べる。(実験・観察レポート) | A・B・C |
| | | | 2 | 生物の進化 | ・興味のある生物種の進化史を調べ、発表する。(研究発表) | A・B・C |
| | 考 査 | | 1 | | | |
| 12 | 第四 回 考 査 範 囲 | 7. 仙台市西部形成のかかわり | 5 | 化石標本と地質図を使った探究 | ・校内にある化石標本と採集した岩石資料、さらに、仙台市とその周辺の地形図や地質図から、日本列島の形成過程を踏まえた上で、新生代新第三紀以降本校周辺の地形の形成過程について、考察し発表する。(研究発表) | A・B・C |
| | | 8. 本校南部にある「西風(ならい)蕃山」調査 | 5 | 西風(ならい)蕃山の調査 | ・本校南部に広がる「西風(ならい)蕃山」の登山道付近に見られる地層を観察し、岩石を採集し、レポートとしてまとめる。(実験・観察レポート) | A・B・C |
| | | | 6 | 西風(ならい)蕃山の形成 | ・「西風(ならい)蕃山」はどのようにして形成された山であるのかを考察し、発表する。(研究発表) | A・B・C |
| | | 考 査 | 1 | | | |
| 3 | | | | | | |

3年 実践生物基礎

○ 学 習 の ね ら い

「実践生物基礎」では、1年次での学習内容をより深めることを目指す中で、日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって問題演習に取り組み、観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を培うことを目標とする。

現在大きな社会問題になっている生物多様性や環境問題、生物学に基づく技術の発展、健康と生活習慣との関係を理解するためにも、生物学の基礎知識は不可欠であり、生物学的な見方や知識を幅広く修得し、日常生活と関連付けて考える力を身に付けてほしい。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

① 1年次に学習した「生物基礎」の基本事項（重要語句等）を復習しておく。

1年次に学習した生物基礎の内容は、理解しているということを前提で授業を進める。

② 指定された問題集を予め解いておく。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

問題演習の解説を、集中してしっかり聞き取り、その時間内で理解することが大切。休まない、寝ないは当たり前。ノートは板書事項だけではなく、先生が説明したことで重要なところや忘れそうなところもしっかりとメモすること。

3 授業後 ～ 復習 ～

定期テストに向け、問題集を活用し、復習をしっかり行うこと。基本的な事項は暗記が必要。覚えるまで何度も取り組むこと。

○ 評 価 の 方 法

・ 下記の観点に基づいて 100 点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は 60% を原則とする。

| 観点ごとのポイント | | | | | | | | |
|----------------|--|------|---------|--------|----|--------|---|---|
| I 知識・技能 | 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。 | | | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 生物や生物現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探究している。 | | | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | 生物や生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。 | | | | | | | |
| 評価の場面 | 考査 | 考査以外 | | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| | 考査 | 小テスト | 授業の振り返り | 実験レポート | 課題 | 授業プリント | | |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | ○ | | ○ | | |
| II 思考・判断・表現 | ◎ | | ○ | ◎ | ○ | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ○ | | ◎ | | |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|--------|----------|----|----------------|--|------|
| 理科 | 実践生物基礎 | 3年 選択 | 2 | 生物基礎 (数研出版) | 新課程 スタディアップノート 生物基礎(数研出版) 改訂版 リードLight生物基礎(数研出版) ニューステージ ニ訂版 新生物図表(浜島書店) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-----------------------------|---|------------------|---|--|---|
| 4 | 第一 回 考 査 範 囲 | 第1編 生命とは 1. 生命の誕生 ～ヒトはどこからきたのか～ | 8 | 生物に共通する特徴や、単細胞生物から多細胞生物への進化に関する知識を確認する。さらに、「地球の変遷と生物の変化」を学ぶ。 | 地球誕生時の地球環境およびその後の環境の変化と生物誕生から現在に至るまでの地球環境の変遷と生物進化の関係について考えを深める。 | A・B・C |
| 5 | | 2. 生物のからだ① ～生物のからだは何でできているのか～ | 9 | 原核生物と真核生物の観察を行い、その姿は多様であつても、どちらも細胞が基本単位であることを確認する。さらに、細胞内共生説とその根拠について学ぶ。 | 真核生物と原核生物の違い、細胞内共生説から、真核生物誕生についての理解を深める。 | A・B・C |
| 6 | | 考査 | 1 | | | |
| 7 | 第二 回 考 査 範 囲 | 3. 生物のからだ② ～生物のからだを構成する物質とは、どのようなものなのか～ | 5 | 生物のからだ(細胞)を構成する水、タンパク質、核酸、炭水化物、脂質、無機物などの成分について、その化学構造を元素レベルで学習する。 | 生物のからだ成分は、構造的にどのような元素を共通して持つものなのか、さらに、それらの物質は地球上でどのように循環しているのかを考察する。 | A・B・C |
| 8 | | 4. 生物の遺伝情報① ～DNAの情報～ | 5 | 核酸の構造とはたらき、DNAの半保存的複製の仕組みについて確認する。さらに、インターネットによるDNAバンク等を活用し、さまざまな生物の塩基配列について学習する。 | 種によるDNAの塩基配列の違いとその意味について考えを深める。 | A・B・C |
| 9 | | 5. 生物の遺伝情報② ～遺伝情報の操作～ | 6 | DNAの転写・翻訳により、遺伝情報が発現することを確認する。遺伝子を組み換え技術とは、発現するタンパク質を制御することであることを理解する | 遺伝子組換え技術はどのように利用されているのかを調べ、その有用性と問題点について考えを深める。 | A・B・C |
| | | 考査 | 1 | | | |
| 10 | 第三 回 考 査 範 囲 | 第2編 生命を維持する仕組み 1. 体内環境の維持 ～血液と心臓の重要性～ | 10 | 自律神経系および内分泌系、心臓・腎臓・肝臓を中心とした生物の体内環境の維持の仕組みを確認する。さらに、心臓の働きについて深く学ぶ。 | 保健分野で学習した、生活習慣から心臓の機能低下がもたらされることや、血液循環の重要性を再認識し生活習慣病の予防・救命措置の意義について、深く考察する。 | A・B・C |
| 11 | | 2. 生体防御の仕組み～がん細胞排除の仕組みとがん予防～ | 11 | 免疫の仕組みについて確認し、リンパ球によるがん細胞抑制の仕組みを学習する。さらに、保健体育分野で学習した日本人の死因第1位であるがんの種類や、がんの予防に有効な健康的な生活習慣について探究する。 | がんの治療法や、がん遺伝子検査や遺伝子治療の有用性について知識を深める。 | A・B・C |
| | | 考査 | 1 | | | |
| 12 | 第四 回 考 査 範 囲 | 3. 生命の未来① ～脳とAI～ | 6 | 脳の構造とはたらきについて学習し、「脳死」「植物人間」「臓器移植時の脳死判定」について知識を深める。さらに、近年耳にする機会が増えているAIの仕組みを学習する。 | 脳とAIを対比させ、生命の意義とAIの活用について考えを深める。 | A・B・C |
| 1 | | 4. 生命の未来② ～SDGsと生物学～ | 6 | 世界の人口問題、都市・居住問題、食料問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題を学習し、これら諸問題と生物学のつながりに関する知識を深める。また、SDGsは、すべてのヒトのための目標であり、わたしたちの地球上すべての生命を維持するための目標でもあることを理解する。 | SDGsの17の目標から生物学と深く関わる目標を1つ取りあげ、諸問題の現状を調べ、生物学のつながりについて考察し、SDGsを達成するための取り組みを生物学的な視点から考察する。 | A・B・C |
| | | 考査 | 1 | | | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |

3年 体育（男子）

○学習の目的とねらい

- 1 自分の体の状態や変化を観察しながら運動の楽しさや喜びを味わい、それらの技能を身に付けることができる。
- 2 自己や仲間の課題を見つけ、思考・判断しながら自分の考えを他者に伝えることができる。
- 3 スポーツを通して、協調性、ルールやマナーの重要性を知ることができる。

○学習方法と授業の留意点

- 1 授業前 ～ 予習 ～
 - ・授業に向けての準備と服装を整え、ウォーミングアップと整列を素早く行うこと。
- 2 授業中 ～ 授業中の留意点 ～
 - ・常に安全に留意し、素早い行動を心掛けること。
 - ・周囲をよく見て協力し、意欲的に活動すること。
- 3 授業後 ～ 復習 ～
 - ・後片付けを全員協力して素早く行うこと。

○評価の方法

評価について

- ・評価は各期、以下の項目と観点に基づいて100点満点で行う。
- ・運動の技能、知識：①技能の習得 ②実技等の各種テスト ③ゲーム等での評価（動き）
 - ④単元の知識
 - ※練習やテスト、授業の中で確認(知識が活かされた動き)を行う。
 - (必要に応じて筆記テストの実施)
 - ⑤各時間での取り組み状況
- ・思考・判断・表現：①課題の把握(自己やチーム) ②課題に向けた取り組みや分析(思考)
 - ③①②の内容の他者への伝達（必要に応じてワークシートや振り返りシート等の実施）
- ・主体的に学習に
 - 取り組む態度：①主体的に取り組もうとする態度（活動の様子、活動量、自己の体調の把握）
 - ②準備体操・用具の準備・後片付け・服装・授業中の取り組みの姿勢
 - ③病気や怪我などで長期的に実技ができない場合はレポート等で評価することができる。

※評価の観点は以下のとおり。 記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 観 点 | 評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。 | 学習 状態 の 観察 | 実技 スキル | 実技 テスト | 各種テスト レポート 提出物 上記に 準ずる物 |
|-----------------------|---|---------------------|-----------|-----------|-------------------------------------|
| I 知識・技能 | 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにする。そのために、運動の多様性や体力の必要性について理解し、その技能を身につけている。 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ |
| II 思考・判断・表現 | 自己や仲間への課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断するとともに、考えたことを他者に伝えることができる。 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| III 主体的に 取り組む態度 | 生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康安全を確保している。 | ◎ | ○ | ○ | ○ |

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----------|----|-----------|----|--------------------|--------------------------|------|
| 保健 体育 | 体育 | 3学年 男子 | 2 | 新高等保健体育 (大修館書店) | ステップアップ高校スポーツ (大修館書店) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-----------------------------|--|------------------|---|---|---|
| 4 | 第一 回 考 査 範 囲 | オリエンテーション スポーツテスト 体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと) | 1 4 | 授業内容について 50m走・立ち幅跳び・反復横とび・シャトルラン・ボール投げ上体起こし・長座体前屈の測定について 各種目ごとにルール等の説明を聞く | 授業内容や評価方法について理解する。 自分の基礎体力がどのぐらいのレベルにあるのか(高校生男女別)を実践し、確認する。今後の自分の課題を見つける。 各種目ごとに、どのような仕組みで運動がおこなわれるか理解する。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 5 | | 陸上競技 | 5 | 短距離走、長距離走 | 中間走で高いスピードを維持して走る技術やペースの変化に応じて走る技術を身につける。 | A・B・C |
| 6 | | ソフトボール上級 (体育理論を含む) | 10 | 守備の連携やバットイングについて | チームでの守備の連携やバットイングを理解し、ゲームが円滑にできるようになる。 協力してゲームの運営ができる。 | A・B・C |
| 7 | 第二 回 考 査 範 囲 | 体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと) | | 馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く | 基礎体力を身につける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。 | A・B・C A・B・C |
| 8 | | ソフトテニス (気温に応じて卓球) サッカー上級 (体育理論を含む) | 10 | サーブ・ボレー・ストロークを利用した試合の進め方について (卓球の技術練習) | 基本技術を攻撃などに繋げることができる。 協力してゲームの運営ができる。 (ゲームにおいての攻防について。どのようにポイントをとるかを考え、実践することができる。) | A・B・C |
| 9 | | | 10 | ドリブル・パス・シュートの技術向上について | 個人だけではなくチームでの技術向上を目指す。戦略を立てながら円滑にゲームができるようになる。 協力してゲームの運営ができる。 | A・B・C |
| 10 | 第三 回 考 査 範 囲 | 体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと) | | 馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く | 基礎体力を身につける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。 | A・B・C A・B・C |
| | | バレーボール上級 (体育理論を含む) | 15 | レシーブやスパイク、三段攻撃を利用した試合の進め方について | 個人の技術だけではなく戦略を立て、色々な攻撃ができるようになる。 協力してゲームの運営ができる。 | A・B・C |
| | | | | | | |
| 12 | 第四 回 考 査 範 囲 | 体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと) | | 馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く | 基礎体力を身につける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。 | A・B・C A・B・C |
| 1 | | バスケットボール上級 (体育理論を含む) | 15 | ゲームでの戦略の立て方について | 個人の技術だけではなく戦略を立て、色々な攻撃ができるようになる。 協力してゲームの運営ができる。 | A・B・C |
| 2 | | | | | | |

3年 体育（女子）

○学習の目的とねらい

- 1 自分の体の状態や変化を観察しながら運動の楽しさや喜びを味わい、それらの技能を身に付けることができる。
- 2 自己や仲間の課題を見つけ、思考・判断しながら自分の考えを他者に伝えることができる。
- 3 スポーツを通して、協調性、ルールやマナーの重要性を知ることができる。

○学習方法と授業の留意点

- 1 授業前 ～ 予習 ～
 - ・授業に向けての準備と服装を整え、ウォーミングアップと整列を素早く行うこと。
- 2 授業中 ～ 授業中の留意点 ～
 - ・常に安全に留意し、素早い行動を心掛けること。
 - ・周囲をよく見て協力し、意欲的に活動すること。
- 3 授業後 ～ 復習 ～
 - ・後片付けを全員協力して素早く行うこと。

○評価の方法

評価について

- ・評価は各期、以下の項目と観点に基づいて100点満点で行う。
- ・運動の技能、知識：①技能の習得 ②実技等の各種テスト ③ゲーム等での評価（動き）
 - ④単元の知識
 - ※練習やテスト、授業の中で確認（知識が活かされた動き）を行う。
（必要に応じて筆記テストの実施）
 - ⑤各時間での取り組み状況
- ・思考・判断・表現：①課題の把握（自己やチーム） ②課題に向けた取り組みや分析（思考）
 - ③①②の内容の他者への伝達（必要に応じてワークシートや振り返りシート等の実施）
- ・主体的に学習に
 - 取り組む態度：①主体的に取り組もうとする態度（活動の様子、活動量、自己の体調の把握）
 - ②準備体操・用具の準備・後片付け・服装・授業中の取り組みの姿勢
 - ③病気や怪我などで長期的に実技ができない場合はレポート等で評価することがある。

※評価の観点は以下のとおり。 記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 観 点 | 評価項目 身に付けたい学力を 観点別に整理し、以下に示します。 | 学習 状態 の 観察 | 実技 スキル | 実技 テスト | 各種テスト レポート 提出物 上記に 準ずる物 |
|-----------------------|---|---------------------|-----------|-----------|-------------------------------------|
| I 知識・技能 | 運動の合理的計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにする。そのために、運動の多様性や体力の必要性について理解し、その技能を身につけている。 | ○ | ◎ | ◎ | ◎ |
| II 思考・判断・表現 | 自己や仲間への課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて試行し判断するとともに、考えたことを他者に伝えることができる。 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| III 主体的に 取り組む態度 | 生涯にわたって継続して運動に親しむために、運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするとともに、健康安全を確保している。 | ◎ | ○ | ○ | ○ |

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----------|----|-----------|----|--------------------|--------------------------|------|
| 保健 体育 | 体育 | 3学年 女子 | 2 | 新高等保健体育 (大修館書店) | ステップアップ高校スポーツ (大修館書店) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-------------|--|------------------|---|--|---|
| 4 | 第一回 考查範囲 | オリエンテーション スポーツテスト 体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと) | 1 4 | 授業内容について 50m走・立ち幅跳び・反復横とび・シャトルラン・ボール投げ上体起こし・長座体前屈の測定について 各種目ごとにルール等の説明を聞く | 授業内容や評価方法について理解する。 自分の基礎体力がどのぐらいのレベルにあるのか(高校生男女別)を実践し、確認する。今後の自分の課題を見つける。 各種目ごとにどのような仕組みで運動がおこなわれるか理解する。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 5 | | 陸上競技 | 5 | 短距離走、長距離走 | 中間走で高いスピードを維持して走る技術やペースの変化に応じて走る技術を身につける。 | A・B・C |
| 6 | | ソフトテニス中級 (体育理論を含む) | 10 | サーブ・ボレー・ストロークを利用した試合の進め方について | 基本技術を攻撃などに繋げることができる。 協力してゲームの運営ができる。 | A・B・C |
| 7 | 第二回 考查範囲 | 体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと) | | 馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く | 基礎体力を身につける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。 | A・B・C A・B・C |
| 8 | | 卓球 | 10 | 卓球の技術練習 | ゲームにおいての攻防について。どのようにポイントをとるかを考え、実践することができる。 | A・B・C |
| 9 | | フットサル上級 (体育理論を含む) | 10 | ドリブル・パス・シュートの技術向上について | 個人だけではなくチームでの技術向上を目指す。戦略を立てながら円滑にゲームができるようになる。 協力してゲームの運営ができる。 | A・B・C |
| 10 | 第三回 考查範囲 | 体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと) | | 馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く | 基礎体力を身につける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。 | A・B・C A・B・C |
| 11 | | バレーボール上級 (体育理論を含む) | 15 | レシーブやスパイク、三段攻撃を利用した試合の進め方について | 個人の技術だけではなく戦略を立て、色々な攻撃ができるようになる。 協力してゲームの運営ができる。 | A・B・C |
| 12 | | 体づくり運動(毎時間) 体育理論(各種目ごと) | | 馬跳び、腕立て伏せなど 各種目ごとにルール等の説明を聞く | 基礎体力を身につける。 各種目ごとにどのようなルールや動作で運動がおこなわれるか理解する。 | A・B・C A・B・C |
| 1 | 第四回 考查範囲 | バスケットボール上級 (体育理論を含む) | 15 | ゲームでの戦略の立て方について | 個人の技術だけではなく戦略を立て、色々な攻撃ができるようになる。 協力してゲームの運営ができる。 | A・B・C |
| 2 | | | | | | |

3年 音楽Ⅲ

○ 学 習 の ね ら い

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深く関わる資質・能力の育成を目指す。音楽Ⅲでは、生涯にわたり音楽を愛好する心情と音楽文化を尊重する態度を育てるとともに、「音楽Ⅰ」及び「音楽Ⅱ」で高めた感性を一層洗練させ、これまでに身に付けた表現や鑑賞の能力を基盤として個性豊かな音楽の能力を高める。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

予習はありませんが、小中学校で学習してきた音楽の基礎基本は必要です。覚えていること等は授業の中で活かせるようにしましょう。また、それぞれの分野（歌唱・器楽・創作・鑑賞）での取り組みに関して、自分でできること、歌うならば姿勢や声量など意識して取り組むようにしてください。遅刻は厳禁です。時間をよく見て音楽室へ移動してください。

2、授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ① 教科書・筆記用具を忘れないようにすること。
- ② 実技ですので、取り組み姿勢や先生からの指示や注意事項をきちんと聞くこと。
- ③ 楽器を伴う授業があります。楽器類は大切に扱うようすること。
- ④ 実技演奏もあります。授業で取り組んだ成果を出してください。
- ⑤ レポート提出もあります。期日を守って提出すること。

3、授業後 ～ 復習 ～

授業で取り組んだ内容を頭の片隅に記憶しておきましょう。そしてその時に感じたことや思い、難しい部分などを覚えて、次回に生かしてください。

「宿題」になる課題もありますので、忘れずに。

○ 評 価 の 方 法

考査は実施しません。実技練習等への取り組み状況、ワークシート提出、実技などで評価します。期ごとの授業分野内容によって異なるところがありますが、おおむね実技評価が4割～6割、実技練習等への取り組み状況が2割～3割、ワークシート評価が2割～3割となります。

| 観点ごとのポイント | | | | | |
|----------------|--|--------|------|------|-------|
| I 知識・技能 | 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性を深く理解し、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けようとしている。 | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かな音楽表現をすることや音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴いたりしている。 | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 | | | | |
| 評価の場面 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| | 学習状況観察 | ワークシート | 小テスト | レポート | 実技テスト |
| I 知識・技能 | | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| II 思考・判断・表現 | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ |
| III 主体的に取り組む態度 | ◎ | ◎ | | | ○ |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|-----|----------|----|-------------------------|------------|------|
| 芸術 | 音楽Ⅲ | 3年 選択 | 2 | Joy of Music (教育芸術社) | なし | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-----------------------------|--|------------------|--|--|---|
| 4 | 第一 回 考 査 範 囲 | ①いろいろな歌曲を表現 してみよう ①ー1 混声三部合唱「校歌」 ①ー2 同声三部合唱「ぼたるこい」 ②楽器を使ってアンサン ブルをしてみよう | 8 | ①さまざまな楽曲を鑑賞し、それぞれの持つ声質や発声法を学習する。 | ①さまざまな楽曲を鑑賞し、それぞれの持つ声質や発声法を理解し、表現して歌えるようにする。 | A・B・C |
| 5 | | | 10 | ①音楽Ⅱで取り組んだアンサンブル演奏を生かして、楽器を使ったアンサンブルに取り組む。 ②各楽器のバランスや表現の工夫を考え演奏する。 | ①自ら意欲的に演奏表現しながら取り組めるようにする。 ②音の調和や音量バランスなど、考えながら演奏できるようにする。 | A・B・C |
| 6 | 考 査 | | なし | | | |
| 7 | 第二 回 考 査 範 囲 | ③ミュージカルの音楽を 演奏しよう ③ー1 「レ・ミゼラブル」鑑賞 ③ー2 歌唱「夢やぶれて」 | 9 | ①曲にふさわしい発声で表現豊かに歌う。 ②ミュージカルの内容にあわせ、表現豊かに演奏する。 | ①登場人物の心情や場面を感じ取り、表現豊かに歌う。 ②表現豊かな歌唱と演奏に興味関心を持たせるようにする。 | A・B・C |
| 8 | | ④西洋音楽史について学 習しよう | 9 | ①時代をおって、ルネサンス～バロック～古典派～ロマン派～現代までの楽曲の時代背景を学習する。 ②楽曲を鑑賞し、批評しながら理解を深める。 | ①各時代により、音楽の様式や作曲方法が変容していったことを理解する。 ②楽曲を鑑賞し、お互いに感想を述べあいながら表現の違いを味わう。 | |
| 9 | 考 査 | | なし | | | |
| 10 | 第三 回 考 査 範 囲 | ⑤いろいろな音素材を創 造的に用いてアンサン ブルに取り組もう | 17 | ①音楽Ⅱで取り組んだことを生かして、音を厳選しアンサンブルに取り組む。常に音のバランスや調和を考え、チームワークよく取り組む。 ②発表会を実施し、互いの音に注目しながら音楽表現する。 | ①伴奏や副次的旋律の創作を積極的に行い、調和のとれた演奏を行う。 ②自分たちと他のグループ表現の違いなど気づき、講評する。 | A・B・C |
| 11 | | | | | | |
| 12 | 考 査 | | なし | | | |
| 1 | 第四 回 考 査 範 囲 | ⑥日本の音楽と世界の音 楽 | 17 | ①世界の中の日本の音楽、日本から見た世界の音楽と、幅を広げて、さまざまなことを学習する。 ②文化の違いや歴史的背景、伝統芸能など、それぞれの国の楽器の特徴等を学習する。 | ①声や楽器の音色の特徴やその表現上の効果、楽曲の背景とのかかわりに関心をもち主体的に取り組もうとする。 ②わが国及び世界の音楽の特徴を生かした音楽表現を理解することができる。 | A・B・C |
| 2 | | | | | | |
| 3 | 考 査 | | なし | | | |
| | | | | | | |

3年 器楽

○ 学 習 の ね ら い

器楽に関する学習を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、専門的な音楽に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。具体的には、楽曲の表現内容について理解を深めるとともに、創造的に器楽表現するために必要な技能を身に付け、音楽性豊かな表現について考え、表現意図を明確にもち、音楽性豊かな表現を追求する態度を養う。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

予習はありませんが、小中学校で学習してきた音楽の基礎基本は必要です。覚えていること等は授業の中で活かせるようにしましょう。遅刻は厳禁です。時間をよく見て音楽室へ移動してください。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ① 教科書・筆記用具を忘れないようにすること。
- ② 実技ですので、取り組み姿勢や先生からの指示や注意事項をきちんと聞くこと。
- ③ 楽器を使用する授業です。楽器類は大切に扱うようすること。
- ④ 実技演奏では、授業で取り組んだ成果を出してください。
- ⑤ レポート提出もあります。期日を守って提出すること。

3 授業後 ～ 復習 ～

授業で取り組んだ内容を頭の片隅に記憶しておきましょう。そしてその時に感じたことや思い、難しい部分などを覚えて、次回に生かしてください。

「宿題」になる課題もありますので、忘れずに。

○ 評 価 の 方 法

考査は実施しません。実技練習等への取り組み状況、ワークシート提出、実技などで評価します。期ごとの授業分野内容によって異なるところがありますが、おおむね実技評価が4割～6割、実技練習等への取り組み状況が2割～3割、ワークシート評価が2割～3割となります。

| 観点ごとのポイント | | | | | |
|----------------|--|--------|------|------|-------|
| I 知識・技能 | 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽文化の多様性を深く理解し、創意工夫や表現上の効果を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けようとしている。 | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 音楽に関する知識や技能を総合的に働かせながら、個性豊かな音楽表現をしようとしている。 | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | 主体的・協働的に器楽表現の学習活動に取り組もうとしている。 | | | | |
| 評価の場面 | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| | 学習状況観察 | ワークシート | 小テスト | レポート | 実技テスト |
| I 知識・技能 | | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| II 思考・判断・表現 | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ |
| III 主体的に取り組む態度 | ◎ | ◎ | | | ○ |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|----|----------|----|------------|------------|------|
| 芸術 | 器楽 | 3年 選択 | 2 | なし | なし | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-----------------------------|---------------------|------------------|---|---|---|
| 4 | 第一 回 考 査 範 囲 | ①楽典を学ぼう | 8 | ①楽譜を構成する音部記号と音名、階名等の事項を理解する。 ②リズムに特化した読譜、視奏に取り組む。 | ①音部記号の変更に伴う音名、階名の対応や反復記号を演奏に生かせるよう理解する。 ②音符の音価の理解とともに口唱歌でのリズム演奏及び器楽での演奏ができるようにする。 | A・B・C |
| 5 | | ②ボディー・パーカッションをしてみよう | 10 | ①リズムの特徴をとらえ、その良さを味わい演奏する。 ②リズムに特化したアンサンブルの良さを味わい表現する。 | ①リズムの構造的特徴を理解し、この特徴の良さを演奏表現に生かす工夫や技能を身につける。 ②リズムの持つ面白さや良さを、身体表現を伴う表現で他者と協力し表現できるようにする。 | A・B・C |
| 6 | 考 査 | | なし | | | |
| 7 | 第二 回 考 査 範 囲 | ③個人発表(その1) | 9 | ①任意の楽器を選択し、その楽器の歴史的背景や演奏上の特徴について調査する。 ②選択した楽器を使用して、任意の楽曲を演奏する。 | ①楽器の持つ歴史的背景や楽器の構造等の理解を深める。 ②リハーサル計画を立て、自らの技能の向上を意識する。 | A・B・C |
| 8 | | ④西洋音楽以外の音楽文化を学ぼう。 | 9 | ①世界の諸民族の音楽や我が国の伝統的な音楽に関する楽曲を演奏する。 ②西洋音楽文化以外の良さを味わう。 | ①非西洋音楽の音階やリズムの特徴を理解する。 ②非西洋音楽の歴史的・文化的背景について深く理解する。 | |
| 9 | | | | | | |
| 10 | 第三 回 考 査 範 囲 | ⑤個人発表(その2) | 17 | ①楽器の持つ良さを味わい、演奏する。 ②楽曲を音楽的に分析し、演奏する。 | ①楽器の固有の音色、表現の可能性を追求し、表現豊かな演奏ができる技能を身につける。 ②音階、リズム、和声、モチーフ、形式等の構造的な特徴を理解し、演奏に生かすことができる。 | A・B・C |
| 11 | | | | | | |
| 12 | 考 査 | | なし | | | |
| 1 | 第四 回 考 査 範 囲 | ⑥卒業演奏をしよう | 17 | ①任意の楽器を持ちより、受講者のみ特別なアンサンブルを演奏する。 ②楽曲の選定や編曲、演奏表現について話し合いを行い、演奏を作り上げる。 | ①大人数での演奏表現が有する良さを味わう。 ②適正なオーケストレーションの構成要素を理解し、自らの思いが演奏に反映されるように、技能を身につける。 | A・B・C |
| 2 | | | | | | |
| 3 | 考 査 | | なし | | | |
| | | | | | | |

3年 美術Ⅲ

○ 学 習 の ね ら い

美術の創造的な諸活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生活や社会の中の多様な美術や美術文化と深く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

- ・進路に向けて忙しい学年ではありますが、身近な媒体を利用して美術作品を鑑賞したり、生活の中にある優れたデザインに目を向けるだけでも十分な美的体験となります。日常生活に、隠れた発想のヒントを見い出しましょう。
- ・筆記用具や課題ごとに指示された用具は授業の前に各自で準備するようにしてください。遅刻は厳禁です。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ・3年間で学ぶ美術の集大成として、Ⅰ、Ⅱで培った知識や技術を駆使し、自分自身が納得のいく作品が制作できるよう、授業には集中して取り組んでください。また指示がなくても、用具の準備や後片付け、身の回りの清掃等も1、2年次同様、しっかり行ってください。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ・各課題の最後に記入する「コンセプト記入用紙・自己評価票」については、制作過程を知る上で重要なものと考えています。造形面、精神面の両面から自分の作品を掘り下げ、より深い思考が見られることを期待しています。

○ 評 価 の 方 法

- ・各期の課題（提出作品、アイディアスケッチ・下図・鑑賞等のワークシート、小テスト、コンセプト用紙/自己評価等）と授業への取り組み（課題理解、関心・意欲・態度、主体性、準備・片付け等）を100点満点で評価する。

| 評 価 の 観 点 | | | | | | | | |
|--------------|---|----------------------|----------|----------|-----------------|-----------|------------|-------------|
| Ⅰ 知識・技能 | 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を追求し、個性を生かして創造的に表すことができるようにする。 | | | | | | | |
| Ⅱ 思考・判断・表現 | 造形的なよさや美しさ、独創的な表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し個性を生かして発想し構想を練ったり、自己の価値観を働かせて美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 | | | | | | | |
| Ⅲ 主体的に取り組む態度 | 主体的に美術の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性と美意識を磨き、美術文化を尊重し、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。 | | | | | | | |
| 評 価 の 場 面 | 課 題 | | | | | | 授業への取り組み | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| | 作品 | アイディア スケッチ・ 下図 | 鑑賞 課題 | 小テス ト | コンセ プト用 紙 | 自己 評価等 | 準備・ 片付け | 学習状況 の観察 |
| Ⅰ 知識・技能 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | | | ○ |
| Ⅱ 思考・判断・表現 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | ◎ |
| Ⅲ 主体的に取り組む態度 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|-----|----------|----|---------------------|------------|------|
| 美術 | 美術Ⅲ | 3年 選択 | 2 | 高校生の美術3 (日本文教出版) | なし () | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解(実践)できた B:まあまあ C:理解(実践)できなかった |
|----|-------------------------|---|---------------------|---|--|---|
| 4 | 第一回 考 査 範 囲 | ガイダンス 鑑賞／想定デッサン 絵画「東北の建築を描く」 ① キャンバス製作 | 1 5 5 | 年間計画説明 ・ 鑑賞(教科書・映像鑑賞) ・ 想定デッサン(鉛筆) ・ キャンバス張り | ・ 美術の各分野に対する自身の興味や傾向を分析し、自己理解を図る。 ・ 教科書や映像の作品について、深く考察し、その良さや美しさについて自分の言葉で論述する。 ・ 建築物の一部をデザインし、空間性や立体感、パルル等を想定し鉛筆による応用的な描画表現を体得する。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 5 | | ② エスキース | 3 | ・ 各自の意図に基づき構図を検討する。 | ・ キャンバス張りの基礎技術を理解し、絵画制作に適した支持体をつくる。 ・ 構図、色彩、マチエールの効果を理解し、各自の意図に応じた画面構成をエスキースの段階で十分検討する。仕上がりを想定した地塗りを実施する。 | A・B・C |
| 6 | | ③ デッサン | 4 | ・ エスキースや各自が撮影した写真をもとに制作の下図となる風景のモチーフをデッサンする。 | ・ 対象をよく観察し、パースや形態を的確に捉え、主題が伝わる構図にする。 ・ 明暗による立体感、空間感の表現を工夫し、実感を伴う素描表現を身に付ける。 | A・B・C A・B・C |
| | 考 査 | | なし | | | |
| 7 | 第二回 考 査 範 囲 | ④ 彩色 | 17 | ・ 意図に応じたアクリル表現の可能性を追求する。 | ・ 彩色やマチエール等で意図に応じたアクリル表現を工夫、実践する。 ・ 制作意図や工夫点等の詳細をコンセプト用紙に明確に記述する。 ・ 他者の作品を鑑賞し、作品の良さと造形的意図を感じ取り、自分の言葉で論述する。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 8 | | | | | | |
| 9 | | | | | | |
| | 考 査 | | なし | | | |
| 10 | 第三回 考 査 範 囲 | クラフトデザイン 「身近な用具の制作」 | 18 | 素材を生かし、機能性と美しさを兼ね備えた「用の美」の追求を目指す。 ・ 技法の知識理解、使用場面の設定 ・ 材料や用具の特性の理解 | ・ 意図に応じてデザインを構想し、適切にスケッチや製図を行う。 ・ さまざまな技法を効果的に活用し、使う人や場面に応じたデザインの仕上げの美しさを追求する。 ・ 道具の扱いに注意し、片付けをしっかりと行う等、安全で計画的な制作態度を養う。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 11 | | | | | ・ コンセプト用紙に制作意図や構造の工夫等を明確に示す。 | A・B・C |
| 12 | | | | | | |
| | 第四回 考 査 範 囲 | グラフィックデザイン ① アイディアスケッチ ② デザイン制作 | 4 6 7 | 目的や機能、条件と造形的な美しさとの調和を考え、創造的にデザインする。 ・ デザイン鑑賞／色彩学／構成プロセスについて | ・ 日本や諸外国の優れたデザインを鑑賞し、デザインの役割や論理性を理解する。 ・ 造形性や象徴性、可読性に配慮し、デザインを構想する。 ・ デザインの基礎技法を理解し、演習課題を正確に丁寧に仕上げる。 ・ デザインの基礎技法を応用しながら、各自の意図に基づき、可読性に配慮した形態と配色、仕上げの美しさを追求する。 ・ コンセプト用紙に制作意図を詳細に、分かりやすく記述する。 | A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C |
| 1 | | | | | | |
| | 考 査 | | なし | | | |

3年 情報メディアデザイン

○ 学 習 の ね ら い

- ・視覚的な伝達効果を主とするデザインについて理解を深め、デザインにおける計画・表示と表現の能力を高める。
- ・デザインの有用性と美しさとの調和などを考えた制作の構想を大切にし、心豊かな生き方の創造にかかわるデザインの働きと文化についての理解を深める。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～予 習～

課題の前に関連する分野を様々な媒体を使って自分で調べてみることで、アイディアを出すヒントとなります。日頃からデザインに触れる機会を積極的に持つなど自己の感性を磨く機会を持つようにしましょう。筆記用具や課題ごとに指示された用具は授業の前に各自で準備するようにしてください。遅刻は厳禁です。

2 授 業 中 ～授業中の注意点～

授業ではデザインの構成プロセスを学び、自分の作品として仕上げていきます。常に“主体的に”集中して授業に取り組み、完成までの見通しを持って制作することが大切です。また、用具の取り扱いには十分に注意し、後片付け、身の回りの清掃等は声がかかなくともしっかり行ってください。夏場等の指示された時以外は飲食物の持ち込みは禁止となります。

3 授 業 後 ～復 習～

各課題の最後に、各自の意図や意欲をみる「コンセプト記入用紙・自己評価票」の記入があります。出来上がった作品の完成度だけでなく、どれだけ考えて(意図を持って)制作したかということも作者の制作過程を見る上で重要なことと考えています。また自分自身で課題をフィードバックし、次の課題の見通しを立てる機会にもなります。

○ 評 価 の 方 法

- ・各期の課題（提出作品、アイディアスケッチ・下図・鑑賞等のワークシート、小テスト、コンセプト用紙/自己評価等）と授業への取り組み（課題理解、関心・意欲・態度、主体性、準備・片付け等）を100点満点で評価する。

| 評 価 の 観 点 | | | | | | | | |
|----------------|---|----------------------|----------|----------|-----------------|-----------|------------|-------------|
| I 知識・技能 | デザインの造形要素の特徴や働きについて理解するとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すことができるようにする。 | | | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、デザインの目的や働きなどについて考え、主題を生成し、創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもってデザインやデザイン文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。 | | | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | デザインの創造活動の喜びを味わい、社会におけるデザインの役割と文化に関心を持ち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組む態度を養う。 | | | | | | | |
| 評 価 の 場 面 | 課 題 | | | | | | 授業への取り組み | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| | 作品 | アイディア スケッチ・ 下図 | 鑑賞 課題 | 小テス ト | コンセ プト用 紙 | 自己 評価等 | 準備・ 片付け | 学習状況 の観察 |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | ○ | | | ○ |
| II 思考・判断・表現 | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | | ◎ |
| III 主体的に取り組む態度 | ○ | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|----------------|----------|----|------------|---------------|------|
| 美術 | 情報メディア デザイン | 3年 選択 | 2 | プリント | なし () | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主 な 学 習 内 容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到 達 目 標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自 己 評 価 A:理解(実践)できた B:まあまあ C:理解(実践)できなかった | |
|------|-----------------------------|------------------------------|-----------------------------|---|---|---|---|
| 4 | 第一 回 考 査 範 囲 | ガイダンス | 1 | 年間計画説明／デザイン概論 | ・デザインに対する自身の興味や傾向を分析し、自己理解を図る。 | A・B・C | |
| | | デザイン演習① 「色彩学講座」 「配色演習」 | 7 | ・デザイン鑑賞 色の特徴や仕組みに基づいた配色について理解を深めていく。 ・色の属性、色の効果について ・描画ソフトの基礎演習／配色ワークシート作成 ・色彩学「小テスト」 | ・デザイン作品について、深く考察し、その良さと美しさについて自分の言葉で論述する。 | A・B・C | |
| | | デザイン演習② 「ツール演習」 | 4 | 描画ソフトのツールを使って、様々なオブジェクトの制作演習する。 ・矩形ツールやペンツール等の基礎演習によるワークシート作成 | ・色彩の持つ役割や効果を理解し、ワークシートに適切に配色表現ができる。 ・描画ソフトの技法を理解し、演習課題を正確に丁寧に仕上げる。 ・色彩学の基本の知識・理解 | A・B・C | |
| 5 | 第二 回 考 査 範 囲 | デザイン演習③ 「写真表現」 | 5 | 表したいイメージを基に構図や画面構成などを考え、カメラの特性を生かして撮影する。 ・写真表現の特徴について ・パソコンによる文字の構成 | ・描画ソフトのツール機能を利用して、基礎技法を体得する。 ・ツール機能を利用したワークシートの演習課題を正確に丁寧に仕上げる。 | A・B・C | |
| 6 | | 考 査 | なし | | | A・B・C | |
| | | 7 | グラフィックデザイン 「ピクトグラム制作」 | 1 | ピクトグラムの目的や機能、条件と造形的な美しさとの調和を考え、形態の構成や色彩等の造形要素の働きを加味しながら創造的にデザインする。 ・デザイン鑑賞／デザイン分析シート | 日本や諸外国の優れたピクトグラムを鑑賞し、デザインの役割や論理性を理解する。作品を鑑賞し、作品の良さと造形的意図を感じ取り、自分の言葉で論述する。 | A・B・C |
| | 8 | | ① 鑑賞 | 1 | | | A・B・C |
| 9 | | | ② アイディアスケッチ | 2 | ・ピクトグラムの機能／構成プロセスについて 描画ソフトの演習技法を応用し、各自のデザインをコンピューターで制作、コンセプト用紙の作成。 | ・校内に案内が必要な場所や注意喚起が必要な場所を見つけ、ピクトグラムの機能に配慮したデザインを構想する。 ・描画ソフトの技法を応用しながら、各自の意図に基づき、可読性に配慮した形態と配色、仕上げの美しさを追求する。コンセプト用紙に制作意図や設置場所について明確に記述する。 | A・B・C |
| | | 10 | ③ PCによる制作 | 4 | ・全体発表(口頭発表) | ・各自の作品について端的にプレゼンテーションを行う。 | A・B・C |
| | 11 | | 第三 回 考 査 範 囲 | VIデザイン 「仮想製菓会社の ロゴマーク制作」 | 1 | 各自が経営する仮想の製菓会社を設定し、イメージが明確なVIデザインを構想する。 | |
| 12 | | | ① 鑑賞 | 1 | ・デザイン鑑賞／デザイン分析シート | ・国内外の企業のマークを鑑賞し、作品の良さと造形的意図を感じ取り、自分の言葉で論述する。 | A・B・C |
| | | 1 | ② アイディアスケッチ | 2 | ・VIデザインと構成プロセスについて | ・企業の思想や販売物、ターゲット等を想定し、造形要素の働きを考えながらアイデアを適切にスケッチする。 | A・B・C |
| | 2 | | ③ PCによる制作 | 6 | ・コンピューターによるマーク制作/コンセプト用紙によるプレゼンテーション | ・各自の意図に基づき、仕上げの美しさを追求する。コンセプト用紙に制作意図を分かりやすく記述する。 | A・B・C |
| 3 | | | 考 査 | なし | | | |
| | | 4 | 第四 回 考 査 範 囲 | 「菓子のデザイン・模型制作」 | 6 | ・主力商品の設定・菓子のデザインのアイディアスケッチ、樹脂粘土による菓子模型の制作 | ・伝えたい商品イメージを明確に持ち、質感や色彩を意識しながら、丁寧に制作する。 |
| | 「菓子のパッケージデザイン」 | | | | 想定した企業の主力菓子商品のパッケージデザインを考える。 | ・日本の優れたパッケージデザインや各自が好きな商品パッケージを鑑賞し、機能や美しさを感じ取ると共に造形的な工夫について分析し、自分の言葉で論述する。 | A・B・C |
| ① 鑑賞 | 1 | | | ・デザイン鑑賞／デザイン分析シート | | A・B・C | |
| 5 | 第五 回 考 査 範 囲 | ② アイディアスケッチ | 3 | ・パッケージデザインの構成要素 | ・伝えたい商品イメージを明確に持ち、パッケージの機能性に配慮して形を構想し、適切にスケッチや製図を行う。 | A・B・C | |
| | | ③ トリミング演習 | 1 | ・描画ソフトによる写真加工の技術 | ・パッケージデザインに応用できるペンツールによるトリミングを適切に、丁寧にを行う。 | A・B・C | |
| | | 「パッケージ制作」 | 8 | 各自がデザインしたパッケージデザインを描画ソフトを使って再現する。 | ・描画ソフトの技法を応用しながら、各自の意図に基づき、可読性に配慮した構成と配色、仕上げの美しさを追求する。 | A・B・C | |
| 6 | 第六 回 考 査 範 囲 | 考 査 | なし | | | | |
| | | 7 | 第七 回 考 査 範 囲 | 17 | ・描画ソフトによるパッケージ表面の制作 ・印刷・組み立て ・コンセプト用紙によるプレゼンテーション | ・伝えたい商品イメージを明確に持ち、適切に制作する。 ・意図に応じて、丁寧に制作する。 ・制作意図や各工程の工夫点を明確に言語化する。 | A・B・C |
| | | | | 8 | 考 査 | なし | |
| 9 | 考 査 | | | | なし | | |

3年 英語コミュニケーションⅢ

○ 学 習 の ね ら い

英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、5つの領域（聞くこと・読むこと・話すこと（やりとり）・話すこと（発表）・書くこと）において言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を養う。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

ワークブックや授業ワークシートを使用して、各レッスンの新出単語の意味を調べる。

新出語句は、単語集「Bricks 1」を活用し確認する。

発音に注意し、できるだけ多く音読練習をする。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

教科書・授業用ワークシート・辞書・を用いて授業を行うことが中心になる。各レッスンのストーリーがどのように展開されていくのか、段落ごとの関係性を把握しながら読む。新出ごとに関連したテストを実施する。

3 授業後 ～ 復習 ～

ワークブックや授業ワークシートの内容を復習する。

○ 評 価 の 方 法

・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は70%を原則とする。

| 観点ごとのポイント | | | | | | | | |
|----------------|--|-------------|------|-------|-------------|-------------|-------------|---|
| I 知識・技能 | 外国語の4技能について、実際のコミュニケーションにおいて活用できる知識・技能を身に付けている。外国語の学習を通して、言語の働きや役割などを理解している。 | | | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 場所・目的・状況などに応じて、日常的・社会的な話題について、情報や考えなどを外国語で的確に理解したり適切に伝え合ったりしている。 | | | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | 他者を尊重し、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、外国語で聞いたり、読んだりしたことを活用して自分の意見や考えなどを話したり書いたりして表現しようとしている。 | | | | | | | |
| 評価の場面 | 考査 | 考査以外 | | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| | 考査 | 教科書に関わる小テスト | 課題提出 | 課題テスト | 言語活動に取り組む姿勢 | パフォーマンステスト1 | パフォーマンステスト2 | |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | ○ | | ○ | ○ | |
| II 思考・判断・表現 | ○ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ○ | | ◎ | ◎ | ◎ | |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|--------------|------------|----|---|--|------|
| 英語 | 英語コミュニケーションⅢ | 3年 全クラス | 4 | All Aboard! English Communication III (東京書籍) | All Aboard! English Communication Ⅲワークブック (東京書籍) | 140 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-----------------------------|---|------------------|---|--|---|
| 4 | 第一 回 考 査 範 囲 | Lesson 1 Gifts to Barcelona | 13 | (芸術・生き方) アントニオ・ガウディの作品について | ・アントニオ・ガウディが設計した建築物の概念や特徴を理解できる。 | A・B・C |
| 5 | | Lesson 2 Akkamui | 13 | (自然・共生) 北海道の自然観察ツアーについて | ・北海道の野生動物やアイヌの人々について理解を深め自分の意見を発表できる。 | A・B・C |
| 6 | | Lesson 3 Your True Colors | 13 | (生活・文化) なぜ私たちは衣服を身につけるのか、 文化的背景とジェンダーについて | ・衣服の働きや自己表現方法のあり方を学び、 自分で調べたり考えたりしたことを原稿でまとめられる。 | A・B・C |
| 6 | 考 査 | | 1 | | | |
| 7 | 第二 回 考 査 範 囲 | Lesson 4 Our Future Food? | 13 | (生活・環境) 食糧不足について | ・近い将来訪れる食糧不足への備えや、宇宙食として注目される昆虫食についての対話文を読み食糧問題について自分なりの意見を発表できる。 | A・B・C |
| 8 | | Lesson5 Madagasucar | 13 | (自然・環境) マダガスカル ¹ の自然と人々について | ・マダガスカルについて学び、地球環境や生態系について考えたり、地域の自然の特徴を理解し整理できる。 | A・B・C |
| 9 | | Lesson6 The Mystery of the Terracotta Warriors | 13 | (歴史・文化継承) 古代中国の歴史について | ・古代中国を統一した秦の始皇帝の業績と彼が残した兵馬俑について書かれた記事を読み情報をまとめることができる。 | A・B・C |
| 9 | 考 査 | | 1 | | | |
| 10 | 第三 回 考 査 範 囲 | Lesson7 Green Challenges | 13 | (環境) 地球温暖化について | ・日本と世界の国々が使用するエネルギー源を比較し、これからのエネルギー問題についてプレゼン形式の文章から効力のある発電方法を考えることができる。 | A・B・C |
| 11 | | Lesson 8 Witnesses of War | 13 | (戦争・平和) 原爆を経験した女子生徒について | ・広島 ² の路面電車を運転していた女子生徒と、戦後の復興のエピソードを通して、戦争の恐ろしさ、平和の大切さを学び、自分の意見を発表することができる。 | A・B・C |
| 11 | | Lesson 9 The Wonders of Lightning | 13 | (自然・環境) 雷の発生と地球温暖化の関連性について | ・雷が発生する仕組みや避難方法、電気自動車へのエネルギーの切り替えが求められる必要性を理解できる。 | A・B・C |
| 12 | 考 査 | | 1 | | | |
| 1 | 第四 回 考 査 範 囲 | Lesson10 Katherine's Long Journey | 10 | (人権・生き方) 人種差別・女性差別を乗り越えた米国 ¹ について | ・人種差別の壁を越えて、米国の宇宙開発に貢献したキャサリン・ジョンソンについて理解したり、社会に影響を与えた人物で調べてまとめたことを用い | A・B・C |
| 1 | | Reading 1・2 The Fun They Had Table for Two | 9 | 未来を設定した物語の ¹ について | ・2つの英語による読み物を通して登場人物の心情を理解し、それぞれの物語に自分の考えを発表することができる。 | A・B・C |
| 1 | 考 査 | | 1 | | | |

3 年 論理・表現Ⅲ

○ 学 習 の ね ら い

多様化している生徒の実態を考慮し、「論理・表現Ⅰ・Ⅱ」の内容を踏まえて、3つの領域別の言語活動および複数の領域を結びつけた統合的な言語活動を通して、「話すこと[やり取り]」「話すこと[発表]」「書くこと」を中心とした発信能力の育成を強化し、特に論理的に表現する能力を育成する。

○ 学 習 方 法

- 1 授業の前 ～ 予習 ～
ワークブックを使用し、各レッスンの学習項目を確認する。
- 2 授 業 中 ～ 授業中の注意点 ～
教科書を用いて授業を行うことが中心になる。
- 3 授 業 後 ～ 復習 ～
ワークブックを使用し、確認する。

○ 評 価 の 方 法

・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は70%を原則とする。

| 観点ごとのポイント | | | | | | | | |
|--------------|---|------|-------------|------------|---------------------|--------------------|---|---|
| Ⅰ 知識・技能 | 3つの領域別の言語活動および複数の領域を結びつけた総合的な言語活動を通して、論理的思考力や批判的思考力を理解している。 | | | | | | | |
| Ⅱ 思考・判断・表現 | コミュニケーション活動や体験を通して、他者を受け入れ、個人の価値を尊重することのできる豊かな心を育成する。 | | | | | | | |
| Ⅲ 主体的に取り組む態度 | 自分の考えや自分たちの文化を外に発信していける力を培い、学んだ内容の深化・発展に積極的に取り組む。 | | | | | | | |
| 評価の場面 | 考査 | 考査以外 | | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| | 考査 | 小テスト | 学習状況 の観察 | 提出物1 課題 | 提出物2 スタディ サブリ | パフォー マンステ スト | | |
| Ⅰ 知識・技能 | ◎ | ◎ | ○ | | | ◎ | | |
| Ⅱ 思考・判断・表現 | ◎ | ◎ | | | | ◎ | | |
| Ⅲ 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ◎ | ○ | ◎ | | |

※記号の凡例 (◎：特に重視する、○：重視する)

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|--------|------|----|---|--|------|
| 英語 | 論理・表現Ⅲ | 3年文系 | 2 | APPLAUSE ENGLISH LOGIC AND EXPRESSION Ⅲ (開隆堂) | APPLAUSE Logic and Expression Ⅲ ワークブック (開隆堂) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-----------------------------|--|------------------|--|---|---|
| 4 | 第一 回 考 査 範 囲 | Lesson 1 What are you going to do during the Golden week holiday? | 8 | 予定・意図・確信・希望・願望を表す 用法の理解をもとに、ゴールデン ウィークの計画について紹介する技 能を身に付ける。 | ゴールデンウィークの計画について、聞いたり 読んだりしたことを活用しながら、自分の考えを 積極的に表現する。 | A・B・C |
| 5 | | Lesson 2 What do you want to do in the future ? | 8 | 好き・嫌い・得意・不得意など個人的 感想を表現する技能を身に付ける。 | 将来就きたい職業とその理由や重視するポイント について、聞いたり読んだりしたことを活用し ながら、自分の考えを聞き手に伝える。 | A・B・C |
| | | 考査 | 1 | | | |
| 7 | 第二 回 考 査 範 囲 | Lesson 3 Suggest a new style of Traveling | 5 | 提案・助言・必要性・義務・勧誘・受 諾・辞退を表す表現を身に付ける | エコツーリズムの必要性や具体的方法などにつ いて、ペアやグループでの話し合いをとおして、 自分たちの考えをまとめ英語で表現できる。 | A・B・C |
| 8 | | Lesson 4 Communicating your request | 6 | 依頼・要請・許可を表す表現を身に 付ける。 | プレゼンテーション大会に関する要望などにつ いて、自分の考えを読み手にわかりやすく伝え る。 | A・B・C |
| 9 | | 考査 | 1 | | | |
| 10 | 第三 回 考 査 範 囲 | Lesson 5 Thank you for your support | 5 | | | |
| | | | 6 | 感謝・祝福・喜び・同情・心配・懸念を 表す表現を身に付ける。 | 感謝や祝福などの気持ちについて、ペアでの話 し合いをとおして自分たちの考えをまとめ発表 する。 | A・B・C |
| 11 | | Lesson 6 How to Complain politely | 6 | 苦情・謝罪・譲歩を表す表現を身に 付ける。 | 自分が置かれている状況や要望について、聞 き手に積極的に伝える。 | A・B・C |
| | | 考査 | 1 | | | |
| 12 | 第四 回 考 査 範 囲 | Lesson 7 My speciality | 8 | 時間的順序・空間的配列・方向・数 量(比較)・方法・様態を表す表現を 身に付ける。 | 自分が得意な料理のレシピについて、いろい ろなデータや情報をもとに、聞き手にわかりやす く伝える。 | A・B・C |
| 1 | | Lesson 8 Myspecial people and place | 8 | 人物や事物に関する描写・説明を表 す表現を身に付ける。 | 自分が行きたい国について、理由を挙げなが ら、聞き手にわかりやすく発表する。 | A・B・C |
| 2 | | 考査 | 1 | | | |
| 3 | | | | | | |

3年（選択D） 応用英語

○ 学 習 の ね ら い

- ・「英語によるコミュニケーション」を意識し、「五つの領域」をバランス良く強化するとともに、コミュニケーションを行う目的や場面・状況などに応じて、話題についてその事項を活用する技能を身に付けるようにする。
- ・英語の論理性に沿って英文を分析し、話題の本質を捉える力を伸ばす。
- ・外国語の背景にある文化に対する理解を深め、書き手の思いを汲み取りながら英語を読む意欲を高める。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

副教材や授業用ハンドアウト等を使用して、各レッスンの新出単語の意味を辞書で調べる。
予習用の課題を解き、授業に備える。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

副教材や授業用ハンドアウト等と辞書を用いて授業を行うことが中心になる。「五つの領域」をバランス良く強化するため、常に英語で考えて表す態度が求められる。授業でのあらゆる言語活動に加え、学習内容に準じた小テストやパフォーマンステストを実施する。

3 授業後 ～ 復習 ～

副教材や授業用ハンドアウト等の内容を復習する。振り返りシート等で自己評価する。

○ 評 価 の 方 法

- ・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は70％を原則とする。

| 観点ごとのポイント | | | | | | | | |
|----------------|--|------|------------|--------|-------------|------|---|---|
| I 知識・技能 | 様々な英文が伝える目的や場面およびコミュニケーションが行われる目的や状況などに応じて、言語材料を活用し、話題について理解するため知識・技能を身に付けている。 | | | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 様々な英文が伝える目的や場面およびコミュニケーションが行われる目的や状況などに応じて、言語材料を活用し、話題について思考・判断・表現する力を身に付けている。 | | | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | 様々な英文が伝える目的や場面およびコミュニケーションが行われる目的や状況などに応じて、英語を理解したり、運用したりしようとする主体的に取り組む態度を身に付けている。 | | | | | | | |
| 評価の場面 | 考査 | 考査以外 | | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ |
| | 考査 | 小テスト | パフォーマンステスト | 課題等の提出 | 言語活動に取り組む姿勢 | 自己評価 | | |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ | | | |
| II 思考・判断・表現 | ◎ | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ | | |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ◎ | ◎ | ◎ | ◎ | | |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|------|--------|----|------------|--------------------------------|------|
| 英語 | 応用英語 | 3年・選択D | 2 | ※学校作成教材 | ・五訂版英語総合問題集 UNITE STAGE2(数研出版) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考査 | 単元(授業展開) | 授業 時数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|------------|-------------|------------------------|---|--|---|---|
| 4 | 第一回 考査範囲 | オリエンテーション及び 論説文 | 7 | 論説文を読み、話題の内容を理解し、各設問に答える。関連した内容について、生徒同士で会話の練習をしたり、教師とのやりとりも英語で行ったりする。また、該当レッスンの文法事項、語彙、リスニング学習を経て、英語で自分の考えを表現する。 | ・論説文の構造や展開を理解し、内容に応じた「読む」「聞く」「書く」ことの設問に答えることができる。 ・自分の考えや相手の考えを交換・共有・発表するなどして、積極的に英語でコミュニケーションができる。 | A・B・C A・B・C |
| 5 | | 対話文 | 5 | 対話文を読み、話題の内容を理解し、各設問に答える。関連した内容について、生徒同士で会話の練習をしたり、教師とのやりとりも英語で行ったりする。また、該当レッスンの文法事項、語彙、リスニング学習を経て、英語で自分の考えを表現する。 | ・対話文の構造や展開を理解し、内容に応じた「読む」「聞く」「書く」ことの設問に答えることができる。 ・自分の考えや相手の考えを交換・共有・発表するなどして、積極的に英語でコミュニケーションができる。 | A・B・C A・B・C |
| 6 | | 物語文 | 5 | 物語文を読み、話題の内容を理解し、各設問に答える。関連した内容について、生徒同士で会話の練習をしたり、教師とのやりとりも英語で行ったりする。また、該当レッスンの文法事項、語彙、リスニング学習を経て、英語で自分の考えを表現する。 | ・物語文の構造や展開を理解し、内容に応じた「読む」「聞く」「書く」ことの設問に答えることができる。 ・自分の考えや相手の考えを交換・共有・発表するなどして、積極的に英語でコミュニケーションができる。 | A・B・C A・B・C |
| | | パフォーマンステスト | 1 | 考査前までの既習事項に関して、英語で音読、やりとり、発表等を行う。 | ・事前の練習等も含めて、積極的に英語を運用できる。 | A・B・C |
| | | 考査 | 1 | | | |
| 7 | 第二回 考査範囲 | 第1期の振り返り及び メール文 | 7 | メール文を読み、話題の内容を理解し、各設問に答える。関連した内容について、生徒同士で会話の練習をしたり、教師とのやりとりも英語で行ったりする。また、該当レッスンの文法事項、語彙、リスニング学習を経て、英語で自分の考えを表現する。 | ・メール文の構造や展開を理解し、内容に応じた「読む」「聞く」「書く」ことの設問に答えることができる。 ・自分の考えや相手の考えを交換・共有・発表するなどして、積極的に英語でコミュニケーションができる。 | A・B・C A・B・C |
| | | 物語文 | 5 | 物語文を読み、話題の内容を理解し、各設問に答える。関連した内容について、生徒同士で会話の練習をしたり、教師とのやりとりも英語で行ったりする。また、該当レッスンの文法事項、語彙、リスニング学習を経て、英語で自分の考えを表現する。 | ・物語文の構造や展開を理解し、内容に応じた「読む」「聞く」「書く」ことの設問に答えることができる。 ・自分の考えや相手の考えを交換・共有・発表するなどして、積極的に英語でコミュニケーションができる。 | A・B・C A・B・C |
| | | | | 論説文 | 5 | 論説文を読み、話題の内容を理解し、各設問に答える。関連した内容について、生徒同士で会話の練習をしたり、教師とのやりとりも英語で行ったりする。また、該当レッスンの文法事項、語彙、リスニング学習を経て、英語で自分の考えを表現する。 |
| | | パフォーマンステスト | 1 | 考査前までの既習事項に関して、英語で音読、やりとり、発表等を行う。 | ・事前の練習等も含めて、積極的に英語を運用できる。 | A・B・C |
| | | 考査 | 1 | | | |
| 10 | 第三回 考査範囲 | 第2期の振り返り及び 対話文 | 7 | 対話文を読み、話題の内容を理解し、各設問に答える。関連した内容について、生徒同士で会話の練習をしたり、教師とのやりとりも英語で行ったりする。また、該当レッスンの文法事項、語彙、リスニング学習を経て、英語で自分の考えを表現する。 | ・対話文の構造や展開を理解し、内容に応じた「読む」「聞く」「書く」ことの設問に答えることができる。 ・自分の考えや相手の考えを交換・共有・発表するなどして、積極的に英語でコミュニケーションができる。 | A・B・C A・B・C |
| 論説文 | | 5 | 論説文を読み、話題の内容を理解し、各設問に答える。関連した内容について、生徒同士で会話の練習をしたり、教師とのやりとりも英語で行ったりする。また、該当レッスンの文法事項、語彙、リスニング学習を経て、英語で自分の考えを表現する。 | ・論説文の構造や展開を理解し、内容に応じた「読む」「聞く」「書く」ことの設問に答えることができる。 ・自分の考えや相手の考えを交換・共有・発表するなどして、積極的に英語でコミュニケーションができる。 | A・B・C A・B・C | |
| | | | 図表文 | 5 | 図表文を読み、話題の内容を理解し、各設問に答える。関連した内容について、生徒同士で会話の練習をしたり、教師とのやりとりも英語で行ったりする。また、該当レッスンの文法事項、語彙、リスニング学習を経て、英語で自分の考えを表現する。 | ・図表文の構造や展開を理解し、内容に応じた「読む」「聞く」「書く」ことの設問に答えることができる。 ・自分の考えや相手の考えを交換・共有・発表するなどして、積極的に英語でコミュニケーションができる。 |
| パフォーマンステスト | | 1 | 考査前までの既習事項に関して、英語で音読、やりとり、発表等を行う。 | ・事前の練習等も含めて、積極的に英語を運用できる。 | A・B・C | |
| 考査 | | 1 | | | | |
| 12 | 第四回 考査範囲 | 第3期の振り返り及び グラフを含む英文 | 6 | グラフを含む英文を読み、話題の内容を理解し、各設問に答える。関連した内容について、英語で会話練習をしたり、教師とのやりとりも行う。また、該当レッスンの文法事項、語彙、リスニング学習を経て、英語で自分の考えを表現する。 | ・グラフを含む英文の構造や展開を理解し、内容に応じた「読む」「聞く」「書く」ことの設問に答えることができる。 ・自分の考えや相手の考えを交換・共有・発表するなどして、積極的に英語でコミュニケーションができる。 | A・B・C A・B・C |
| 1 | | グラフを含む英文 | 5 | グラフを含む英文を読み、話題の内容を理解し、各設問に答える。関連した内容について、英語で会話練習をしたり、教師とのやりとりも行う。また、該当レッスンの文法事項、語彙、リスニング学習を経て、英語で自分の考えを表現する。 | ・グラフを含む英文の構造や展開を理解し、内容に応じた「読む」「聞く」「書く」ことの設問に答えることができる。 ・自分の考えや相手の考えを交換・共有・発表するなどして、積極的に英語でコミュニケーションができる。 | A・B・C A・B・C |
| | パフォーマンステスト | 1 | 考査前までの既習事項に関して、英語で音読、やりとり、発表等を行う。 | ・事前の練習等も含めて、積極的に英語を運用できる。 | A・B・C | |
| | 考査 | 1 | | | | |

合計 70 時間

3年 生活と福祉 (選択科目)

○ 学 習 の ね ら い

- ・高齢期にいたるまでの健康づくりについて考えさせるとともに、ライフステージごとの健康管理について、具体的な事例を通して理解する。
- ・高齢者福祉に関する法規や制度・サービスについて理解させ、介護予防の考え方にもとづき、自立生活支援と介護に関する基礎的な知識と技術を身につける。
- ・地域の高齢者の生活に関心を持ち、高齢者と積極的にかかわり、適切な生活支援や介護ができたり、福祉の充実、向上をめざしたりすることのできる能力と実践的な態度を身につける。

○ 学 習 方 法

1 授 業 前 ～ 予 習 ～

- 座学では、前回の学習内容を確認し、教科書を一通り読んでおくこと。
- 実習については、実習の目的と内容を確認し、手順を頭に入れておくこと。

2 授 業 中 ～ 授業中の注意点 ～

- 座学では、板書のみならず口頭での説明も聞き、大切なことはメモを取りながら受ける。
- 実習では、先生の指示をふまえて、積極的・自主的かつ安全に配慮して行動する。

3 授 業 後 ～ 復 習 ～

- 座学では、ワーク・プリント類がまとめられているかを確認し、不十分な所は先生に質問して補っておく。
- 実習では、まとめのレポートを書き上げる。その際に空欄などないようにきちんと書き上げること。
- また、実習における成果や課題、改善点などの振り返りもしっかり行い、まとめておくこと。

○ 評 価 の 方 法

- ・下記の観点に基づいて 100 点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は原則 60% とする。

| 観点ごとのポイント | | | | | | | |
|----------------|--|------|---------------|----|-----------|--------------------|--------------|
| I 知識・技能 | ライフステージごとの心身の特徴や健康管理について、具体的な事例を通して理解している。また、高齢者福祉に関する法規や制度・サービスについて背景や概要を理解しており、介護予防の考え方にもとづき、自立生活支援と介護に関する基礎的な知識を習得し、実践的な技術が身についている。 | | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 高齢期にいたるまでの健康づくりについて、さまざまな健康観から考えることができる。また、介護や看護について課題を設定し、解決策を構想し実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている。 | | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | さまざまな人々と協働し、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域の高齢者の生活に関心をもって積極的にかかわろうとしている。 | | | | | | |
| 評価の場面 | 考査 | 考査以外 | | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ |
| | 考査 | 小テスト | 実習・講習 レポート | 実習 | 学習 ノート | パフォー マンステ スト | 振り返り 自己評価 |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | ○ | | ◎ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ○ | ◎ | ○ | ◎ | ○ |

※記号の凡例 (◎：特に重視する、○：重視する)

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|-------|----------|----|------------|-------------------------------------|------|
| 家庭 | 生活と福祉 | 3年 選択 | 2 | なし | 生活と福祉(実教出版) 生活と福祉学習ノート(実教出版) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-------------|---------------------|------------------|---|--|---|
| 4 | 第一回 考查範囲 | オリエンテーション | 1 | 年間の授業計画や評価方法について | | A・B・C |
| | | 第1章 健康と生活 | 5 | 1節 健康に関する諸概念 2節 ライフステージと健康管理 | ・健康の定義を理解し、健康寿命やQOLを高めることが課題であることを理解する ・健康の成立要因について理解し、生活習慣と関連付けて考察できる | |
| 5 | | 第5章 介護の実習 | | 1節 体位変換 2節 歩行介助 | ・体位変換の目的やその方法、ボディメカニクスについて理解している ・高齢者の歩行の傾向を知り、その特徴と介護の方法を習得する | |
| 6 | | 第6章 看護の実習 | 7 | 3節 車椅子の移乗・移動の介護 | ・移動・移乗の目的を知り、車椅子の操作を習得する | |
| | 第二回 考查範囲 | | 3 | 2節 バイタルサイン(生命徴候)の見方 7節 脱水 8節 熱中症 | ・バイタルサインについて理解し、体温・脈拍・呼吸・血圧の測定の方法を理解する | A・B・C |
| 7 | | 第2章 少子高齢化の現状と高齢者の特徴 | 4 | 1節 少子高齢化の現状 2節 家族・地域の変化 | ・日本の高齢化の要因と推移について理解する ・地域の実情に即した福祉を考える | A・B・C |
| 8 | | | 13 | 3節 高齢者の心身の特徴(高齢者疑似体験) 4節 高齢者の病気 | ・加齢に伴う心身の変化と個人差について理解する ・恒常性と老年病について理解する | A・B・C |
| 9 | | 第5章 介護の実習 | | 5節 高齢者にみられる主な疾患や症状(認知症に関する講習会) 6節 高齢者の生活課題と施策 6節 衣服の着脱の介護 | ・麻痺・視聴覚障害・認知症の症状を理解し、その対応を知る ・高齢者の生活課題を知る ・片麻痺を想定した実習で、衣服の着脱の方法を理解する | A・B・C |
| | 第三回 考查範囲 | 第3章 高齢者の自立支援 | 1 | | | |
| 10 | | 第5章 介護の実習 | 4 | 1節 人間の尊厳 | ・尊厳の定義を理解し、介護のあり方を知る ・ノーマライゼーションなどの社会福祉の考え方を理解する | A・B・C |
| | | | 8 | 2節 高齢者介護の考え方 3節 コミュニケーションと介護(外部講師実習) | ・介護予防の重要性や生活支援に向けたリハビリテーションについて理解する ・言語障害・麻痺・視聴覚障害・認知症の介護を理解する。聴覚障害者とのコミュニケーションについても理解する | A・B・C |
| 11 | | | 5 | 4節 食事の介護 5節 ベッドメイキング | ・食事を安全に食べることの重要性とその介護方法について理解する ・リネン類の扱い方を理解し、ベッドメイキングの意義と目的を理解する | A・B・C |
| 12 | 第四回 考查範囲 | 第4章 高齢者支援の法律と制度 | 1 | | | A・B・C |
| | | 第6章 看護の実習 | 10 | 1節 社会保障・社会福祉制度のしくみ(外部講師授業) 2節 介護保険制度のしくみ 3節 さまざまな高齢者支援のしくみ 4節 地域共生社会 | ・日本の社会保障制度のしくみを理解する ・介護保険制度のしくみを理解する ・社会福祉の考え方と法や制度の目的と概要を理解する ・地域包括ケアシステムの概要と、地域包括支援センターの役割を理解する | A・B・C |
| 1 | | | 6 | 3節 口腔の清潔 4節 誤嚥と窒息 5節 転倒と骨折 6節 低温やけど 9節 高血圧と低血圧 10節 糖尿病 | ・概論とその予防法、またその症状と対処法について理解する | A・B・C |
| | | 考查 | 1 | | | |

3年 保育基礎 (選択科目)

○ 学 習 の ね ら い

- ・保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴及び子どもの福祉と文化などについて体系的・系統的に理解すると共に関連する技術を身につける。
- ・子どもを取り巻く課題を発見し、保育を担う職業人として合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- ・子どもの健やかな発達について学び、保育に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

○ 学 習 方 法

1 授 業 前 ～ 予 習 ～

- 座学では、前回の学習内容を確認し、教科書を一通り読んでおくこと。
- 実習については、実習の目的と内容を確認し、手順を頭に入れておくこと。

2 授 業 中 ～ 授業中の注意点 ～

- 座学では、板書のみならず口頭での説明も聞き、大切なことはメモを取りながら受ける。
- 実習では、先生の指示をふまえて、積極的・自主的かつ安全に配慮して行動する。

3 授 業 後 ～ 復 習 ～

- 座学では、ワーク・プリント類がまとめられているかを確認し、不十分な所は先生に質問して補っておく。
- 実習では、まとめのレポートを書き上げる。その際に空欄などないようにきちんと書き上げること。
- また、実習における成果や課題、改善点などの振り返りもしっかり行い、まとめておくこと。

○ 評 価 の 方 法

- ・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は原則60～70%とする。

| 観点ごとのポイント | | | | | | |
|----------------|---|-----------|------------|----|------------|--------------|
| I 知識・技能 | 子どもの発達や生活の特徴、保育、福祉や文化などについての知識を体系的・系統的に身につけている 子どもの発達の特性や発達過程に対応した技術を身につけている | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 子どもを取り巻く課題を見つけ、保育を担う職業人の視点から合理的かつ創造的に解決するために思考を深め、適切な判断や工夫、表現をする力を身につけている | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | 子どもの発達や保育に関わる職業について関心を持ち、地域の保育や子育て支援を通じて子どもの健やかな発達に寄与しようとする意欲的な態度を身につけている | | | | | |
| 評価の場面 | 考査 | 考査以外 | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
| | 考査 | 実技 テスト | 実習 レポート | 実習 | ワーク ノート | 振り返り自 己評価 |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | | | | |
| II 思考・判断・表現 | ○ | | ◎ | ○ | ○ | ○ |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ○ | ◎ | ○ | ○ |

※記号の凡例 (◎：特に重視する、○：重視する)

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|------|----------|----|--------------------------------------|------------------|------|
| 家庭 | 保育基礎 | 3年 選択 | 2 | 保育基礎 ようこそ、ともに育ち合う 保育の世界へ(教育図書) | 保育基礎ワークノート(教育図書) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-------------------------|------------|------------------|------------------------------|--|---|
| 4 | 第一回 考 査 範 囲 | オリエンテーション | 1 | 年間の授業計画や評価方法について | | |
| | | 第1章 子どもの保育 | 5 | 1保育の意義 2保育の環境 3保育の方法 | ・保育には子どもの生涯の人格形成の基礎を 培う重要な意義があることを理解し、保育者の あるべき姿とはどのようなものであるべきか考 える ・現代の子どもや子育て家庭を取り巻く環境の 問題、多様な保育のニーズに関する課題を知 り、子どもの健やかな発達のための適切な保育 環境について考える | A・B・C |
| 5 | | 第2章 子どもの発達 | 11 | 1子どもの発達の特性 2乳幼児の発育と発達 | ・発達には順序性・連続性・方向性・相互性とい う一定の共通性がある一方で、個人差が大きい ことを理解する ・乳幼児期の発育について、各部位の目安や 評価法を知る ・乳幼児の生理的特徴と愛着形成を学び、安全 基地としての親の役割とその重要性を理解する ・子どもの発達の個人差に配慮しながら保育者 としてどのように接するべきか考える | A・B・C A・B・C |
| 6 | 第二回 考 査 範 囲 | 考 査 | 1 | | | |
| | | 第3章 子どもの生活 | 4 | 1子どもの健康と生活 | ・基本的な生活習慣と社会的な生活習慣の違いを 理解し、その具体的な内容を知る | A・B・C |
| 7 | | | 10 | 2子どもの食事 | ・食事が生活習慣の確立や心の発達に重要な 役割を持つことを認識する | A・B・C |
| 8 | | | 3 | 3子どもの衣服と寝具 | ・乳幼児に適した被服の素材を知り、適切な被 服計画が出来るようになる | A・B・C |
| 9 | 第三回 考 査 範 囲 | 考 査 | 1 | | | |
| | | 第3章 子どもの生活 | 6 | 4子どもの健康と安全 | ・子ども特有の病気について知り、予防接種の 大切さを理解する。また、病気の際に落ち着い て対処するための知識を得る ・住まいに潜む危険性について理解し、身近な 場所の危険性についても考えることができる | A・B・C |
| 10 | | 第4章 子どもの福祉 | 4 | 1保育にみる児童観 | ・子どもが保護・養育される権利を持ち、尊重さ れるべき存在であると認識されるまでの歴史を知 る | A・B・C |
| 11 | 第四回 考 査 範 囲 | | 5 | 2児童福祉の理念と法規・制度 | ・日本の児童観の変遷と、社会環境や法制度 のしくみについて理解する | A・B・C |
| 12 | | 考 査 | 1 | | | |
| | | 第5章 子どもの文化 | 3 | 1子どもの文化の意義 2子どもの文化を支える場 | ・近年の少子化、高度情報化の影響で、子ども や子ども文化を取り巻く環境に変化が起きている ことを知り、それに伴う課題を理解する | A・B・C |
| | 1 | | 7 | 3子どもと遊び | ・子どもの遊びの内容や時間・場所・仲間など が、近年の社会の変化の影響を受けて変容して いることを知り、どのような課題があるか考 える | A・B・C |
| | | | 6 | 4子どもの表現活動 | ・子どもの表現活動によって培われる能力を知 る | A・B・C |
| | 考 査 | | 1 | | | |
| | | | 1 | | | |

3年 フードデザイン（選択）

○ 学 習 の ね ら い

- ・栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどについて体系的・系統的に理解すると共に、関連する技術を身につけるようにする。
- ・食生活の現状から食生活全般に関する課題を発見し、食生活の充実向上を担う職業人として、合理的かつ創造的に解決する力を養う。
- ・食生活の充実向上を目指して自ら学び、食生活の総合的なデザインと、食育の推進に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

○ 学 習 方 法

1 授 業 前 ～ 予 習 ～

座学では、前回の学習内容を確認し、教科書を一通り読んでおくこと。
実習については、実習の目的と内容を確認し、手順を頭に入れておくこと。

2 授 業 中 ～ 授業中の注意点 ～

座学では、板書のみならず口頭での説明も聞き、大切なことはメモを取りながら受ける。
実習では、先生の指示をふまえて、積極的・自主的かつ安全に配慮して行動する。

3 授 業 後 ～ 復 習 ～

座学では、ワーク・プリント類がまとめられているかを確認し、不十分な所は先生に質問して補っておく。
実習では、まとめのレポートを書き上げる。その際に空欄などないようにきちんと書き上げること。
また、学習したことを家庭生活に活かせるように、学習後も実践すること。

○ 評 価 の 方 法

- ・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は原則60%とする。

| 観点ごとのポイント | | | | | | |
|----------------|---|-----------------|--------|-----------|-------|--------------|
| I 知識・技能 | 栄養、食品、献立、調理、テーブルコーディネートなどに関する知識を体系的に理解しているとともに、それらに関わる技能を身に付けている。 | | | | | |
| II 思考・判断・表現 | 食生活の現状から食生活全般に関する課題を見出し思考を深め、食生活向上に向け、創造的に解決する力を身に付けている。 | | | | | |
| III 主体的に取り組む態度 | 食生活に関する諸問題に関心をもち、自ら学び、食育の推進に向けて積極的に取り組もうとする態度を身に付けている。 | | | | | |
| 評価の場面 | 考査 | 考査以外 | | | | |
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
| | 考査 | 小テスト (筆記・実技) | 実習レポート | パフォーマンス課題 | 学習ノート | 振り返り 自己評価 |
| I 知識・技能 | ◎ | ◎ | ○ | ○ | ○ | |
| II 思考・判断・表現 | ○ | | ◎ | ◎ | ◎ | ○ |
| III 主体的に取り組む態度 | | | ○ | ○ | ○ | ○ |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|---------|----------|----|---------------------------------------|-------------------------|------|
| 家庭 | フードデザイン | 3年 選択 | 2 | フードデザイン Food Change LIFE (教育図書) | フードデザインワークノート (教育図書) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-------------------------|------------------|------------------|---|---|---|
| 4 | 第一回 考 査 範 囲 | オリエンテーション | 17 | 年間の授業計画や評価方法について | | |
| | | 第1章 健康と食生活 | | 1食事の意義と役割 2食を取り巻く現状 | ・食べることの意義と役割を理解すると共に家族や仲間と共に食べることの意義を知る。 ・食生活に関する諸問題を知り、どのように食べていくべきなのかを考えることが出来る。また、青年期の食生活の特徴や日本の食に関する問題を理解する。 | A・B・C |
| 5 | | 第2章 栄養素と食品 | | 1栄養素と消化・吸収 2各栄養素のはたらき 4何をどれだけ食べるか | ・五大栄養素とそのはたらきについて理解する。 ・各五大栄養素の種類と役割、代謝について理解する。 ・日本人の食事摂取基準や食品群別摂取量の目安について知り、自分に必要な栄養素とそれが含まれる食品について考える。 ・年齢や性別、運動量などの違いによって必要とされる栄養素に違いがあることを知り、ライフステージごとの特徴を理解する。 | A・B・C |
| 6 | 考 査 | 実践編 献立と調理 | 1 | ・調理実習(2～3回) | | A・B・C |
| 7 | 第二回 考 査 範 囲 | 第3章 食品の選択と取り扱い | 16 | 1食品選択のコツ 2食品の衛生と安全 3食の安全を考えて選ぶ | ・食品に記載された情報の正しい見方を知り、食品選択に役立てるようになる。 ・食物アレルギーについて理解する。 ・食中毒の種類や危険性について知り、適切な予防が出来るようになる。 | A・B・C |
| 8 | | 第4章 調理してみよう | | 1なぜ調理するのか 2調理操作と調理器具 ・調理実習(1～2回) | ・調理には様々な機能があることを理解する。 ・食べ物のおいしさには何が影響するか考える。 ・非加熱操作と非加熱調理の種類と用いる調理器具について知る。また調理器具の特徴としくみを理解し、正しく使用できるようになる。 | A・B・C |
| 9 | | 実践編 献立と調理 | | | | A・B・C |
| 10 | 第三回 考 査 範 囲 | 第2章 栄養素と食品 | 18 | 3食品とその特徴 | ・さまざまな食品について、特徴とその調理法、加工について理解する。 ・加工食品や健康食品について正しい知識を身につける。 | A・B・C |
| 11 | | 実践編 献立と調理 | | ・調理実習(2～3回) | | A・B・C |
| 12 | 考 査 | | 1 | | | |
| 1 | 第四回 考 査 範 囲 | 第5章 各国料理とコーディネート | 15 | 1料理の様式 2テーブルコーディネート | ・各様式の献立構成、食卓構成、作法を理解する。 ・テーブルコーディネートの基本をふまえ、食事のテーマにふさわしい食卓の整え方や環境作りの技術を身につけている。 | A・B・C |
| 2 | | 第6章 食育と食育推進活動 | | 1食育推進の取り組み 2食文化を見つめる 3食と環境について考えよう | ・食育について、家庭・学校・地域・企業それぞれの取り組みについて知り、主体的に取り組むことができるようになる。 ・郷土料理など、日本の食文化について知り、継承の担い手としての意識をもつ。 日本の食料自給率と問題点、また食品ロスについて学び、自分や社会が取り組むべき問題について考える。 | A・B・C |
| | | 実践編 献立と調理 | | ・調理実習(1～2回) | | A・B・C |
| | 考 査 | | 1 | | | |
| | | | | | | |

3年 情報処理

○ 学 習 の ね ら い

・実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○ 学 習 方 法

※ 実習が中心となる科目である。できる限り欠席しないこと。情報処理室の利用について違反しないこと。

教科書・副教材・筆記用具を忘れずに持参し、授業時間前に入室を完了すること。

1 授業の前 ～ 予習 ～

・教科書・副教材を本文だけではなく、図や注釈なども含めてよく読みましょう。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

・座学の授業では、ワークシートに授業の内容を記入して提出する。記入漏れや間違いがあった場合に再提出する。

・実習の授業では、例題に取り組んだ後、発展問題に取り組む。授業では、集中し、ポイントを理解する。

3 授業後 ～ 復習 ～

・教科書・副教材を読み、振り返りをする。

・情報社会に主体的に参画するには、情報に関する知識と技能の習得が大切なので、定期考査前だけでなく、日頃から予習・復習に取り込むこと。

○ 評 価 の 方 法

・下記の観点に基づいて 100 点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は 60%以上を原則とする。

| 観点ごとのポイント | |
|----------------|--|
| I 知識・技能 | 企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 |
| II 思考・判断・表現 | 企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決しようとしている。 |
| III 主体的に取り組む態度 | 企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 |

| 評価の場面 | 考査 | 考査以外 | | | | |
|----------------|----|-------------|---------------|----|------------|----|
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
| | 考査 | 学習状況 の観察 | プレゼンテー ション | 課題 | ワーク シート | 作品 |
| I 知識・技能 | ◎ | | ○ | | | ○ |
| II 思考・判断・表現 | ○ | | ◎ | ○ | | ◎ |
| III 主体的に取り組む態度 | | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ |

※記号の凡例（◎：特に重視する、○：重視する）

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|------|----------|----|--|-----------------------------------|------|
| 商業 | 情報処理 | 3年 選択 | 2 | 最新情報処理 Advanced Computing (実教出版) | 30時間でマスターWord&Excel2021 (実教出版) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主 な 学 習 内 容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到 達 目 標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自 己 評 価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-------------------------|---|------------------|---|--|---|
| 4 | 第一回 考 査 範 囲 | オリエンテーション 1章 企業活動と情報処理 1節 情報処理の重要性 2節 情報モラルと法規 3節 コミュニケーションと情報デザイン | 16 | ・授業の進め方、評価、情報処理室の使い方について ・身近な事例を基に情報とは何かを考える学習活動により、情報の意義と役割を理解する。 ・社会で利用されている情報システムの例や、ビジネスにおける情報活用の実際を学ぶことにより、コンピュータを利用した情報の処理を理解する。 | ・情報の意義と重要性について考え、説明することができる。 ・日常利用しているさまざまな情報システムに関心を持ち、その意義や役割を考え、理解することができる。 | A・B・C A・B・C |
| 5 | | 2章 コンピュータシステムと情報通信 2節 情報通信ネットワークのしくみと構成 3節 インターネットの活用 4節 情報セキュリティの確保 4章 ビジネス文書の作成 1節 ビジネス文書と表現 2節 基本文書の作成 1. ワープロの操作と入力方法 2. ワープロを利用した文書の作成 3. 社外文書 4. 社内文書 | | ・身近な事例から情報の価値を考える学習活動により、情報を正しく取り扱うことの大切さに気づき、そのために必要な情報モラルの基本的な考え方や態度について理解する。 ・コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ハードウェアとソフトウェアの種類と機能について理解するとともに、それを活用する基本的な技術を身に付けている。 ・基本的な社外文書や社外文書を取り上げて、作成に関する知識と技術について理解する。 | ・身近な事例で情報モラルにもとづいた正しい行動のあり方を考え、説明することができたか。また、そのように行動しようとする態度を身に付ける。 ・コンピュータの基本的な機能と構成を理解し、ビジネスに活用できるハードウェアとソフトウェアの機能を活用することができる。 ・ワープロの基本的な機能を利用して様々な文書が作成でき、ワープロの機能などを理解できる。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 6 | 考 査 | | 1 | | | |
| 7 | 第二回 考 査 範 囲 | 3節 応用文書の作成 3章 情報の集計と分析 1節 ビジネスと統計 2節 関数を利用した表の作成 3節 グラフの作成 | 16 | ・ワープロの多様な機能を利用して、表やグラフなどを含む応用的な文書の作成に関する知識と技術について理解する。 ・情報の重要性を理解し、情報を分析して、傾向を把握する能力を身に付ける。 ・基本的な操作や計算式及び関数について理解し、目的に応じて適切な表を作成する技術を身に付ける。 ・グラフの種類や構成要素、特色を理解し、表計算ソフトウェアを利用して目的に合ったグラフ作成方法について理解する。 | ・計算機能やグラフ、イラストなどを利用した表現力に富んだ文書の作成に積極的に取り組み、必要に応じて様々な機能を選択できるか。 ・情報の重要性について理解するとともに、情報を分析して適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができる。 ・基本的な操作や関数等について理解し、表を作成する技術を身に付けるとともに、適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができる。 ・目的に応じた適切なグラフを作成し、グラフから読み取れる内容を理解できる。 | A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C |
| 8 | | | | | | |
| 9 | 考 査 | | 1 | | | |
| 10 | 第三回 考 査 範 囲 | 3章 情報の集計と分析 4節 情報の整列・検索・抽出 5節 問題の発見と解決の方法 | 17 | ・データを目的に応じた利用しやすい形で活用するために、表計算ソフトのデータベース機能を利用して、整列や検索、抽出の技法について理解する。 ・ビジネスに関する問題の発見と解決について、自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用について理解する。 | ・基準のキー項目でデータの整理ができる。フィルタ機能などを利用して、データの分類や整列、必要なデータの検索、抽出の方法を身に付ける。 ・ビジネスに関する問題の発見と解決について、自ら学び、適切な情報の提供と効果的な活用について主体的かつ協働的に取り組もうとしている。 | A・B・C A・B・C |
| 11 | 考 査 | | 1 | | | |
| 12 | 第四回 考 査 範 囲 | 5章 プレゼンテーション 1節 プレゼンテーションの技法 2節 ビジネスにおけるプレゼンテーション | 16 | ・ビジネス活動におけるプレゼンテーションの意義を理解するとともに、基礎的な技法を身に付ける。 ・目的や形態によるプレゼンテーション方法の違いについて理解するとともに、プレゼンテーションソフトウェアを活用した実習を通して、資料の作成などの発表準備から発表までの一連の活動について理解を深める。 | ・プレゼンテーションの活動の意義や役割を理解するとともに、情報収集や整理、内容構成など、プレゼンテーションの準備から評価改善に至るまでの一連の流れや基礎的な技法を身に付ける。 ・目的や形態に応じた適切な方法で資料作成などの準備ができている。 | A・B・C A・B・C |
| 1 | | | | | | |
| 2 | | | | | | |
| 3 | 考 査 | | 1 | | | |
| 3 | | 総復習 | 1 | | | |

3年 ビジネス基礎

○ 学 習 の ね ら い

- ・実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、経済社会の持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

- ・次回学習する箇所について新聞やニュース、インターネットを利用して事前に最低限の知識をつけておくこと。

2 授 業 中 ～ 授業中の注意点 ～

- ① 授業の開始、終了の「挨拶」をしっかりする。
- ② 板書するだけでなく、重要だと思った説明は先生の指摘がなくとも自らノートに書き留める。また、電卓や実務的な実習にも積極的に取り組む。授業は集中して聞く。

3 授 業 後 ～ 復習 ～

- ① 授業で学習したことを新聞やニュース、インターネットを利用し知識を深め、日常生活に生かす。
- ② 問題集を解き、授業の理解度を確認する。

○ 評 価 の 方 法

- ・下記の観点に基づいて 100 点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は 60%以上を原則とする。

| 観点ごとのポイント | |
|----------------|---|
| I 知識・技能 | ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解し、ビジネスの様々な場面で役に立つ、ビジネスに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。 |
| II 思考・判断・表現 | ビジネスをはじめとして様々な知識、技術を活用し、ビジネスに関する課題を発見するとともに、企業活動が社会に及ぼす影響を踏まえ、市場の動向、ビジネスに関する理論、データ、成功事例や改善に要する根拠に基づいて工夫してよりよく解決することについて考えている。 |
| III 主体的に取り組む態度 | ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らビジネスについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して、当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にに関わり、ビジネスの創造と発展に責任をもって取り組もうとしている。 |

| 評価の場面 | 考査 | 考査以外 | | | | |
|----------------|----|-------------|---------------|----|------------|----|
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
| | 考査 | 学習状況 の観察 | プレゼンテ ーション | 課題 | ワーク シート | 作品 |
| I 知識・技能 | ◎ | | ○ | | | ○ |
| II 思考・判断・表現 | ○ | | ◎ | ○ | | ◎ |
| III 主体的に取り組む態度 | | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ |

※記号の凡例 (◎：特に重視する、○：重視する)

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|--------|----------|----|------------------|------------------------|------|
| 商業 | ビジネス基礎 | 3年 選択 | 2 | ビジネス基礎 (実教出版) | ビジネス基礎 準拠問題集 (実教出版) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A: 理解できた B: まあまあ C: 理解できなかった |
|----|-----------------------------|--|------------------|---|---|--|
| 4 | 第一 回 考 査 範 囲 | 第1章 商業の学習とビジネス 1. いざ、ビジネスの世界へ 2. 私たちの社会とビジネス | 16 | ・商業を学ぶ重要性和学び方、ビジネスの概要について理解します。 ・ビジネスの役割について、企業の社会的責任や、環境、エネルギー、食料などの社会的な課題及びビジネスの動向・課題について具体的な事例と関連付けて学びます。 ・実践する力、職業人として必要な豊かな人間性、他者と協働する力を身に付けます。 | ・商業を学ぶ重要性和学び方、ビジネスの概要について理解している。 ・商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、経済社会の持続的な発展と関連について考えている。 ・ビジネスの基礎的な事項について自ら学び、ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 5 | | 第2章 ビジネスとコミュニケーション 1. コミュニケーション 2. ビジネスマナー 3. 情報の入手と活用 第7章 ビジネス計算 1. ビジネス計算の基礎 2. ビジネス計算の応用 | | ・ビジネスにおける信頼関係構築の意義と重要性を学びます。 ・ビジネスマナーの意義を理解し、場面に応じて考え、活動できる力を身に付けます。 ・企業活動における情報の重要性について理解し、情報の活用及び評価・改善を行います。 ・ビジネス計算に関する知識や技術を学びます。 ・ビジネス計算について学び、その知識と技術で組織の一員としての役割を果たすことができる力を身に付けます。 | ・ビジネスにおける信頼関係構築について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けている。 ・ビジネスの場面を分析し、ビジネスにおいて他者への対応について考えている。 ・情報を入力して活用し、評価・改善している。ビジネスに主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・ビジネス計算について実務に即して理解するとともに、関連する技術が身につけている。 ・ビジネス計算について自ら学び、主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C |
| 6 | | 第3章 経済と流通の基礎 1. 経済の仕組みとビジネス 2. 経済活動と流通 | | ・経済の仕組みと流通の必要性について理解します。 ・経済の基本概念、流通の役割など経済と流通に関する知識を基盤として、流通に関する課題を発見し、その解決方法を考えます。 ・流通を支える組織の一員としての役割を果たすことができる力を身に付けます。 | ・経済と流通について経済社会における事例と関連付けて理解している。 ・経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 ・経済と流通について自ら学び、経済の基本概念を踏まえ、流通と流通を支える活動に組織の一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 7 | 第二 回 考 査 範 囲 | 第4章 さまざまなビジネス 1. ビジネスの種類 2. 小売業 3. 卸売業 4. 金融業 5. 情報通信業 | 16 | ・ビジネスの種類について理解し、流通や流通に関わる様々なビジネスについて学びます。 ・流通や流通に関わるビジネスに関する知識を基盤として、流通や流通に関わる様々なビジネスに関する課題を発見し、その対応策を考えます。 ・流通や流通に関わる組織の一員としての役割を果たすための力を身に付けます。 | ・ビジネスの種類と流通や流通に関わる様々なビジネスについて、経済社会における事例と関連付けて理解している。 ・流通や流通に関わる様々なビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 ・流通や流通に関わる様々なビジネスについて自ら学び、これらの組織の一員として主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 8 | | | | | | |
| 9 | | | | | | |
| 10 | 第三 回 考 査 範 囲 | 第5章 企業活動の基礎 1. ビジネスと企業 2. マーケティングの重要性 3. 資金調達 4. 財務諸表の役割 5. 企業活動と税 6. 雇用 第6章 ビジネスと売買取引 1. 売買取引の手順 2. 代金決済 | 17 | ・企業活動の形態と組織、マーケティングの重要性和流れなど企業活動に必要な知識を学びます。 ・企業活動に関する知識を基に、企業活動の動向など、企業活動に関する課題を発見し、その対応策を考えます。 ・企業活動の展開について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身に付けます。 ・売買取引、代金決済など取引に関する知識や技術を学びます。 ・取引に関する知識や技術を基に、実務における取引に関する課題を発見し、その対応策を考えます。 ・契約の履行と締結について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身に付けます。 | ・企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解している。 ・企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 ・企業活動について自ら学び、企業活動に関する事例などを踏まえ、企業活動に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 ・取引について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身につけている。 ・取引に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考えている。 ・取引について自ら学び、適切な契約の締結と履行に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C |
| 11 | | | | | | |
| 12 | | | | | | |
| 1 | 第四 回 考 査 範 囲 | 第8章 身近な地域のビジネス 1. さまざまな地域の魅力と課題 2. 地域ビジネスの動向 | 16 | ・さまざまな地域の魅力と課題、地域ビジネスの動向について学びます。 ・身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、その対応策を考えます。 ・ビジネスの振興による地域の発展について、組織の一員としての役割を果たすことができる力を身に付けます。 | ・さまざまな地域のビジネスについて理解している。 ・身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興策を考え、実施及び評価・改善を行っている。 ・ビジネスの振興による地域の発展に主体的かつ協働的に取り組んでいる。 | A・B・C A・B・C A・B・C |
| 2 | | | | | | |
| 3 | | | | | | |
| 3 | 総復習 | | 1 | | | |

3年 ビジネス・コミュニケーション

○ 学 習 の ね ら い

・実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

○ 学 習 方 法

1 授業の前 ～ 予習 ～

・教科書・副教材を本文だけではなく、図や注釈なども含めてよく読みましょう。

2 授業中 ～ 授業中の注意点 ～

- ① 授業の開始、終了の「挨拶」をしっかりする。
- ② 板書するだけでなく、重要だと思った説明は先生の指摘がなくとも自らノートに書き留める。また、実務的な実習にも積極的に取り組む。授業は集中して聞く。

3 授業後 ～ 復習 ～

- ① 授業で学習したことを新聞やニュース、インターネットを利用し知識を深め、日常生活に生かす。
- ② 問題集を解き、授業の理解度を確認する。

○ 評 価 の 方 法

・下記の観点に基づいて100点満点で評価を行う。このうち、定期考査の割合は60%以上を原則とする。

| 観点ごとのポイント | |
|----------------|--|
| I 知識・技能 | 実際のビジネスにおけるコミュニケーションと関連付け、ビジネスの様々な場面で役に立つコミュニケーションに関する知識と技術を身に付けている。 |
| II 思考・判断・表現 | ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見するとともに、コミュニケーションに関する理論、成功事例や改善を要する事例など科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく解決する力を養っている。 |
| III 主体的に取り組む態度 | 自らコミュニケーションについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識をもち、他者と信頼関係を構築して積極的にビジネスにおいて日本語や外国語を用いてコミュニケーションを図る態度を養っている。 |

| 評価の場面 | 考査 | 考査以外 | | | | |
|----------------|----|-------------|---------------|----|------------|----|
| | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | ⑥ |
| | 考査 | 学習状況 の観察 | プレゼンテー ション | 課題 | ワーク シート | 作品 |
| I 知識・技能 | ◎ | | ○ | | | ○ |
| II 思考・判断・表現 | ○ | | ◎ | ◎ | ○ | ◎ |
| III 主体的に取り組む態度 | | ○ | ○ | ○ | ◎ | ○ |

※記号の凡例 (◎：特に重視する、○：重視する)

| 教科 | 科目 | クラス | 単位 | 使用教科書(発行所) | 使用副教材(発行所) | 総時間数 |
|----|----------------|----------|----|--------------------------|-------------------------------|------|
| 商業 | ビジネス・コミュニケーション | 3年 選択 | 2 | ビジネス・コミュニケーション (実教出版) | ビジネス・コミュニケーション準拠問題集 (実教出版) | 70 |

年間授業計画

| 月 | 考 査 | 単元(授業展開) | 授 業 時 数 | 主な学習内容 ※どのような内容を学ぶのか？ | 到達目標 ※どのようなことを身に付けたいか。 | 自己評価 A:理解できた B:まあまあ C:理解できなかった |
|----|-------------------------|--|------------------|---|---|---|
| 4 | 第一回 考 査 範 囲 | オリエンテーション 1編 1章 企業の組織と人間関係 | 16 | ・授業の進め方、評価について ・企業の組織と意思決定 ・業務の進行方法 ・仕事に対する心がまえ ・人的ネットワークの構築 | ・組織の構造と意思決定の関係を理解する。 ・業務の適切な進行方法やそれを実践する重要性を理解する。 ・社会人としての心構えと良好な人間関係を築く必要性を理解する。 ・人的ネットワークや顧客との信頼関係を構築することの重要性を理解する。 | A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C |
| 5 | | 2章 対応に関するビジネスマナー | | ・挨拶 ・身だしなみ・表情・身のこなし ・言葉遣い ・名刺交換と紹介 ・訪問・来客の応対 ・電話の応対 ・席次のマナー | ・場面に応じた挨拶やお辞儀を理解し、実践する。 ・身だしなみ・表情・身のこなしなどを理解し、実践する。 ・敬語やコミュニケーションの言葉など、適切な言葉遣いを理解し、実践する。 ・名刺交換の方法と紹介のルールを理解し、実践する。 ・訪問・来客の対応などを理解し、実践する。 ・電話対応における適切なコミュニケーションを理解し、実践する。 ・席次のマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、実践する。 | A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C |
| 6 | 考 査 | | 1 | | | |
| 7 | 第二回 考 査 範 囲 | 3章 交際に関するビジネスマナー | 16 | ・交際のマナー ・食事のマナー | ・冠婚葬祭の基礎知識、贈答・慶事・弔事などのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、実践する。 ・食事のマナーの基本、西洋料理・日本料理・中国料理・立食スタイルでのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解し、実践する。 | A・B・C A・B・C |
| 8 | | 4章 接客に関するビジネスマナー | | ・接客 ・ホスピタリティの概念と重要性 | ・効果的な接客に必要な知識や態度について理解し、実践する。 ・ホスピタリティについて理解し外国人に対する接客の注意点について考察する。 | A・B・C A・B・C |
| 9 | 考 査 | | 1 | | | |
| 10 | 第三回 考 査 範 囲 | 3編 5章 コミュニケーションの役割と思考方法 6章 ビジネスにおけるコミュニケーション | 17 | ・コミュニケーションの役割と種類 ・ビジネスコミュニケーションの基本 ・ビジネスにおける思考方法 ・ディベート ・ディスカッション ・プレゼンテーション | ・ビジネスコミュニケーションの役割と種類を学習し、その重要性を理解する。 ・ビジネスコミュニケーションの場面と心得を理解する。 ・論理的な考え方とビジネスにおけるフレームワークを理解する。 ・ディベートの方法を理解し、主体的に活動に参加する。 ・ディスカッションの方法や意義を理解し、討論することができる。 ・プレゼンテーションツールを使い、分かりやすい発表を行うことができる。 | A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C |
| 11 | | 7章 コミュニケーションとビジネススキル | | ・交渉、苦情対応 ・商品説明とワークショップ ・ソーシャルメディアを活用した情報発信 ・会議 ・文書におけるコミュニケーション | ・交渉、苦情対応など場面に応じた適切な行動を理解し、実践する。 ・店頭やネットショップ、ワークショップにおける効果的な商品説明について理解し、実践する。 ・ソーシャルメディアによる情報発信の有用性と注意点について理解し、実例を挙げることができる。 ・会議の目的と種類、基本的な流れや会場設置、議事の進め方などについて理解する。 ・文書の種類と内容、社外文書・社内文書の作成方法、電子メールの利用、などについて理解する。 | A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C A・B・C |
| 12 | 考 査 | | 1 | | | |
| 1 | 第四回 考 査 範 囲 | 4編 8章 企業活動のグローバル化 | 16 | ・国際化の進展とビジネス ・国際ビジネスにおけるコミュニケーション | ・市場の国際化、ビジネスシーンの国際化について理解する。 ・ビジネスに必要な英語について自ら学び、ビジネスにおける外国人への対応に主体的かつ協働的に取り組む。 | A・B・C A・B・C |
| 2 | | 9章 ビジネスの会話 | | ・国内での接客 ・商談と会議 | ・商談や会議を行う際に必要な英語について実務に即して理解する。また、関連する技術を身につける。 ・ホテルのチェックアウトから空港での出国手続に至るまで帰国の際に必要な英語について実務に即して理解する。また、関連する技術を身につける。 | A・B・C A・B・C |
| 3 | 考 査 | | 1 | | | |
| 3 | | 総復習 | 1 | | | |

第 1 回定期考査学習計画

【1】定期考査日程

| 考査時間割 | 1校時 | 2校時 | 3校時 |
|--------|-----|-----|-----|
| 月 日 曜日 | | | |
| 月 日 曜日 | | | |
| 月 日 曜日 | | | |
| 月 日 曜日 | | | |

【2】各科目の目標とテスト対策

| 科目 | 目標点 | テスト対策(主にやること) | 考査点 |
|--------------|-----|-------------------------|----------|
| 記入例 | 80 | ワークの問題を1日1ページ、テストまで2回解く | 実際の点数を記入 |
| 論理国語 | | | |
| 文学国語 | | | |
| 古典探究 | | | |
| 政治・経済 | | | |
| 英語コミュニケーションⅢ | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

論理・表現Ⅲ以下は、自分の選択科目に応じて加筆してください。

【3】 学習計画と記録

[illegible]

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

【1】定期考查日程

| 考查時間割 | 1校時 | 2校時 | 3校時 |
|--------|-----|-----|-----|
| 月 日 曜日 | | | |
| 月 日 曜日 | | | |
| 月 日 曜日 | | | |
| 月 日 曜日 | | | |

【2】各科目の目標とテスト対策

[illegible]

【3】学習計画と記録

[illegible]

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

| 考查時間割 | 1校時 | 2校時 | 3校時 |
|--------|-----|-----|-----|
| 月 日 曜日 | | | |
| 月 日 曜日 | | | |
| 月 日 曜日 | | | |
| 月 日 曜日 | | | |

[illegible]

【3】 学習計画と記録

[illegible]

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ　モ

| 考查時間割 | 1校時 | 2校時 | 3校時 |
|--------|-----|-----|-----|
| 月 日 曜日 | | | |
| 月 日 曜日 | | | |
| 月 日 曜日 | | | |
| 月 日 曜日 | | | |

[illegible]

【3】 学習計画と記録

[illegible]

【8】現在の自分の学習において、先生に聞きたいことや相談したいこと、悩みごとは何ですか？

【9】今期の学校生活・家庭生活を振り返り、良かった点・反省点をあげてみましょう。

【10】今回の考査全体を振り返っての反省や感想、次回考査に向けての意気込みを書きましょう。

【11】担任記入欄・検印

メ モ

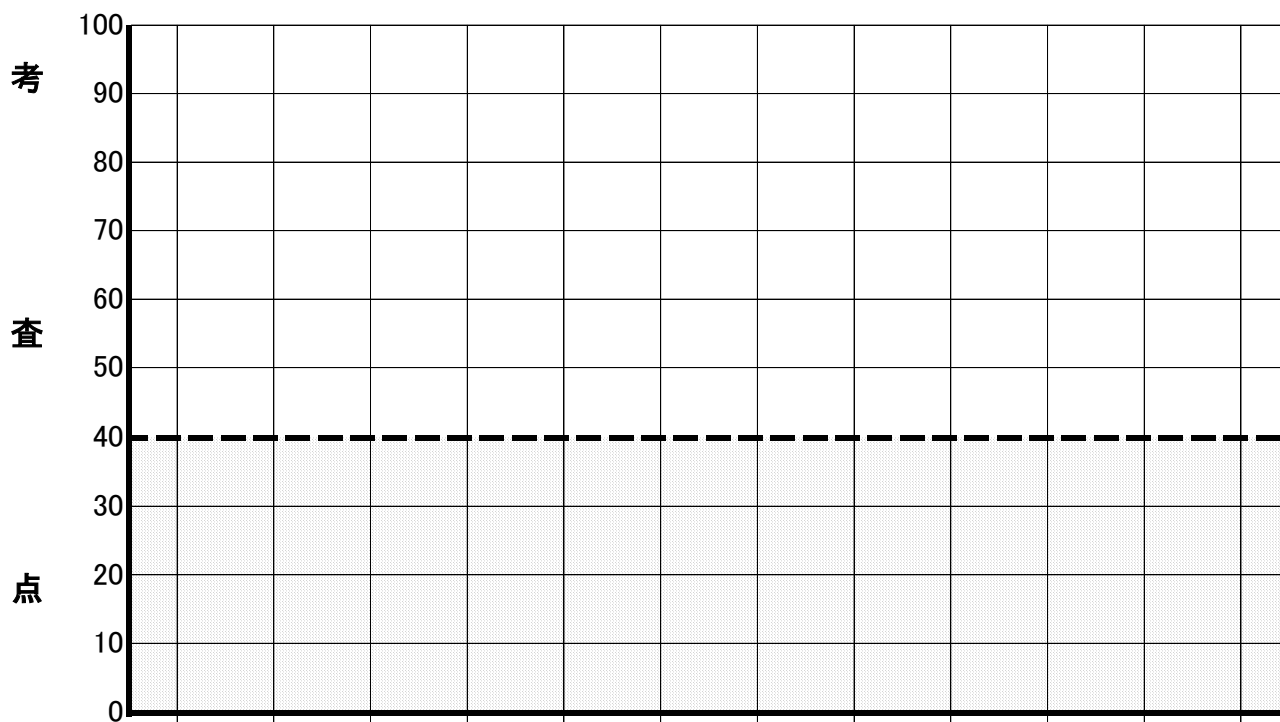
○ 考查点・評価点をまとめよう。

1期:黒

2期:赤

3期:青

4期:緑



| 科目名 | | | | | | | | | | | | | |
|-------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 1期考查点 | | | | | | | | | | | | | |
| 2期考查点 | | | | | | | | | | | | | |
| 3期考查点 | | | | | | | | | | | | | |
| 4期考查点 | | | | | | | | | | | | | |

○ 評価点
のまとめ

| | | | | | | | | | | | | | |
|--------------|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|--|
| 1期評価点 | | | | | | | | | | | | | |
| 2期評価点 | | | | | | | | | | | | | |
| 3期評価点 | | | | | | | | | | | | | |
| 3期までの 合計点 | | | | | | | | | | | | | |
| 目標評定 | | | | | | | | | | | | | |
| 4期 目標点 | | | | | | | | | | | | | |
| 4期評価点 | | | | | | | | | | | | | |

評定「5」: 評価点80~100点

評定「4」: 評価点65~79点

評定「3」: 評価点45~64点

評定「2」: 評価点30~44点

評定「1」: 評価点29点以下

私のスケジュール

起床時間・就寝時間・学習時間など記入しましょう

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|-------|---|---|---|---|---|---|---|
| 5:00 | | | | | | | |
| 6:00 | | | | | | | |
| 7:00 | | | | | | | |
| 8:00 | | | | | | | |
| 9:00 | | | | | | | |
| 10:00 | | | | | | | |
| 11:00 | | | | | | | |
| 12:00 | | | | | | | |
| 13:00 | | | | | | | |
| 14:00 | | | | | | | |
| 15:00 | | | | | | | |
| 16:00 | | | | | | | |
| 17:00 | | | | | | | |
| 18:00 | | | | | | | |
| 19:00 | | | | | | | |
| 20:00 | | | | | | | |
| 21:00 | | | | | | | |
| 22:00 | | | | | | | |
| 23:00 | | | | | | | |
| 0:00 | | | | | | | |

私のスケジュール

起床時間・就寝時間・学習時間など記入しましょう

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|-------|---|---|---|---|---|---|---|
| 5:00 | | | | | | | |
| 6:00 | | | | | | | |
| 7:00 | | | | | | | |
| 8:00 | | | | | | | |
| 9:00 | | | | | | | |
| 10:00 | | | | | | | |
| 11:00 | | | | | | | |
| 12:00 | | | | | | | |
| 13:00 | | | | | | | |
| 14:00 | | | | | | | |
| 15:00 | | | | | | | |
| 16:00 | | | | | | | |
| 17:00 | | | | | | | |
| 18:00 | | | | | | | |
| 19:00 | | | | | | | |
| 20:00 | | | | | | | |
| 21:00 | | | | | | | |
| 22:00 | | | | | | | |
| 23:00 | | | | | | | |
| 0:00 | | | | | | | |